

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第66集

NAKANISINOKUBO

中西ノ久保遺跡群 中西ノ久保遺跡Ⅱ

NAKATA

寺畑遺跡群 仲田遺跡

TERABATAKE

寺畑遺跡群 寺畑遺跡Ⅱ

長野県佐久市大字岩村田中西ノ久保遺跡発掘調査報告書

長野県佐久市大字猿久保仲田遺跡発掘調査報告書

長野県佐久市大字猿久保寺畑遺跡Ⅱ発掘調査報告書



1999. 3

佐久市建設部土木課
佐久市教育委員会

佐久市埋藏文化財調査報告書 第66集

NAKANISINOKUBO

中西ノ久保遺跡群 中西ノ久保遺跡Ⅱ

NAKATA

寺畑遺跡群 仲田遺跡

TERABATAKE

寺畑遺跡群 寺畑遺跡Ⅱ

長野県佐久市大字岩村田中西ノ久保遺跡発掘調査報告書

長野県佐久市大字猿久保仲田遺跡発掘調査報告書

長野県佐久市大字猿久保寺畑遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1999. 3

佐久市建設部土木課
佐久市教育委員会



写1 仲田遺跡H115号住居址出土鏡（花卉双蝶八花鏡）径7.6cm



写2 中西ノ久保遺跡Ⅱ全景（北から）



写3 中西ノ久保遺跡Ⅱ H41号住居址



写4 中西ノ久保遺跡Ⅱ H22号住居址かまど・粘土除去後かまど



写5 中西ノ久保遺跡Ⅱ H47号住居址かまど・かまど掘方



写6 仲田遺跡全景（南から）



写7 仲田遺跡調査風景（南から）



写8 仲田遺跡 H15号住居址鏡出土状況



写9 仲田遺跡 H6号住居址遺物出土状況



写10 仲田遺跡H15号住居址出土土師器



写11 仲田遺跡H1号住居址出土墨書土器



写12 中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡・寺畑遺跡Ⅱ工事終了状況（南から）

例 言











- 1 本書は、平成7年度佐久市建設部土木課による道路建設に伴う佐久市大字岩村田及び猿久保に所在する中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡・寺畑遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 長野県佐久市大字中込3056
佐久市建設部土木課
- 3 調査主体者 長野県佐久市大字中込3056
佐久市教育委員会 教育長 依田 英夫
- 4 調査期間 平成7年5月26日～平成7年10月6日（現場作業）
平成7年10月9日～平成11年3月31日（整理作業）
- 5 調査総面積 5,105㎡
- 6 本書の執筆・編集は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 8 仲田遺跡H4号住居址出土獣骨は宮崎重雄氏にご助言を得た。
- 9 中西ノ久保Ⅱ・仲田遺跡出土鉄器レントゲン写真は国保浅間総合病院のご協力を得た。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。

H—住居址 Ta—竪穴状遺構 F—掘立柱建物址 D—土坑
M—溝跡 P—ピット

- 2 スクリーントーンによる表示は以下のとおりである。

焼土  粘土  かまど  張り床 
堀方  柱痕  須恵器  黒色処理 
自然釉・灰釉  火だすき 

- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構—住居址 1/80 竪穴状遺構 1/80 土坑—1/80
掘立柱建物址 1/120 溝跡 1/40 1/80 1/240
遺物—土師器・須恵器・灰釉陶器 1/4 鉄器—1/1 1/2 1/4
上記以外については挿図個々に表示

- 4 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 5 土層・遺物の色調は、「新版標準土色帖」による。
- 6 中西ノ久保遺跡Ⅱの遺構名は中西ノ久保遺跡Ⅰに接続する。

目 次

巻頭カラー

例言・凡例

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 調査遺跡と調査体制	2
1 調査遺跡	2
2 調査体制	2
第3節 周辺遺跡の状況	4
第4節 調査遺構と出土遺物	8
第Ⅱ章 中西ノ久保遺跡II	9
第1節 竪穴住居址(H)	10
H 1号住居址	10
H 19号住居址	11
H 20号住居址	15
H 21号住居址	16
H 22号住居址	18
H 23号住居址	23
H 24号住居址	23
H 25号住居址	24
H 26号住居址	25
H 27号住居址	30
H 28号住居址	32
H 29号住居址	33
H 30号住居址	34
H 31号住居址	35
H 32号住居址	39
H 33号住居址	43
H 34号住居址	44
H 35号住居址	46
H 36号住居址	53
H 37号住居址	55
H 38号住居址	57
H 39号住居址	60
H 40号住居址	64
H 41号住居址	64
H 42号住居址	67
H 43号住居址	70
H 44号住居址	72
H 45号住居址	74
H 46号住居址	76
H 47号住居址	77
第2節 掘立柱建物址(F)	80
F 2号掘立柱建物址	80
F 3号掘立柱建物址	80
F 4号掘立柱建物址	81
F 5号掘立柱建物址	81
F 6号掘立柱建物址	82
F 7号掘立柱建物址	82
F 8号掘立柱建物址	82
F 9号掘立柱建物址	83
F 10号掘立柱建物址	83
F 11号掘立柱建物址	83

第3節	土坑(D).....	85
	D 5号土坑~D11号土坑.....	85
第4節	溝跡(M).....	87
	M 3号溝跡.....	87
	M 4号溝跡.....	89
	M 5号溝跡.....	90
	M 6号溝跡.....	91
	M 7号溝跡.....	91
第5節	金属製品.....	93
第6節	石製品.....	95
第7節	遺構外出土遺物.....	96
第三章	仲田遺跡.....	97
第1節	竪穴住居址(H).....	98
	H 1号住居址.....	98
	H 2号住居址.....	100
	H 3号住居址.....	103
	H 4号住居址.....	106
	H 5号住居址.....	109
	H 6号住居址.....	110
	H 7号住居址.....	115
	H 8号住居址.....	116
	H 9号住居址.....	117
	H10号住居址.....	119
	H11号住居址.....	120
	H12号住居址.....	121
	H13号住居址.....	123
	H14号住居址.....	124
	H15号住居址.....	127
	H16号住居址.....	130
	H17号住居址.....	134
	H18号住居址.....	135
	H19号住居址.....	137
	H20号住居址.....	139
	H21号住居址.....	141
	H22号住居址.....	144
	H23号住居址.....	147
	H24号住居址.....	150
	H25号住居址.....	151
	H26号住居址.....	153
	H27号住居址.....	157
	H28号住居址.....	159
	H29号住居址.....	161
	H30号住居址.....	165
第2節	掘立柱建物址(F).....	168
	F 1号掘立柱建物址.....	168
	F 2号掘立柱建物址.....	168
	F 3号掘立柱建物址.....	169
	F 4号掘立柱建物址.....	169
	F 5号掘立柱建物址.....	170
	F 6号掘立柱建物址.....	170
	F 7号掘立柱建物址.....	170
	F 8号掘立柱建物址.....	171
	F 9号掘立柱建物址.....	171
	F 10号掘立柱建物址.....	172
	F 11号掘立柱建物址.....	172
第3節	土坑(D).....	174
	D 1号土坑~D 6号土坑.....	174
第4節	鉄製品.....	176
第5節	石製品.....	178

第IV章 寺畑遺跡II	179
第1節 竪穴住居址(H)	180
H 1号住居址	180
第2節 竪穴状遺構(Ta)	181
Ta 1号竪穴状遺構	181
Ta 2号竪穴状遺構	182
第3節 溝跡(M)	183
M 1号溝跡	183
第4節 土坑(D)	185
D 1号土坑~D 3号土坑	185
第5節 遺構外遺物	186
第V章 中西ノ久保遺跡I	189
第1節 遺構と遺物	189
H 1号住居址	189
H 2号住居址	190
H 3号住居址	191
H 4号住居址	192
H 5号住居址	193
H 6号住居址	194
H 7号住居址	195
H 8号住居址	200
H 9号住居址	201
H 10号住居址	202
H 11号住居址	203
H 12号住居址	206
H 13号住居址	207
H 14号住居址	209
H 15号住居址	211
H 16号住居址	212
H 17号住居址	212
H 18号住居址	213
まとめ	214

插图目次

第1图 通跡位置图(1:100,000)	1	第2图 周辺通跡位置图(1:50,000)	6
第3图 中西ノ久保通跡II遺構配置图(1:1,000)	9	第4图 H1号住居址実測图	10
第5图 H1号住居址出土遺物実測图	11	第6图 H19号住居址実測图	12
第7图 H19号住居址掘方・かまど実測图	13	第8图 H19号住居址出土遺物実測图	14
第9图 H20号住居址実測图	15	第10图 H20号住居址出土遺物実測图	16
第11图 H21号住居址実測图	17	第12图 H21号住居址出土遺物実測图	18
第13图 H22号住居址実測图	19	第14图 H22号住居址出土遺物実測图	20
第15图 H23号住居址実測图	23	第16图 H24号住居址実測图	23
第17图 H25号住居址実測图	24	第18图 H25号住居址出土遺物実測图	25
第19图 H26号住居址実測图	26	第20图 H26号住居址かまど実測图	27
第21图 H26号住居址出土遺物実測图(1)	28	第22图 H26号住居址出土遺物実測图(2)	29
第23图 H27号住居址実測图	31	第24图 H27号住居址出土遺物実測图	31
第25图 H28号住居址実測图	32	第26图 H28号住居址出土遺物実測图	32
第27图 H29号住居址実測图	33	第28图 H30号住居址実測图	34
第29图 H30号住居址出土遺物実測图(1)	34	第30图 H30号住居址出土遺物実測图(2)	35
第31图 H31号住居址実測图	37	第32图 H31号住居址出土遺物実測图(1)	38
第33图 H31号住居址出土遺物実測图(2)	39	第34图 H32号住居址実測图	40
第35图 H32号住居址出土遺物実測图(1)	41	第36图 H32号住居址出土遺物実測图(2)	42
第37图 H33号住居址実測图	43	第38图 H33号住居址出土遺物実測图	44
第39图 H34号住居址実測图	45	第40图 H34号住居址出土遺物実測图	46
第41图 H35号住居址実測图	47	第42图 H35号住居址出土遺物実測图(1)	48
第43图 H35号住居址出土遺物実測图(2)	49	第44图 H35号住居址出土遺物実測图(3)	50
第45图 H35号住居址出土遺物実測图(4)	51	第46图 H36号住居址実測图	53
第47图 H36号住居址出土遺物実測图	54	第48图 H37号住居址実測图	55
第49图 H37号住居址かまど実測图	56	第50图 H37号住居址出土遺物実測图	56
第51图 H38号住居址実測图	58	第52图 H38号住居址かまど実測图	59
第53图 H38号住居址出土遺物実測图	59	第54图 H39号住居址実測图	61
第55图 H39号住居址出土遺物実測图	62	第56图 H40号住居址実測图	64
第57图 H41号住居址実測图	65	第58图 H41号住居址出土遺物実測图	66
第59图 H42号住居址実測图	68	第60图 H42号住居址出土遺物実測图	69

第61图	H43号住居址实测图	70	第62图	H43号住居址出土遗物实测图	71
第63图	H44号住居址实测图	73	第64图	H44号住居址出土遗物实测图	73
第65图	H45号住居址实测图	74	第66图	H45号住居址出土遗物实测图	75
第67图	H46号住居址实测图	76	第68图	H46号住居址出土遗物实测图	76
第69图	H47号住居址实测图	78	第70图	H47号住居址出土遗物实测图	79
第71图	F 2号独立柱建物址实测图	80	第72图	F 3号独立柱建物址实测图	80
第73图	F 4号独立柱建物址实测图	81	第74图	F 5号独立柱建物址实测图	81
第75图	F 6号独立柱建物址实测图	82	第76图	F 7号独立柱建物址实测图	82
第77图	F 8号独立柱建物址实测图	82	第78图	F 9号独立柱建物址实测图	83
第79图	F 10号独立柱建物址实测图	83	第80图	F 11号独立柱建物址实测图	83
第81图	中西ノ久保道跡Ⅱ土坑实测图	85	第82图	M 3号溝跡实测图	87
第83图	M 3号溝跡出土遺物实测图	88	第84图	M 4号溝跡实测图	89
第85图	M 5号溝跡・出土遺物实测图	90	第86图	M 6号溝跡实测图	91
第87图	M 7号溝跡・出土遺物实测图	91	第88图	中西ノ久保道跡Ⅱ出土鉄製品实测图	93
第89图	中西ノ久保道跡Ⅱ遺構外出土耳環	93	第90图	遺構外出土遺物实测图	96
第91图	仲田遺跡遺構配置図(1:600)	97	第92图	H 1号住居址实测图	98
第93图	H 1号住居址出土遺物实测图	99	第94图	H 2号住居址实测图	101
第95图	H 2号住居址出土遺物实测图	102	第96图	H 3号住居址实测图	103
第97图	H 3号住居址出土遺物实测图(1)	104	第98图	H 3号住居址出土遺物实测图(2)	105
第99图	H 4号住居址实测图	106	第100图	H 4号住居址出土遺物实测图	107
第101图	H 5号住居址实测图	109	第102图	H 6号住居址实测图	110
第103图	H 6号住居址遺物出土位置图	111	第104图	H 6号住居址出土遺物实测图(1)	112
第105图	H 6号住居址出土遺物实测图(2)	113	第106图	H 7号住居址实测图	115
第107图	H 8号住居址实测图	116	第108图	H 8号住居址出土遺物实测图	116
第109图	H 9号住居址实测图	118	第110图	H 9号住居址出土遺物实测图	118
第111图	H 10号住居址实测图	119	第112图	H 11号住居址实测图	120
第113图	H 11号住居址出土遺物实测图	120	第114图	H 12号住居址实测图	121
第115图	H 12号住居址出土遺物实测图	122	第116图	H 13号住居址实测图	123
第117图	H 13号遺物实测图	124	第118图	H 14号住居址实测图	125
第119图	H 14号住居址出土遺物实测图	126	第120图	H 15号住居址实测图	127
第121图	H 15号住居址かまど实测图	128	第122图	H 15号住居址出土遺物实测图	129
第123图	H 16号住居址实测图	130	第124图	H 16号住居址遺物出土位置图	131

第125図	H16号住居址出土遺物実測図	132	第126図	H17号住居址実測図	134
第127図	H17号住居址出土遺物実測図	135	第128図	H18号住居址実測図	136
第129図	H18号住居址出土遺物実測図	136	第130図	H19号住居址実測図	138
第131図	H19号住居址出土遺物実測図	139	第132図	H20号住居址実測図	140
第133図	H20号住居址出土遺物実測図	140	第134図	H21号住居址実測図	142
第135図	H21号住居址出土遺物実測図	143	第136図	H22号住居址実測図	144
第137図	H22号住居址かまど実測図	145	第138図	H22号住居址出土遺物実測図	146
第139図	H23号住居址出土遺物実測図	148	第140図	H23、H25号住居址実測図	149
第141図	H24号住居址遺構・遺物実測図	151	第142図	H25号住居址出土遺物実測図	152
第143図	H26号住居址実測図	153	第144図	H26号住居址かまど実測図	154
第145図	H26号住居址出土遺物実測図(1)	154	第146図	H26号住居址出土遺物実測図(2)	155
第147図	H26号住居址出土遺物実測図(3)	156	第148図	H27号住居址実測図	157
第149図	H27号住居址出土遺物実測図	158	第150図	H28号住居址実測図	160
第151図	H29号住居址実測図	162	第152図	H29号住居址出土遺物実測図(1)	163
第153図	H29号住居址出土遺物実測図(2)	164	第154図	H30号住居址実測図	166
第155図	H30号住居址出土遺物実測図	167	第156図	F1号掘立柱建物址実測図	168
第157図	F2号掘立柱建物址実測図	168	第158図	F3号掘立柱建物址実測図	169
第159図	F4号掘立柱建物址実測図	169	第160図	F5号掘立柱建物址実測図	170
第161図	F6号掘立柱建物址実測図	170	第162図	F7号掘立柱建物址実測図	170
第163図	F8号掘立柱建物址実測図	171	第164図	F9号掘立柱建物址実測図	171
第165図	F10号掘立柱建物址実測図	172	第166図	F11号掘立柱建物址実測図	172
第167図	仲田遺跡土坑実測図	174	第168図	D6号土坑出土遺物実測図	175
第169図	仲田遺跡出土鉄製品実測図	176	第170図	寺畑遺跡Ⅱ遺構配置図(1:500)	179
第171図	H1号住居址実測図	180	第172図	Ta1号竪穴状遺構実測図	181
第173図	Ta2号竪穴状遺構実測図	182	第174図	M1号溝跡実測図	183
第175図	M1号溝跡出土遺物実測図(1)	183	第176図	M1号溝跡出土遺物実測図(2)	184
第177図	M1号溝跡出土石器実測図	184	第178図	寺畑遺跡Ⅱ土坑実測図	185
第179図	遺構外出土爪形文土器実測図(1)	186	第180図	遺構外出土爪形文土器実測図(2)	187
第181図	遺構外出土石器実測図(1)	187	第182図	遺構外出土石器実測図(2)	188
第183図	H1号住居址実測図	189	第184図	H2号住居址実測図	190
第185図	H2号住居址出土遺物実測図(1)	190	第186図	H2号住居址出土遺物実測図(2)	191
第187図	H3号住居址実測図	191	第188図	H3号住居址出土遺物実測図	192

第189図	H 4号住居址実測図	192	第190図	H 4号住居址出土遺物実測図	193
第191図	H 5号住居址実測図	193	第192図	H 5号住居址出土遺物実測図	193
第193図	H 6号住居址実測図	194	第194図	H 7号住居址実測図	195
第196図	H 7号住居址出土遺物実測図(1)	196	第196図	H 7号住居址出土遺物実測図(2)	197
第197図	H 7号住居址出土遺物実測図(3)	198	第198図	H 8号住居址実測図	200
第199図	H 8号住居址出土遺物実測図	200	第200図	H 9号住居址実測図	201
第201図	H 9号住居址出土遺物実測図	201	第202図	H 10号住居址実測図	202
第203号	H 10号住居址出土遺物実測図	202	第204図	H 11号住居址実測図	203
第205図	H 11号住居址出土遺物実測図(1)	204	第206図	H 11号住居址出土遺物実測図(2)	205
第207図	H 12号住居址実測図	206	第208図	H 12号住居址出土遺物実測図	206
第209図	H 13号住居址実測図	207	第210図	H 13号住居址出土遺物実測図	208
第211図	H 14号住居址実測図	209	第212図	H 14号住居址出土遺物実測図	210
第213図	H 15号住居址実測図	211	第214図	H 15号住居址出土遺物実測図	211
第215図	H 16号住居址出土遺物実測図	212	第216図	H 16号住居址実測図	212
第217図	H 17号住居址実測図	212	第218図	H 17号住居址出土遺物実測図	212
第219図	H 18号住居址実測図	213	第220図	仲田遺跡周辺地模図	217

付 表 目 録

第1表	H 1号住居址出土遺物観察表	11	第2表	H 19号住居址出土遺物観察表	14
第3表	H 20号住居址出土遺物観察表	16	第4表	H 21号住居址出土遺物観察表	18
第5表	H 22号住居址出土遺物観察表	21	第6表	H 25号住居址出土遺物観察表	25
第7表	H 26号住居址出土遺物観察表	30	第8表	H 27号住居址出土遺物観察表	32
第9表	H 28号住居址出土遺物観察表	33	第10表	H 30号住居址出土遺物観察表	35
第11表	H 31号住居址出土遺物観察表	39	第12表	H 32号住居址出土遺物観察表	42
第13表	H 33号住居址出土遺物観察表	44	第14表	H 34号住居址出土遺物観察表	46
第15表	H 35号住居址出土遺物観察表(1)	51	第16表	H 35号住居址出土遺物観察表(2)	52
第17表	H 36号住居址出土遺物観察表	54	第18表	H 37号住居址出土遺物観察表	57
第19表	H 38号住居址出土遺物観察表	60	第20表	H 39号住居址出土遺物観察表	63
第21表	H 41号住居址出土遺物観察表	67	第22表	H 42号住居址出土遺物観察表	69
第23表	H 43号住居址出土遺物観察表	71	第24表	H 44号住居址出土遺物観察表	74
第25表	H 45号住居址出土遺物観察表	75	第26表	H 46号住居址出土遺物観察表	77

第27表	H47号住居址出土遺物觀察表	79	第28表	F 2号獨立柱建物址觀察表	80
第29表	F 3号獨立柱建物址觀察表	80	第30表	F 4号獨立柱建物址觀察表	81
第31表	F 5号獨立柱建物址觀察表	81	第32表	F 6号獨立柱建物址觀察表	82
第33表	F 7号獨立柱建物址觀察表	82	第34表	F 8号獨立柱建物址觀察表	82
第35表	F 9号獨立柱建物址觀察表	83	第36表	F 10号獨立柱建物址觀察表	83
第37表	F 11号獨立柱建物址觀察表	83	第38表	中西ノ久保遺跡Ⅱ土坑觀察表	85
第39表	M 3号溝跡出土遺物觀察表(1)	88	第40表	M 3号溝跡出土遺物觀察表(2)	89
第41表	M 5号溝跡出土遺物觀察表	90	第42表	M 7号溝跡出土遺物觀察表	91
第43表	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土鉄製品觀察表	93	第44表	中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土耳環	93
第45表	中西ノ久保遺跡Ⅱ住居址出土石製品	95	第46表	中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土石製品	95
第47表	中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土遺物觀察表	96	第48表	H 1号住居址出土遺物觀察表	100
第49表	H 2号住居址出土遺物觀察表	102	第50表	H 3号住居址出土遺物觀察表	105
第51表	H 4号住居址出土遺物觀察表	108	第52表	H 6号住居址出土遺物觀察表	114
第53表	H 8号住居址出土遺物觀察表	117	第54表	H 9号住居址出土遺物觀察表	119
第55表	H 11号住居址出土遺物觀察表	121	第56表	H 12号住居址出土遺物觀察表	123
第57表	H 13号住居址出土遺物觀察表	124	第58表	H 14号住居址出土遺物觀察表	127
第59表	H 15号住居址出土遺物觀察表	130	第60表	H 16号住居址出土遺物觀察表	133
第61表	H 17号住居址出土遺物觀察表	135	第62表	H 18号住居址出土遺物觀察表	137
第63表	H 19号住居址出土遺物觀察表	139	第64表	H 20号住居址出土遺物觀察表	140
第65表	H 21号住居址出土遺物觀察表	143	第66表	H 22号住居址出土遺物觀察表	146
第67表	H 23号住居址出土遺物觀察表	148	第68表	H 24号住居址出土遺物觀察表	151
第69表	H 25号住居址出土遺物觀察表	152	第70表	H 26号住居址出土遺物觀察表(1)	156
第71表	H 26号住居址出土遺物觀察表(2)	157	第72表	H 27号住居址出土遺物觀察表	158
第73表	H 29号住居址出土遺物觀察表	164	第74表	H 30号住居址出土遺物觀察表	167
第75表	F 1号獨立柱建物址觀察表	168	第76表	F 2号獨立柱建物址觀察表	168
第77表	F 3号獨立柱建物址觀察表	169	第78表	F 4号獨立柱建物址觀察表	169
第79表	F 5号獨立柱建物址觀察表	170	第80表	F 6号獨立柱建物址觀察表	170
第81表	F 7号獨立柱建物址觀察表	170	第82表	F 8号獨立柱建物址觀察表	171
第83表	F 9号獨立柱建物址觀察表	171	第84表	F 10号獨立柱建物址觀察表	172
第85表	F 11号獨立柱建物址觀察表	172	第86表	仲田遺跡土坑觀察表	174
第87表	D 6号土坑出土遺物觀察表	175	第88表	仲田遺跡出土鉄製品觀察表	176
第89表	仲田遺跡出土石製品觀察表	178	第90表	M 1号溝跡出土遺物觀察表	184

第91表	M1号溝跡出土石器観察表	184	第92表	寺知遺跡Ⅱ土坑観察表	185
第93表	中西ノ久保Ⅱ遺構外出土石器観察表	188	第94表	H2号住居址出土遺物観察表	191
第95表	H3号住居址出土遺物観察表	192	第96表	H4号住居址出土遺物観察表	193
第97表	H5号住居址出土遺物観察表	194	第98表	H7号住居址出土遺物観察表(1)	198
第99表	H7号住居址出土遺物観察表(2)	199	第100表	H8号住居址出土遺物観察表	200
第101表	H9号住居址出土遺物観察表	201	第102表	H10号住居址出土遺物観察表	202
第103表	H11号住居址出土遺物観察表	205	第104表	H12号住居址出土遺物観察表	207
第105表	H13号住居址出土遺物観察表	208	第106表	H14号住居址出土遺物観察表	210
第107表	H15号住居址出土遺物観察表	211	第108表	H16号住居址出土遺物観察表	212
第109表	H17号住居址出土遺物観察表	212	第110表	中西ノ久保遺跡Ⅰ住居址観察表	213

写真目録

写1	仲田遺跡H15号住居址出土鏡		写2	中西ノ久保遺跡Ⅱ全景(北から)	
写3	中西ノ久保遺跡ⅡH41号住居址		写4	中西ノ久保遺跡ⅡH22号住居址 かまど・粘土除去後かまど	
写5	中西ノ久保遺跡ⅡH47号住居址 かまど・かまど掘方		写6	仲田遺跡全景(南から)	
写7	仲田遺跡調査風景(南から)		写8	仲田遺跡H15号住居址鏡出土状況	
写9	仲田遺跡H6号住居址遺物出土状況		写10	仲田遺跡H15号住居址出土土器器	
写11	仲田遺跡H1号住居址出土墨書土器		写12	中西ノ久保遺跡Ⅱ・仲田遺跡 ・寺知遺跡Ⅱ工事終了状況	
写13	西一本柳遺跡出土遺物	4	写14	瀬り遺跡全景	4
写15	寺知遺跡出土爪形文土器	4	写16	遺跡周辺航空写真	5
写17	遺跡周辺航空写真	7	写18	H1号住居址全景	11
写19	H1号住居址かまど	11	写20	H1号住居址かまど掘方	11
写21	H19号住居址全景(遺物あり)	11	写22	H19号住居址全景(遺物なし)	12
写23	H19号住居址かまど	15	写24	H19号住居址掘方	15
写25	H20号住居址全景	16	写26	H21号住居址全景	16
写27	H21号住居址かまど	17	写28	H22号住居址全景	21
写29	H22号住居址遺物出土状況	21	写30	H22号住居址全景	22
写31	H22号住居址かまど(南から)	22	写32	H22号住居址かまど(北から)	22
写33	H22号住居址かまど(東から)	22	写34	H22号住居址かまど(粘土除去状態)	22

写35	H23号住居址全景(東から).....	23	写36	H24号住居址全景.....	24
写37	H25号住居址全景(南から).....	25	写38	H25号住居址かまど.....	25
写39	H26号住居址全景(南から).....	27	写40	H26号住居址かまど(南から).....	27
写41	H26号住居址かまど.....	28	写42	H27号住居址全景(南から).....	30
写43	H27号住居址かまど.....	32	写44	H27号住居址掘方.....	32
写45	H28号住居址全景(南から).....	33	写46	H28号住居址周辺状況.....	33
写47	H29号住居址全景(南東から).....	33	写48	H30号住居址全景.....	35
写49	H30号住居址周辺状況.....	35	写50	H31号住居址全景(遺物あり・東から).....	36
写51	H31号住居址全景(遺物なし・東から).....	36	写52	H31号住居址遺物出土状況.....	36
写53	H31号住居址掘方.....	39	写54	H32号住居址全景(東から).....	41
写55	H32号住居址かまど.....	41	写56	H32号住居址遺物出土状況.....	42
写57	H32号住居址遺物出土状況.....	42	写58	H33号住居址全景(東から).....	43
写59	H34号住居址全景(西から).....	46	写60	H34号住居址かまど.....	46
写61	H35号住居址全景(西から).....	48	写62	H36号住居址全景.....	54
写63	H36号遺物.....	54	写64	H36号遺物.....	54
写65	H37号住居址全景(西から).....	56	写66	H37号住居址かまど.....	56
写67	H37号住居址掘方.....	57	写68	H37号住居址かまど掘方.....	57
写69	H38号住居址全景(南から).....	57	写70	H38号住居址かまど(南から).....	60
写71	H38号住居址掘方.....	60	写72	H39号住居址全景(南から).....	62
写73	H39号住居址かまど.....	62	写74	H39号住居址遺物出土状況.....	63
写75	H39号住居址全景(遺物なし).....	63	写76	H39号住居址掘方.....	63
写77	H39号住居址かまど(南東から).....	63	写78	H41号住居址周辺状況.....	64
写79	H41号住居址全景(南から).....	66	写80	H41号住居址かまど.....	66
写81	H41号住居址掘方.....	66	写82	H42号住居址全景(東から).....	67
写83	H42号住居址遺物出土状況.....	67	写84	H42号住居址かまど掘方.....	69
写85	H42号住居址掘方(東から).....	69	写86	H43号住居址全景(西から).....	71
写87	H43号住居址かまど(西から).....	71	写88	H43号住居址掘方(北から).....	71
写89	H44号住居址全景(南から).....	72	写90	H44号住居址かまど(南から).....	72
写91	H44号住居址掘方(南東から).....	72	写92	H45号住居址全景(東から).....	76
写93	H45号住居址掘方(北から).....	76	写94	H46号住居址全景.....	76
写95	H47号住居址全景(東から).....	77	写96	H47号かまど.....	77
写97	H47号かまど掘方.....	77	写98	H47号住居址遺物出土状況.....	79

写99	H47号住居址掘方(東から)……………79	写100	F2号獨立柱建物址……………84
写101	F3号獨立柱建物址……………84	写102	F4号獨立柱建物址……………84
写103	F5号獨立柱建物址……………84	写104	F6号獨立柱建物址……………84
写105	F7号獨立柱建物址……………84	写106	D5号土坑……………86
写107	D6号土坑……………86	写108	D7号土坑……………86
写109	D9号土坑……………86	写110	D10号土坑……………86
写111	D11号土坑……………86	写112	M3号溝跡……………92
写113	M5号溝跡……………92	写114	M6号溝跡……………92
写115	M7号溝跡……………92	写116	H35号住居址出土鉄製品レントゲン……………94
写117	H35号住居址出土鉄製品……………94	写118	H33号住居址出土鉄製品レントゲン……………94
写119	H33号住居址出土鉄製品……………94	写120	H34号住居址出土鉄製品レントゲン……………94
写121	H34号住居址出土鉄製品……………94	写122	H1号住居址全景(西から)……………99
写123	H1号住居址かまど(西から)……………99	写124	H1号住居址掘方(西から)……………100
写125	H1号住居址遺物出土状況……………100	写126	H2号住居址全景(南から)……………100
写127	H2号住居址かまど……………100	写128	H2号住居址掘方(南から)……………102
写129	H2号住居址かまど掘方(南から)……………102	写130	H3号住居址全景(西から)……………104
写131	H3号住居址かまど(西から)……………104	写132	H3号住居址掘方(西から)……………104
写133	H3号住居址かまど掘方(西から)……………104	写134	H4号住居址全景(南から)……………107
写135	H4号住居址かまど(南から)……………107	写136	H4号住居址掘方(南から)……………108
写137	H4号住居址かまど掘方(南から)……………108	写138	H4号住居址出土獣骨……………108
写139	H5号住居址全景……………109	写140	H6号住居址全景(遺物あり・東から)……………111
写141	H6号住居址出土鉄器出土状況……………113	写142	H6号住居址遺物出土状況……………113
写143	H6号住居址かまど……………114	写144	H6号住居址遺物出土状況……………114
写145	H6号住居址遺物出土状況……………114	写146	H6号住居址遺物出土状況……………114
写147	H6号住居址全景(遺物なし・東から)……………115	写148	H6号住居址かまど掘方……………115
写149	H6号住居址掘方全景(東から)……………115	写150	H8号住居址全景(北から)……………117
写151	H9号住居址全景(南から)……………119	写152	H9号住居址かまど(南から)……………119
写153	H11号住居址全景(南から)……………120	写154	H11号住居址かまど(南から)……………121
写155	H11号住居址掘方全景(南から)……………121	写156	H12号住居址全景(東から)……………122
写157	H13号住居址全景(南から)……………124	写158	H13号住居址かまど(南から)……………124
写159	H13号住居址かまど掘方(南から)……………124	写160	H13号住居址掘方全景(西から)……………124
写161	H14号住居址全景(西から)……………125	写162	H14号住居址かまど(南から)……………125

写163	H14号住居址掘方全景(西から)……………126	写164	H15号住居址全景(北から)……………128
写165	H15号住居址掘出土状況……………128	写166	H15号住居址かまど(西から)……………129
写167	H15号住居址掘方全景(北から)……………129	写168	H16号住居址遺物出土状況……………131
写169	H16号住居址全景(東から)……………133	写170	H16号住居址掘方全景(東から)……………133
写171	H16号住居址遺物出土状況……………134	写172	H16号住居址遺物出土状況……………134
写173	H17号住居址全景(南東から)……………134	写174	H17号住居址遺物……………135
写175	H18号住居址全景(南から)……………135	写176	H18号住居址掘方全景(南から)……………135
写177	H19号住居址全景(南から)……………137	写178	H19号住居址かまど(南から)……………139
写179	H19号住居址掘方(南から)……………139	写180	H20号住居址全景(西から)……………140
写181	H20号住居址かまど(南から)……………140	写182	H20号住居址かまど(南西から)……………141
写183	H20号住居址かまど掘方(南から)……………141	写184	H21号住居址全景(東から)……………141
写185	H21号住居址かまど遺物出土状況……………142	写186	H21号住居址かまど(東から)……………143
写187	H21号住居址掘方全景(南から)……………143	写188	H22号住居址全景(南西から)……………145
写189	H22号住居址かまど(南西から)……………145	写190	H22号住居址掘方全景(南から)……………147
写191	H22号住居址かまど掘方(南から)……………147	写192	H23号住居址周辺全景(南東から)……………147
写193	H23号住居址全景(南から)……………147	写194	H23号住居址かまど(南から)……………150
写195	H23号住居址掘方全景(南から)……………150	写196	H24号住居址全景(南から)……………150
写197	H25号住居址全景(南から)……………151	写198	H26号住居址……………156
写199	H26号住居址掘方……………156	写200	H26号かまど……………156
写201	H26号遺物……………156	写202	H27号住居址全景……………158
写203	H27号住居址遺物出土状況……………158	写204	H28号住居址全景(南から)……………159
写205	H28号住居址かまど(南から)……………159	写206	H28号住居址かまど(北から)……………159
写207	H28号住居址かまど……………159	写208	H28号住居址かまど掘方……………161
写209	H28号住居址掘方(南から)……………161	写210	H29号住居址全景(東から)……………161
写211	H29号住居址かまど……………165	写212	H29号住居址掘方(東から)……………165
写213	H30号住居址全景(南から)……………165	写214	H30号住居址かまど(南から)……………165
写215	H30号住居址掘方全景(南から)……………166	写216	H30号住居址かまど掘方(南から)……………166
写217	F 2号獨立柱建物址……………173	写218	F 3号獨立柱建物址……………173
写219	F 4号獨立柱建物址……………173	写220	F 6号獨立柱建物址……………173
写221	F 7号・8号獨立柱建物址……………173	写222	F 9号獨立柱建物址……………173
写223	F10号獨立柱建物址……………173	写224	F11号獨立柱建物址……………173
写225	D 1号～D 4号土坑……………174	写226	D 6号土坑……………174

写227	H 6号鉄簇……………	177	写228	H 6号鉄簇……………	177
写229	H 6号住居址出土鏃……………	177	写230	H 6号住居址出土鏃……………	177
写231	H 6号出土鉄簇……………	177	写232	H 6号出土鉄簇……………	177
写233	H 1号住居址全景……………	180	写234	T a 1号竪穴状遺構全景……………	181
写235	T a 2号竪穴状遺構全景……………	182	写236	M 1号溝跡全景……………	183
写237	M 1号溝跡出土黑曜石……………	185	写238	爪形文土器出土状況……………	186

写真図版

写239	中西ノ久保遺跡Ⅱ全景	写240	中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景(1)
写241	中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景(2)	写242	中西ノ久保遺跡Ⅱ調査風景(3)
写243	H 1号住居址出土遺物	写244	H19号住居址出土遺物
写245	H20号住居址出土遺物	写246	H21号住居址出土遺物
写247	H22号住居址出土遺物	写248	H25号住居址出土遺物
写249	H26号住居址出土遺物(1)	写250	H26号住居址出土遺物(2)
写251	H27号住居址出土遺物	写252	H28号住居址出土遺物
写253	H29号住居址出土遺物	写254	H31号住居址出土遺物(1)
写255	H31号住居址出土遺物(2)	写256	H32号住居址出土遺物
写257	H33号住居址出土遺物	写258	H34号住居址出土遺物
写259	H35号住居址出土遺物(1)	写260	H35号住居址出土遺物(2)
写261	H36号住居址出土遺物	写262	H37号住居址出土遺物
写263	H38号住居址出土遺物(1)	写264	H38号住居址出土遺物(2)
写265	H40号住居址出土遺物	写266	H41号住居址出土遺物
写267	H42号住居址出土遺物	写268	H43号住居址出土遺物
写269	H44号住居址出土遺物	写270	H45号住居址出土遺物
写271	H46号住居址出土遺物	写272	H47号住居址出土遺物
写273	M 3号溝跡出土遺物(1)	写274	M 3号溝跡出土遺物(2)
写275	M 5号溝跡出土遺物	写276	M 7号溝跡出土遺物
写277	遺構外出土遺物	写278	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(1)
写279	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(2)	写280	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(3)
写281	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(4)	写282	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(5)
写283	中西ノ久保遺跡Ⅱ出土石製品(6)	写284	中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土石製品

- 写285 H16号住居址出土土器
写287 仲田遺跡調査風景(2)
写289 H1号住居址出土遺物
写291 H3号住居址出土遺物
写293 H6号住居址出土遺物(1)
写296 H8号住居址出土遺物
写297 H11号住居址出土遺物
写299 H13号住居址出土遺物
写301 H15号住居址出土遺物
写303 H17号住居址出土遺物
写305 H19号住居址出土遺物
写307 H21号住居址出土遺物
写309 H23号住居址出土遺物
写311 H25号住居址出土遺物
写313 H27号住居址出土遺物
写315 H29号住居址出土遺物(2)
写317 D6号土坑出土遺物
写319 仲田遺跡出土土製品(2)
写321 仲田遺跡出土土製品(4)
写323 仲田遺跡出土土製品(6)
写325 仲田遺跡出土土製品(8)
写327 H1号住居址出土遺物
写329 M1号溝跡出土風礫石
写331 遺構外出土爪形文土器
写333 H1号住居址
写335 H3号住居址
写337 H4号住居址掘方
写339 H5号住居址
写341 H7号住居址
写343 H7号住居址かまど
写345 H8号住居址
写347 H10号住居址
写286 仲田遺跡調査風景(1)
写288 仲田遺跡調査風景(3)
写290 H2号住居址出土遺物
写292 H4号住居址出土遺物
写294 H6号住居址出土遺物(2)
写296 H9号住居址出土遺物
写298 H12号住居址出土遺物
写300 H14号住居址出土遺物
写302 H16号住居址出土遺物
写304 H18号住居址出土遺物
写306 H20号住居址出土遺物
写308 H22号住居址出土遺物
写310 H24号住居址出土遺物
写312 H26号住居址出土遺物
写314 H29号住居址出土遺物(1)
写316 H30号住居址出土遺物
写318 仲田遺跡出土土製品(1)
写320 仲田遺跡出土土製品(3)
写322 仲田遺跡出土土製品(5)
写324 仲田遺跡出土土製品(7)
写326 寺畑遺跡Ⅱ全景
写328 M1号溝跡出土遺物
写330 M1号溝跡出土土器
写332 遺構外出土土器
写334 H2号住居址
写336 H4号住居址
写338 H4号住居址かまど
写340 H5号住居址掘方・H6号住居址
写342 H7号住居址掘方
写344 H7号住居址かまど掘方
写346 H9号住居址
写348 H11号住居址

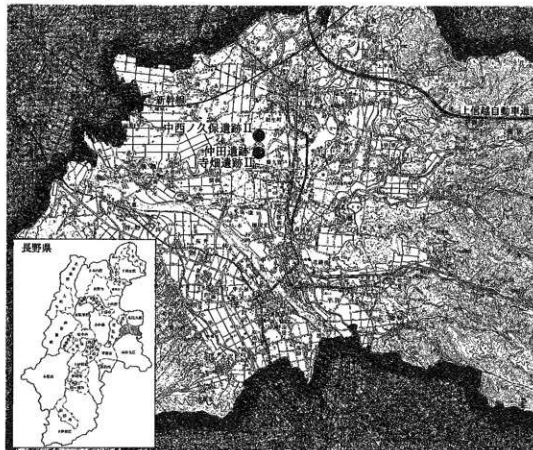
- 写349 H11号住居址遺物出土状況
写351 H11号住居址集石(南から)
写353 H11号住居址掘方
写355 H12号住居址遺物出土状況
写357 H14号住居址・H17号住居址
写359 H15号住居址(北から)
写361 H18号住居址
写363 H 2号住居址出土遺物
写365 H 4号住居址出土遺物
写367 H 7号住居址出土遺物(1)
写369 H 8号住居址出土遺物
写371 H10号住居址出土遺物
写373 H12号住居址出土遺物
写375 H14号住居址出土遺物
写377 H16号住居址出土遺物
写379 中西ノ久保遺跡1出土石製品
- 写350 H11号住居址遺物出土状況
写352 H11号住居址集石(上から)
写354 H12号住居址
写356 H13号住居址
写358 H15号住居址(南から)
写360 H16号住居址
写362 中西ノ久保遺跡1全景
写364 H 3号住居址出土遺物
写366 H 6号住居址出土遺物
写368 H 7号住居址出土遺物(2)
写370 H 9号住居址出土遺物
写372 H11号住居址出土遺物
写374 H13号住居址出土遺物
写376 H15号住居址出土遺物
写378 H17号住居址出土遺物

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査に至る経過

中西ノ久保遺跡Ⅱと仲田遺跡・寺畑遺跡Ⅱは、北方から南流し、岩村田市街地の西を通過した後、流れを東西方向に変え、蛇行しながら西流する湯川の左・右岸段丘面上に存在する。湯川との比高差は中西ノ久保遺跡12m、仲田遺跡6m、寺畑遺跡17mである。

中西ノ久保遺跡Ⅱの所在する右岸の第一、第二段丘面上は以前から遺跡の密集地として知られており、中西ノ久保遺跡を含め、北西の久保遺跡、西一本柳遺跡など多くの遺跡が存在する。また左岸第2段丘面上に位置する寺畑遺跡は、平成6年に道路建設に伴う調査が行われ、すでに遺構・遺物の存在が知られていた。これに対し、仲田遺跡の所在する左岸第一段丘面上は、湯川との比高差が5～7mと低地であり、同一段丘面での調査が行われていないため、遺跡の存在が不鮮明な地域であった。



第 1 図 遺跡位置図 (1 : 100,000)

今回、佐久市建設部土木課による道路建設工事が行われることとなった。中西ノ久保遺跡Ⅱ、寺畑遺跡Ⅱは、隣接地域の発掘調査がすでに行われており、遺構の存在が明確であったため、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。しかし、仲田遺跡については遺構の存在が不鮮明であったため、中西ノ久保遺跡Ⅱの調査と平行して試掘調査を行った。その結果、古墳時代から平安時代にかけての住居址が多数確認されたため、中西ノ久保遺跡Ⅱ・寺畑遺跡Ⅱ同様、発掘調査を行うこととなった。

第2節 調査遺跡と調査体制

1 調査遺跡

遺跡名	中西ノ久保遺跡群中西ノ久保遺跡Ⅱ（INHⅡ）
所在地	佐久市大字岩村田字南西ノ久保2447-3外
調査期間	平成7年5月26日～平成7年7月28日（現場作業）
調査面積	1,645㎡
調査担当者	上原学 佐々木 宗昭

遺跡名	寺畑遺跡群仲田遺跡（NTⅢ）
所在地	佐久市大字猿久保字仲田
調査期間	平成7年7月27日～平成7年10月6日（現場作業）
調査面積	2,260㎡
調査担当者	上原学

遺跡名	寺畑遺跡群寺畑遺跡Ⅱ（NNTⅡ）
所在地	佐久市大字猿久保字下原594外
調査期間	平成7年8月28日～平成7年9月11日（現場作業）
調査面積	1,200㎡
調査担当者	上原学

2 調査体制

佐久市教育委員会埋蔵文化財課
教 育 長 依田 英夫
教 育 次 長 市川 源（平成7・8・9年度）

	北沢 馨 (平成10年度)
埋蔵文化財課長	戸塚 満 (平成7年度)
	北沢 元平 (平成8年度)
	須江 仁胤 (平成9年度)
埋蔵文化財課長 (兼)管理係長	須江 仁胤 (平成10年度)
埋蔵文化財係長	大塚 達夫 (平成7・8・9年度)
	萩原 一馬 (平成10年度)
管 理 係 長	谷津 恭子 (平成7年度)
	榑沢 慶子 (平成8・9年度)
管 理 係	田村 和広 (平成7・8年度)
埋蔵文化財係	林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学
調 査 主 任	佐々木 宗昭 森泉 かよ子
調 査 担 当 者	上原 学 佐々木 宗昭
調 査 員	相沢 今朝義 荒井 かつ 荒井 ふみ子 井上 行雄 碓水 健 金森 治代 榑沢 三之助 高地 正雄 小林 まさ子 小林 百合子 小松 三喜枝 小山 澄江 佐藤 玉枝 清水 佐知子 高橋 かね子 高橋 サチ子 高橋 敬子 高橋 冬子 高橋 ふみ 田中 章雄 角田 すい 花里 四之助 花里 三佐子 比田井 久美子 細谷 秀子 水間 雅義 武者 幸彦 山田 幸枝 依田 みち 渡辺 久美子

第3節 周辺遺跡の状況

中西ノ久保遺跡Ⅱの所在する湯川右岸の台地上には以前から多くの遺跡が所在することが知られている。地形をみると、中西の久保遺跡群と北側に所在する多くの遺跡群との間には段丘による比高差がわずかに認められ、一段上面に当たる第2段丘面上には西方に緩やかな傾斜を持つ台地が広がっている。

遺跡周辺は岩村田市街地から西に約1km付近の田園地域だが、市街地に近いこともあり古くから宅地造成、道路整備等の工事に伴い多くの発掘調査が行われている場所である。古くは昭和43年に宅地造成工事に伴う東一本柳遺跡の発掘調査が行われ、古墳時代後期の住居址が確認された。昭和46年には同遺跡内に所在する東一本柳古墳の発掘調査が行われ、金銅製の杏葉・辻金具・轡等の馬具、鉄族、玉類といった副葬品が出土している。近年に至っては道路改良整備・短大建設・



写13 西一本柳遺跡出土遺物

下水道工事等の開発が相次ぎ、昭和57年～60年にかけて短大建設工事に伴う北西の久保遺跡（Ⅰ次～Ⅳ次）の発掘調査が行われ、弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の住居址や掘立柱建物址に加え、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の古墳群が確認されている。特に古墳時代後期の古墳からは人物埴輪・形象埴輪（飾り馬・探馬・鳥）・円筒埴輪など多くの埴輪が出土している。また、平成3、4年には西一本柳遺跡Ⅰから弥生時代中期の住居址・掘立柱建物址などが調査された他、周辺地域の試掘調査によって70棟以上の住居址が確認された。このときの発掘調査によって、全国的にもめずらしい弥生時代と考えられる人面土器が出土し注目されている。さらに、平成4年には諏訪倉庫株式会社の倉庫・事務所建設に伴い、今回調査区の北西1.3kmに所



写14 溝り遺跡全景



写15 寺畑遺跡出土瓜形文土器

在する濁り遺跡の調査が行われ、古代と考えられる大規模な水田跡が発見された。濁り遺跡の周辺には古代の遺跡群が多数存在することから、当時の生産活動を考える上で貴重な発見であった。今回調査対象である中西ノ久保遺跡群も平成4年に下水道工事に伴い、北側に隣接する西一本柳遺跡とともに発掘調査が行われた。この調査によって中西ノ久保遺跡1からは古墳時代から平安時代にかけての住居址18棟、西一本柳遺跡からは弥生時代中期から平安時代にかけての住居址69棟などが確認され、土師器・須恵器・石製品・金属製品などの遺物が出土している。

仲田遺跡の所在する湯川左岸の第一段丘面上は遺跡の存在が不明な地域だが、南に広がる第二段丘面上には寺畑遺跡群、宮の上遺跡群、中原遺跡群などの遺跡が存在する。しかし、これまでの試掘を含めた調査から、この湯川と濁川に挟まれた台地上では内陸部ほど遺構の密度が薄く川に近づくほど遺構の密度が濃くなる傾向が認められる。仲田遺跡周辺における調査例としては、平成4年に遺跡の西側1kmの段丘面上に所在する根々井芝宮遺跡の調査が行われ、弥生時代から平安時代にかけての住居址が多数確認されている。さらに、平成6年佐久市都市開発部都市計画課による道路建設工事に伴い寺畑遺跡の調査が行われ、平安・弥生時代の住居址各1棟と、佐久市では最古と思われる縄文草創期の爪形文土器が出土し、注目された。



写16 遺跡周辺航空写真



第2図 周辺遺跡位置図 (1:10,000)



写17 遺跡周辺航空写真

第4節 調査遺構と出土遺物

1 中西ノ久保遺跡Ⅱ (1NHKⅡ)

遺 構

竪穴住居址	30
掘立柱建物址	10
土坑	7
溝跡	5
ピット	

遺 物

弥生式土器 (壺)
 土師器 (坏・椀・高坏・甗・甑)
 須恵器 (坏・高台付坏・甗・長頸壺
 四耳壺・横瓶)
 灰釉陶器 (皿) 耳環
 鉄製品 (刀子・麻引き金具)
 石製品 (砥石・白玉・紡錘車・磨り石
 敲き石・編み物石・窪み石)

2 仲田遺跡 (NTTⅢ)

遺 構

竪穴住居址	30
掘立柱建物址	11
土坑	6
ピット	

遺 物

弥生式土器 (壺)
 土師器 (坏・椀・高坏・甗・甑)
 須恵器 (坏・高台付坏・高坏・甗・長頸壺
 横瓶)
 灰釉陶器 (皿)
 ミニチュア土器
 銅鏡 (花卉双蝶八花鏡)
 鉄製品 (刀子・鉄鏃・鏃)
 石製品 (砥石・磨り石・敲き石・編み物石
 窪み石)

3 寺畑遺跡Ⅱ (NTTⅡ)

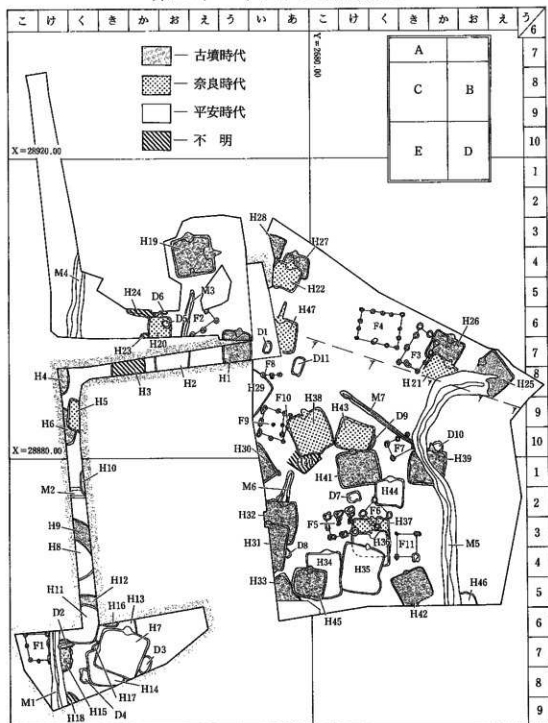
遺 構

竪穴住居址	1
竪穴状遺構	2
土坑	3
溝跡	1
ピット	

遺 物

縄文土器 (爪形文土器)
 土師器 (甗)
 須恵器 (坏・甗)
 石製品 (石鏃・石斧・削器・搔器・石匙・
 敲き石)

第Ⅱ章 中西ノ久保遺跡Ⅱ

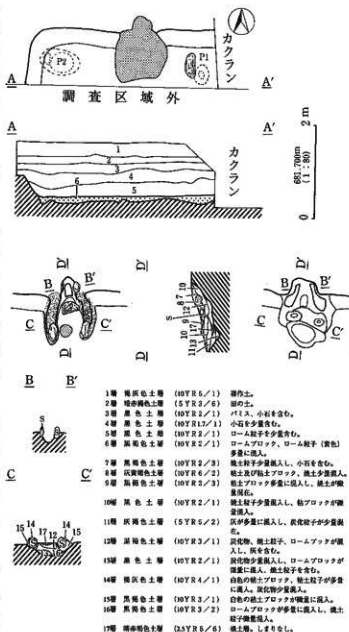


第3図 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺跡配置図 (H1~16は中西ノ久保遺跡1) 1 : 1, 000

第1節 竪穴住居址(H) 遺構名は中西ノ久保遺跡1の継続番号である。

H1号住居址

遺構はC-ラウ-6グリットに位置し、東・南側は平成4年、下水道工事に伴い行われた調査によって、すでに調査済みで、中西ノ久保遺跡1 H1号住居址に接続する。遺構は南に流れる湯川の段丘面の台地上に掘り込まれており、表土から床面までの覆土は5層認められた。1層は表土で2層は田の床土と考えられ、しまり・粘性のある暗赤褐色土である。3・4・5層は黒褐色土で遺構は4層上面から検出できた。規模は以前の調査結果を考えあわせると南北3.76m、東西約3.6m、深さ0.56m(床面)を測る。壁面はやや外傾気味に立ち上がる。床面は壁際を除き薄く貼り床かされている。ピットは北側の両コーナーに2個、以前の調査において南側の両コーナーに2個のピットが確認されており、主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置する。左右の袖は北壁から内側に大きく入り込み、粘土で構築されている。袖部先端の焚



第4図 H1号住居址実測図



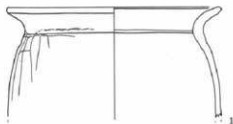
写18 H1号住居全景



写19 H1号住居かまど

口付近には石（安山岩）が埋め込まれ、これに挟まれるように焼土の堆積が認められた。また焼土の北側には石（安山岩）が2個重ねられており、支脚の役目をはたしたものと考えられる。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、北壁のやや外側に張り出す。住居の掘方は8~12cm掘り込まれており、ローム粒・ロームブロックを多量に含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は僅かに土師器の坏・甕、須恵器の坏、甕、磨り石などテンバコ5分の1箱出土した。図示できたのは1点で、土師器の甕である。口縁の形態は「く」の字状を呈し、外面にヘラ削りを施す。7C中〜後半と考えられる。



第5図 H1号住居出土遺物実測図



写20 H1号住居かまど掘方

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	(22.8)	—	—	上層 須ナデ 外面 ヘラ削り		口縁20	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	

第1表 H1号住居出土遺物観察表

H19号住居址

遺構は、湯川によって形成された段丘面の北端C-エー3グリットに位置する。住居は地山のローム土に掘り込まれ、床面までの覆土は4層確認でき、すべて黒褐色土である。規模は南北3.72m、東西4.00m、深さ0.56m（床面）を測り、平面形は方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がり壁面は堅く安定している。床面は

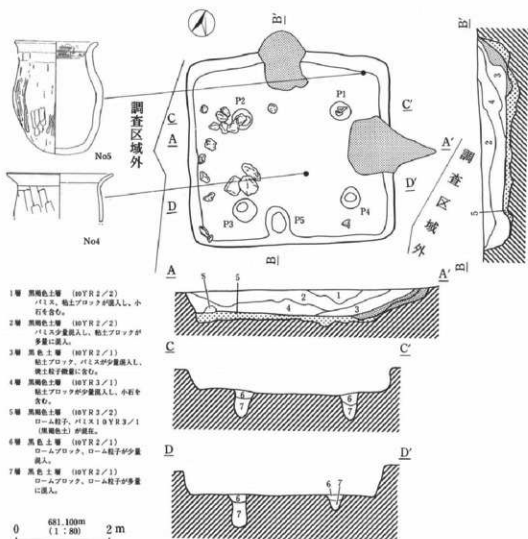


写21 H19号住居址全景（遺物あり）

やや堅く西側を中心に石が散在していた。ピットは5個確認できP1～P4が主柱穴と思われる。かまどは北壁中央、東壁中央の2カ所に存在する。東かまどは両袖が壁面から内側に約60cm入り込み、粘土を主体として構築されている。火床は両袖の間に位置し、ほぼ円形に掘り込まれ、多量の焼土が堆積していた。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、壁外に約1m張り出し



写22 H19号住居址全景 (遺物なし)

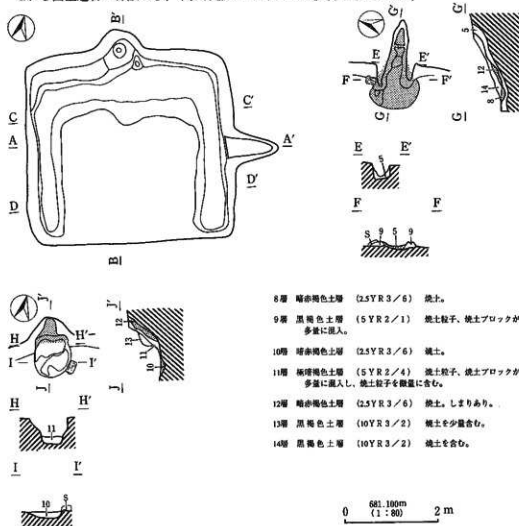


第6図 H19号住居址実測図

ている。かまどは全体的に赤く焼けしまっていた。北かまどは大部分が破壊されており、軸の確認もできなかったが、火床付近にはぼ円形の掘り込みが認められた。煙道は東かまどに比べ垂直気味に立ち上がり、壁外に約40cm張り出していた。

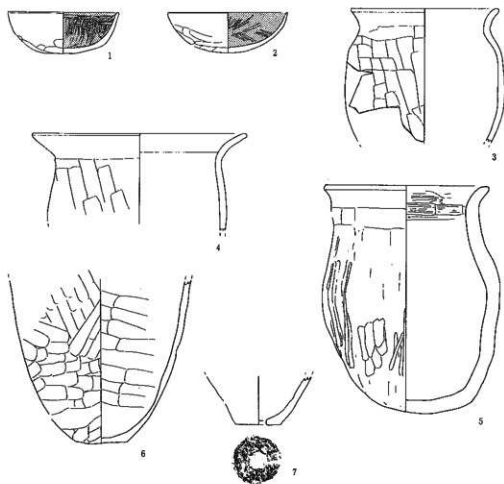
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、石製紡錘車、臼玉、磨り石などテンバコ三分の1箱出土している。図示できたのは7点である。1・2は土師器の坏で外面底部にヘラ削り、内面にミガキを施す。3～6は土師器の甕で3はやや胴丸で口縁の形態は「く」の字を呈する。4は長胴の甕と思われる、口縁の形態は「く」の字を呈し外面にヘラ削りを施す。5は全体的に器厚が厚く外面にヘラ削り、ミガキを施す。6は長胴甕の胴部下半と思われる、外面ヘラ削り、内面ヘラナデを施す。7は単口の甕の底部である。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C末～8C初頭と考えられる。



- 8層 暗赤褐色土層 (2.5YR 3/6) 焼土。
- 9層 黒褐色土層 (5YR 2/1) 焼土粒子、焼土ブロックが多数に混入。
- 10層 暗赤褐色土層 (2.5YR 3/6) 焼土。
- 11層 暗褐色土層 (5YR 2/4) 焼土粒子、焼土ブロックが多数に混入し、焼土粒子を微量に含む。
- 12層 暗赤褐色土層 (2.5YR 3/6) 焼土、しまりあり。
- 13層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 焼土を少量含む。
- 14層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 焼土を含む。

第7図 H19号住居址掘方・かまど実測図



第8図 H19号住居址出土遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	装	残存率%	接合	色調	備考
1	土師器	環	11.9	丸底	4.4	底面 ヘラ削り 内面 黒色地曜 外面 ミガキ	80	良好	10YR7/6 明黄褐色	
2	土師器	環	(13.0)	丸底	4.3	底面 ヘラ削り 内面 黒色地曜 外面 ミガキ	80	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	
3	土師器	甕	(15.0)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	35	良好	5YR6/3 藍色	
4	土師器	甕	22.9	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁90	良好	2.5YR4/6 赤褐色	
5	土師器	甕	17.6	9.5	23.0	口縁外面 横ナデ 内面 ヘラ削り	90	良好	7.5YR6/3 鈍い褐色	
6	土師器	甕	-	-	5.7	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面付近 の一部	良好	5YR3/3 暗赤褐色	
7	土師器	甕	-	4.8	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面の 一部	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	底部半口

第2表 H19号住居址出土遺物観察表



写23 H19号住居址かまど



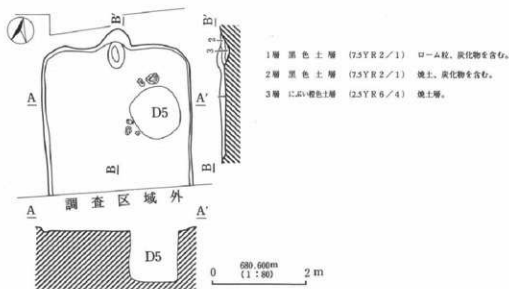
写24 H19号住居址掘方

H20号住居址

遺構はC-お-6グリットに位置し、D5に切られる。住居址の南は一部調査区外となる。覆土は単層で、地山のロームを含む黒褐色土である。規模は南北3.00m、東西3.08m、深さ0.12m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁は浅く、僅かに立ち上がりが見られる。床面はほぼ平坦で、やや堅さをもつ。ピット、周溝は認められなかった。かまどは北壁中央に構築され、火床部は楕円形に掘り込まれ、焼土の堆積が見られた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕などビニール袋に2袋出土している。図示できたのは1点である。1は土師器の坏である。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。



第9図 H20号住居址実測図



写25 H20号住居址全景



第10図 H20号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	杯	14.6	5.3	2.6	底形 円形・糸切り		40	炭灰	5YR6/4 高い褐色	

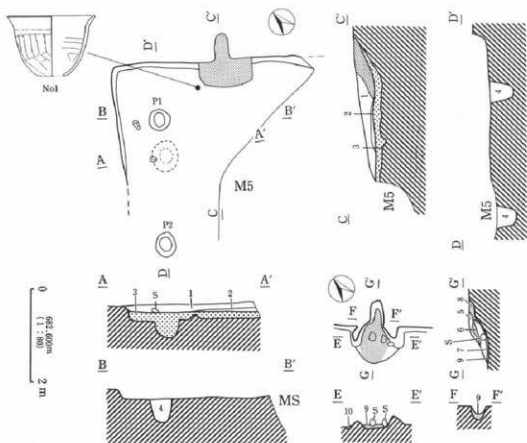
第3表 H20号住居址出土遺物観察表

H21号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面境の斜面上B-カー7グリットに位置し、東側はM5に切られる。床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層認められ、ともに地山のローム粒を含む暗褐色土である。遺構は斜面に構築されていることから、南側は確認できない。残存規模は、南北2.60m、東西4.16m、深さ0.20m（床面）を測り、平面形は方形を呈していたと思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面は中央付近に一部貼り床されび



写26 H21号住居址全景



- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1層 黒褐色土層 (50YR 2/3) ローム状、パリスを含む。 | 6層 褐色土層 (50YR 4/6) 粘土、粘土多量を含む。 |
| 2層 黒褐色土層 (50YR 2/2) ローム状、パリス、粘土を含む。 | 7層 黒褐色土層 (50YR 2/2) 灰、ローム状、赤色鉄錆ひ、しまりあり。 |
| 3層 褐色土層 (50YR 4/4) 腐り方、ローム多量を含む。 | 8層 暗赤褐色土層 (5YR 3/2) 粘土粒子、粘土フロックを含む。 |
| 4層 黒色土層 (50YR 1.5/1) 小の礫量を含む。 | 9層 黒褐色土層 (50YR 3/1) 粘土、炭化物を含む、ローム粒子混入。 |
| 5層 赤み褐色土層 (50YR 4/3) 粘土粒、灰多量を含む。 | 10層 明褐色土層 (5YR 7/2) 粘土フロック、ローム粒子混入。 |

第11図 H21号住居址実測図

ットは床の西側に2個認められた。主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置し、袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から内側に約40cm入り込み、一部地山を利用し、これを粘土で覆っている。火床は多量の焼土が堆積しており、中央付近に支脚と思われる軽石が埋め込まれていた。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、壁付近で角度を変え壁外に水平に約30cm張り出し立ち上がる。住居の

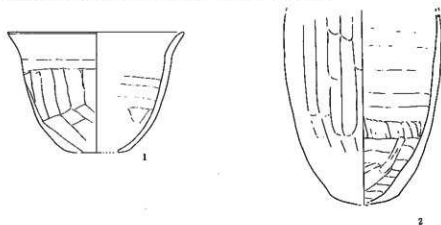


写27 H21号住居址かまど

掘方は全体に12cmほど掘り込まれ、ローム土を多く含む褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の壺・瓶、須恵器の坏・甕、石製品などテンパコ3分の1箱出土している。図示できたのは2点である。1は瓶で外面ヘラ削り、内面ヘラナゲ、底部は多口である。2は甕の長胴部の胴部下半で外面ヘラ削り、内面ヘラナゲを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C前半と考えられる。



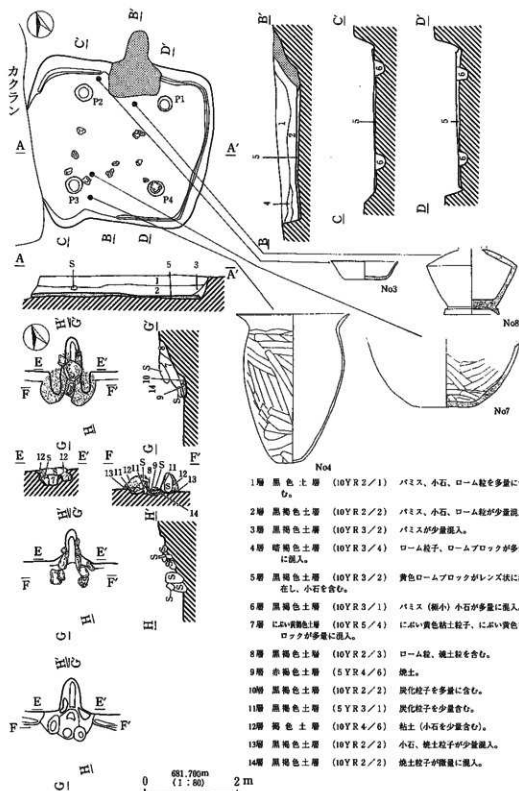
第12図 H21号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	備	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	瓶	18.8	(6.6)	13.0	外底 ヘラ削り	底面 多口 内面 ヘラナゲ	30	良好	7.6YR6/5 褐色	底面多口
2	土師器	甕	-	(7.4)	-	外底 ヘラ削り 内面 ヘラナゲ		胴部下半	良	2.6YR6/5 褐色	

第4表 H21号住居址出土遺物観察表

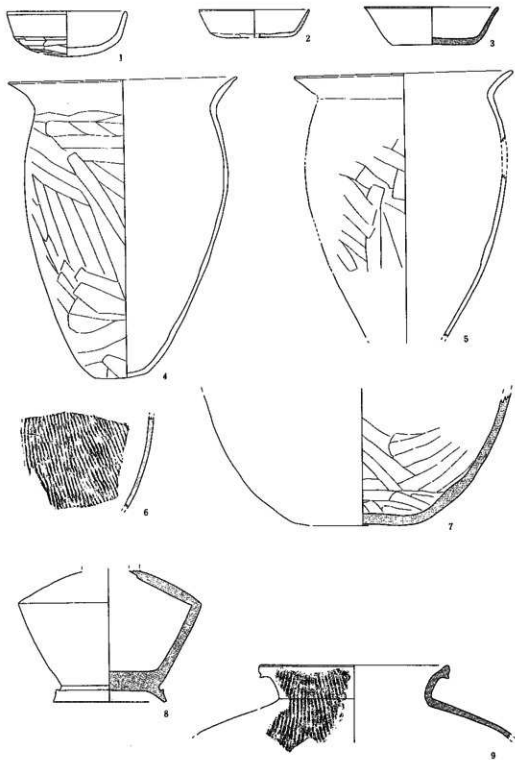
H22号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面境の斜面上C-あ-4グリットに位置し、H27を切り、西壁を攪乱によって破壊されている。床面までの覆土はかまどの覆土を除き4層確認でき、このうち1、2層が大半を占め、ともに小石、ローム粒を含む暗褐色土である。規模は南北2.96m、東西3.76m、深さ0.44m(床面)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁は垂直気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床は全体に2~4cmの厚さで貼り床されており、ピットは4個認められた。主柱穴と思われる。周囲には幅10cmほどの周溝が巡らされている。かまどは北壁の中央に構築されており、多量の粘土によって覆われていた。粘土はかまどの構築材と思われ、天井部、袖部付近に顕著に認められた。袖部は北壁から内側に約60cm入り込み、補強材として石(安山岩、軽石など)を南北方向に並べ粘土に覆われていた。かまど中央の粘土は天井部の崩れたものと考えられ、粘土直下には支脚の土台として使用したと思われる石(安山岩)がおかれ、さらにその下には多量の焼土が堆積していた。煙道は火床から立ち上がり、北壁の外側に約70cm張り出していた。



- 1層 黒色土層 (10Y R 2/1) バミス、小石、ローム粒を多量に含む。
- 2層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) バミス、小石、ローム粒が少量混入。
- 3層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) バミスが少量混入。
- 4層 暗褐色土層 (10Y R 3/4) ローム粒子、ロームブロックが多量に混入。
- 5層 黒褐色土層 (10Y R 3/2) 黄色ロームブロックがレンズ状に混在し、小石を含む。
- 6層 黒褐色土層 (10Y R 3/1) バミス (細小) 小石が多量に混入。
- 7層 におい黄褐色土層 (10Y R 5/4) におい黄色粘土粒子、におい黄色ブロックが多量に混入。
- 8層 黒褐色土層 (10Y R 2/3) ローム粒、焼土粒を含む。
- 9層 赤褐色土層 (5Y R 4/6) 焼土。
- 10層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) 炭化粒子を多量に含む。
- 11層 黒褐色土層 (5Y R 3/1) 炭化粒子を少量含む。
- 12層 褐色土層 (10Y R 4/6) 粘土 (小石を少量含む)。
- 13層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) 小石、焼土粒子が少量混入。
- 14層 黒褐色土層 (10Y R 2/2) 焼土粒子が微量に混入。

第13図 H22号住居址実測図



第14图 H22号住居址出土遗物实测图

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、
 葱、鉄製品、磨り石などテンバコ三分の二箱
 出土している。図示できたのは9点である。
 1は土師器の坏で底部付近にへら削りを施す。
 2・3は須恵器の坏でやや広めの底部にへら
 削りを施す。4・5は土師器の甕で胴部の最
 大径が肩部のやや下部にあり、口縁の形態は
 「く」の字を呈する。6・7・9は須恵器の
 甕で6の器厚は薄く、外面に叩きを施す。7
 は底部から体部にかけてで外面に叩き、内面
 にへらナデを施す。9は口縁部で、頸部の形
 態は大きく外反し、体部にたたきを施す。8
 は長頸壺と思われる。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8
 C前半と思われる。



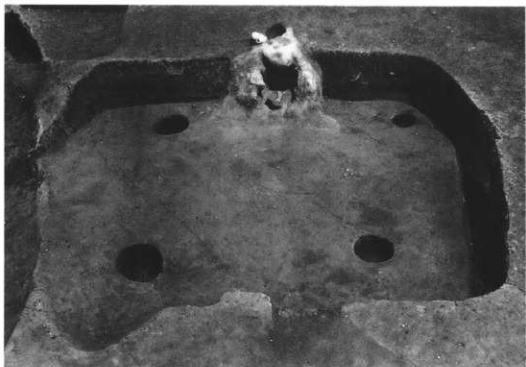
写28 H22号住居址全景



写29 H22号住居址遺物出土状況

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	構成	色調	備考
1	土師器	坏	13.0	丸底	4.8	口縁 横ナデ 底部 へら削り	60	良好	1.5YR6/6 褐色	
2	須恵器	坏	12.0	(10.0)	4.1	内外面 ロタロ横ナデ 底部 へら削り	40	良好	N8/0 灰白色	
3	須恵器	坏	14.6	8.6	4.0	内外面 ロタロ横ナデ 底部 へら削り	80	良好	N4/0 灰色	
4	土師器	甕	24.4	5.9	32.1	口縁 横ナデ 外面 へら削り 底部 へら削り	90	良好	1.5YR6/4 黄い褐色	
5	土師器	甕	23.5	-	-	口縁 横ナデ 外面 へら削り	40	良好	2.5YR6/6 褐色	
6	須恵器	甕	-	-	-	外面 叩き	体部の 一部	良好	2.5Y6/2 灰黄色	
7	須恵器	甕	-	10.6	-	外面 叩き 内面 へらナデ	20	良	1.5Y5/1 褐色	
8	須恵器	長頸壺	-	12.2	-	底部 高台張り付け	底部80	良	10GY6/1 緑灰色	
9	須恵器	甕	20.3	-	-	外面 叩き	口縁80	良好	10Y5/1 灰色	

第5表 H22号住居址出土遺物観察表



写30 H22号住居址全景



写31 H22号住居址かまど（南から）



写32 H22号住居址かまど（北から）



写33 H22号住居址かまど（東から）

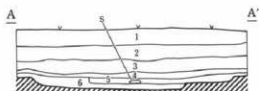


写34 H22号住居址かまど（粘土除去状態）

H23号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の北端Cー6グリットに位置し、H20に切られる。北側の大部分は調査区外となる。遺構の検出面までの土層は4層確認でき、覆土は単層である。調査規模は南北0.72m、東西3.12m、深さ0.24mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁は僅かに立ち上がり、やや外傾する。床面はやや堅さを持つ。ピット、周溝、かまどは確認できなかった。

遺物は検出時に土師器、須恵器片、鉄製品が僅かに出土した。時期は不明である。



- 1層 黄褐色土層 (5YR 5/1) 耕作土。
- 2層 暗赤褐色土層 (5YR 3/6) 砂み土、(赤土)。
- 3層 黄褐色土層 (5YR 2/1) パス土、40%少量。
- 4層 黄褐色土層 (5YR 1.5/1) 40%少量含む。

第15図 H23号住居址実測図



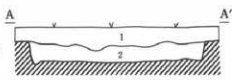
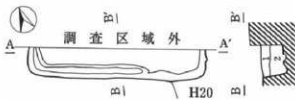
写35 H23号住居址全景(東から)

- 5層 黒色土層 (10YR 2/1) ローム粒子が少量含む。
- 6層 黒色土層 (10YR 2/1) ロームブロック、ローム粒子(黒色)が少量混入。

0 681.600m (1:80) 2m

H24号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上の北端Cー6グリットに位置し、H20に切られ、北側の大部分は調査区外となる。覆土は単層である。規模は調査規模で南北0.48m、東西3.70m、深さ0.38mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁は垂直気味に立ち上がる。床面はやや堅く、東壁から南壁際にかけて幅15cmほどの周溝が巡らされている。ピット、かまどは確認できなかった。遺物は検出時に土師器片、石製品が出土した。時期は不明である。



- 1層 黄褐色土層 (10YR 2/1) 黄色ローム粒子、ロームブロックが少量混入。
- 2層 紅褐色土層 (10YR 4/3) 黄色ローム粒子、ロームブロックが少量混入。

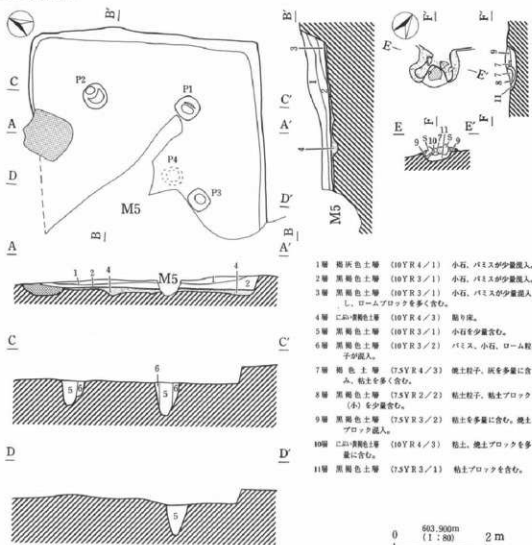
0 680.080m (1:80) 2m

第16図 H24号住居址実測図



写36 H24号住居址全景

H25号住居址

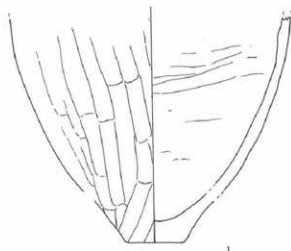


第17図 H25号住居址実測図

遺構は湯川によって形成された段丘面境の斜面上B-え-7グリットに位置し、M5に切られる。床面までの覆土はかまどの覆土を除き3層認められ、1層は小石を含む褐色灰土、2・3層はローム、小石を含む黒褐色である。規模は確認規模で南北3.96m、東西4.68m、深さ0.43m（床面）を測り、平面形は方形を呈したと思われる。壁は住居が斜面に掘り込まれていることから北壁から南壁にかけて浅くなる。床面は全体に6～14cm貼り床され、ピットは3個確認できた。支柱穴と思われる。かまどは北壁の中央のやや西よりに位置する。袖は北壁から住居内に約56cm入り込み粘土を多用し構築されている。火床はほぼ円形に掘り込まれ、焼土が堆積していた。貼り床の直下からはピットが1個確認できた。

遺物は土師器の坏、甕などが出土している。図示できたのは1点で、外面にヘラ削りを施す土師器の甕である。

古墳時代と考えられる。



第18図 H25号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	組成	色調	備考
1	土師器	甕	-	6.0	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		20	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	

第6表 H25号住居址出土遺物観察表



写37 H25号住居址全景（南から）

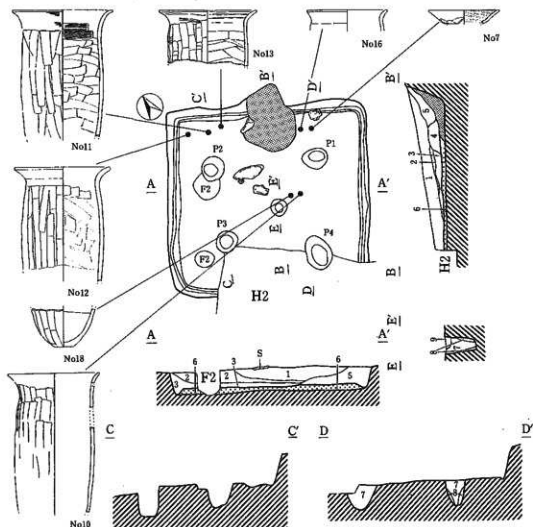


写38 H25号住居址かまど

H26号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の北側、段丘境の緩斜面上B-か-7グリットに位置し、H21に切られる。覆土はかまどの覆土を除き5層認められ、このうち1・2・3層が大半を占め

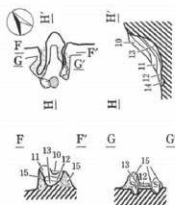
ローム、焼土粒を含む黒褐色土である。規模は南北3.75m、東西4.07m、深さ0.39m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁はやや外傾気味に立ち上がり壁面は堅く安定している。床は全体的に堅くしまっており、ピットは6個認められた。P1～P4が支柱穴と思われる。壁際には幅12～18cmの周溝が確認できた。かまどは北壁の中央に位置する。袖は北壁の内側に70cm入



- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒、パリスを含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、パリス、焼土粒、ロームブロックを含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒、パリス、焼土粒、ロームブロックを含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 2/3) 焼土粒、粘土ブロック、炭化物を含む。やせまりあり。
- 5層 黒褐色土層 (10YR 2/3) 焼土粒、粘土わずかに含む。しまりなし。
- 6層 黒褐色土層 (10YR 5/6) 凝り方。ローム多量。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 3/1) 小石少量混入し、パリス、ローム粒子を含む。
- 8層 黒褐色土層 (10YR 3/1) 小石が少量混入。
- 9層 暗褐色土層 (10YR 4/4) ローム粒子が多量に混入。

0 683.100m
(1:80) 2m

第19図 H26号住居址実測図



- 10層 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 焼土粒子、焼土ブロックが混入。
 11層 黒褐色土層 (5YR2/2) 焼土ブロック、炭化物が混入。
 12層 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土粒子、灰が少量混入。
 13層 黒褐色土層 (5YR2/1) 焼土粒子、灰が少量混入。
 14層 暗赤褐色土層 (5YR3/6) 焼土。
 15層 褐灰色土層 (10YR4/1) 白色焼土ブロック、焼土を含む。

0 683.100m
(1:80) 2 m

第20図 H26号住居址かまど実測図



写39 H26号住居址全景(南から)



写40 H26号住居址かまど(南から)

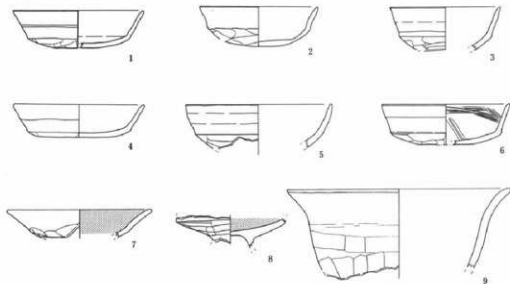
り込み、石を芯材としこれを粘土で覆っていた。また両袖先端の間に焼土の堆積が認められた。煙道は北壁の延長線上付近から急激に立ち上がる。掘方は約12cm掘り込まれ、ロームを多く含む黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、高坏、甕、甌などテンバコ3分の1箱出土している。図示できたのは18点である。1～6は土師器の坏で、丸底の底部にヘラ削りを施し、体部途中に明瞭な稜を持つ。7、8は土師器の高坏の坏部と思われ、開き気味の坏部の底部付近にヘラ削り、内面は黒色処理、ミガキを施す。9は鉢あるいは甌と思われる。10～14は土師器の長胴甕で土器の最大径が口縁部にあり、口縁の形態が丸みを帯びた「く」の字を呈し、外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施す。

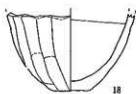
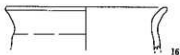
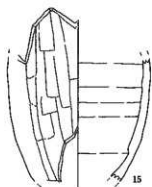
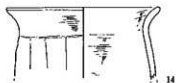
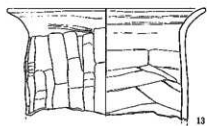
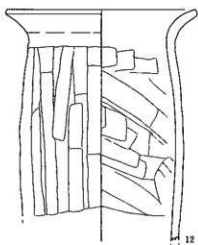
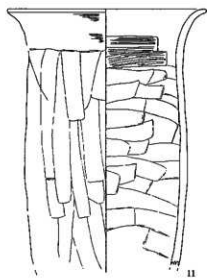
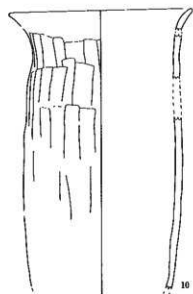
これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C後葉のものと考えられる。



写41 H26号住居址かまど



第21図 H26号住居址出土遺物実測図(1)



第22图 H26号住居址出土遗物实测图(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	産 地	色 調	備 考
1	土師器	坏	(14.0)	丸底	4.6	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	40	良好	7.5YR7/6 褐色	
2	土師器	坏	(12.8)	丸底	4.3	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	40	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
3	土師器	坏	(12.0)	丸底	—	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	30	良	7.5YR3/1 黒褐色	
4	土師器	坏	(13.9)	丸底	4.3	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	30	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
5	土師器	坏	(15.8)	丸底	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	30	良好	10YR6/3 鈍い黄褐色	
6	土師器	坏	(13.0)	—	—	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	30	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	
7	土師器	高坏	(18.4)	—	—	縁部底面 ヘラ削り 内面 黒色地埋・ミガキ	坏部30	良	5YR5/8 明赤褐色	
8	土師器	高坏	—	—	—	縁部底面 ヘラ削り 内面 黒色地埋・ミガキ	坏部40	良	5YR5/4 鈍い赤褐色	
9	土師器	瓶	(22.2)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	20	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
10	土師器	甕	18.5	—	—	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り	40	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
11	土師器	甕	(21.6)	—	—	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	80	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
12	土師器	甕	(20.6)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	70	良好	5YR6/6 褐色	
13	土師器	甕	(21.2)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	40	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	
14	土師器	甕	(16.4)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	25	良好	10YR4/3 鈍い黄褐色	
15	土師器	甕	—	—	—	外面 ヘラ削り	体部の 一部	良	7.5YR6/3 鈍い褐色	
16	土師器	甕	17.4	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁90	良	10YR6/6 明赤褐色	
17	土師器	甕	—	3.6	—	外面 ヘラ削り 内面 横ナデ	底面90	良	10YR4/3 鈍い黄褐色	
18	土師器	甕	—	4.2	—	外面 ヘラ削り	底面90	良	5YR5/8 明赤褐色	

第7表 H26号住居址出土遺物観察表

H27号住居址

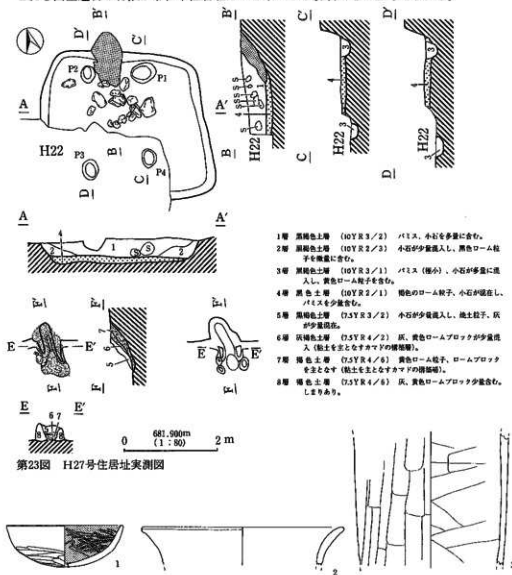
遺構は湯川によって形成された段丘面の北側、段丘境の斜面上C-あー4グリットに位置し、H22に切られる。覆土はかまどの覆土を除き2層認められ、ローム粒小石を含む黒褐色土である。規模は南北2.68m、東西3.52m、深さ0.40m(床面)を削り、平面形は隅丸方形を呈する。壁は外傾気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床面はやや堅くピットは4個確認できた。主柱穴と思われる。また住居址中



写42 H27号住居址全景(南から)

央付近には多数の石（安山岩、軽石）が散在していた。かまどは北壁のやや西側に位置し、粘土が多量に認められた。袖は北壁から内側に約50cm入り込み、火床と思われる付近に焼土の堆積は見られなかった。煙道は緩やか傾斜で立ち上がり、北壁の外側約50cmに立ち上がる。住居の掘方は8~16cmほど掘り込まれ、ローム粒、小石を含む黒褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、壺などテンバコ5分の1箱出土している。図示できたのは3点である。1は土師器の坏で、丸底の底部付近にへら削り、内面にミガキを施す。2は土師器の壺の口縁である。3は土師器の長胴壺と思われ、外面にへら削り、内面にへらナデを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C末~8C初頭のものと考えられる。



第23図 H27号住居址実測図

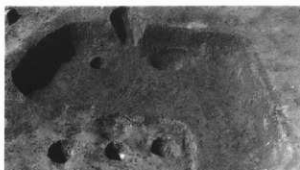
第24図 H27号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	状 成	色 調	備 考
1	土師器	坏	12.4	丸底	4.4	内面 1ガド・黒色処理 底面 ヘラ削り	40	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	
2	土師器	甕	21.6	-	-	口縁 横ナデ	100	良	5YR5/6 褐色	
3	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	体底の 一部	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	

第8表 H27号住居址出土遺物観察表



写43 H27号住居址かまど

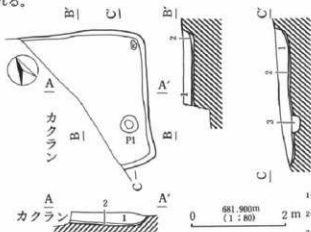


写44 H27号住居址掘方

H28号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の北側、段丘境の斜面上C-あ-3グリットに位置し、住居址の半分はすでに破壊されている。覆土は単層で小石を多量に含む黒褐色土である。規模は確認規模で南北2.76m、東西2.32m、深さ0.19m（床面）を測り、平面形は残存形態から隅丸方形形と思われる。床は全体的に6cmほどの厚さで貼り床されている。ピットは1個確認できたが、主柱穴であるかは不明である。かまどなどの施設は認められなかった。

遺物は土師器の坏、甕片がビニール袋1袋出土している。図示できたのは1点で、土師器小型甕の口縁部である。形態として、須恵器の模倣と考えられる特徴を有する。古墳時代と考えられる。



第25図 H28号住居址実測図



第26図 H28号住居址出土遺物実測図

- 1層 黒褐色土層 (10YR3/1) 小石が少量に混入し、パリスを含む。
- 2層 黒色土層 (10YR2/1) 小石が少量混入し、パリスを含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質、ローソク型が少量混入。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	整理	残存率%	使用	色調	備考
1	土師器	壺	8.8	-	-	口縁外側 口縁内側	ミガキ ミガキ	口縁100	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	

第9表 H28号住居址出土遺物観察表



写45 H28号住居址全景（南から）



写46 H28号住居址周辺状況

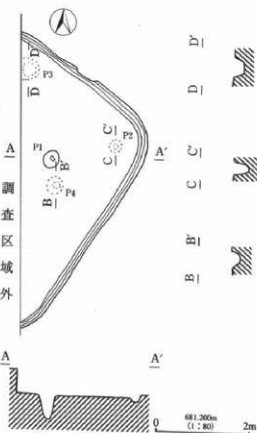
H29号住居址

遺構はC-1-8グリッドに位置し、西側は調査区外となる。住居址の掘り込みの大部分は確認できず、すでに床面の状態であった。調査規模は東西3.65m、南北5.20mを測り、平面形は隅丸方形と思われる。床面はやや堅さを持ち、壁際と思える位置には周溝が巡らされていた。ピットは1個確認できた。掘方からは新たに3個のピットが認められた。

遺物は土師器の破片などが僅かに出土した。
平安時代と考えられる。



写47 H29号住居址全景（南東から）



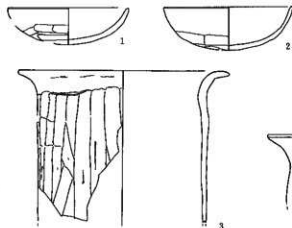
第27図 H29号住居址実測図

H30号住居址

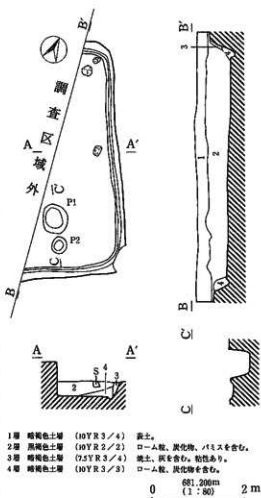
遺構は湯川によって形成された段丘面上C-1-10グリットに位置し、西側は調査区外となる。検出面から床面までの覆土は単層で、ローム、炭化物を含む黒褐色土である。調査規模は南北4.72m、東西1.96m、深さ0.40m（床面）を測り、平面形は隅丸方形と思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床面は堅く踏み固められた状態で、ピットは2個確認できた。P1は主柱穴の一つと思われる。壁際には幅15cmほどの周溝が認められた。

遺物は土師器の坏、甕、石製品などテンバコ4分の1箱出土している。図示できたのは7点である。1・2は土師器の坏でヘラ削りされた丸底の底部から湾曲しながら立ち上がり口縁部にいたる。3～7は土師器甕で3・5・7は長胴甕と思われる、外面にヘラ削り内面にヘラナデを施す。4は小型の甕でやき器厚が厚く、外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施す。6は胴丸の甕の底部周辺と思われる。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C後半のものと考えられる。

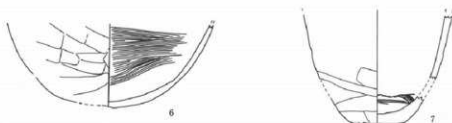


第29図 H30号住居址出土遺物実測図(1)



- 1層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 赤土。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/2) ローム粒、炭化物、パリスを含む。
- 3層 暗褐色土層 (7.5YR 3/4) 黄土、灰を含む。粘性あり。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、炭化物を含む。

第28図 H30号住居址実測図



第9図 H30号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	胴	頸	残存率%	備成	色調	備考
1	土師器	坏	(13.0)	丸底	4.0	底部ヘラ削り		20	良好	30YR6/4 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	(13.6)	丸底	4.7	底部ヘラ削り		20	良好	7.5YR8/3 淡黄褐色	
3	土師器	甕	22.5	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	内面 横ナデ	口縁90	良	5YR5/8 黒褐色	
4	土師器	甕	16.4	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	内面 ヘラナデ	90	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
5	土師器	甕	22.1	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	内面 ヘラナデ	口縁45	良好	5YR5/8 明赤褐色	
6	土師器	甕	-	10.4	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		底縁80	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	甕	-	3.6	-	外面 ヘラ削り 内面 ハケ目		底縁70	良	5Y6/8 褐色	

第10表 H30号住居址出土遺物観察表



写48 H30号住居址全景



写49 H30号住居址周辺状況

H31号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上のE-1-3グリットに位置し、H32を切り、M6に切られる。西側は調査区外となる。検出面から床面までの覆土は2層確認でき、ローム粒・炭化物を含む黒褐色土である。調査規模は南北4.84m、東西3.16m、深さ0.56m(床面)を測り、平面形は方形と思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床面は踏み固められたように堅くしまっていた。ピットは3個認められ、P1、P2が主柱穴と思われる。床面中央付近には多くの炭化材が散在していた。また北壁沿いには土師器の甕を中心とした土器が、

当時の様子をうかがわせるかのように立ち並んでいた。かまどは確認できなかった。

遺物は土師器の坏、甕、壺、甔、石製品などテンバコに3分の2箱出土している。図示できたのは10点である。1は土師器の坏で、ヘラ削りされた丸底の底部から立ち上がり、体部途中に明瞭な稜を持つ。2～7は土師器の長胴甕で外面にヘラ削り、内面にヘラナデを施す。8は胴丸の甕で外面はヘラ削り後ミガキ、内面にハケ目を施す。9は広口壺でやや丸みを帯びた底部を持ち外面ヘラ削り内面ヘラナデを施す。10は土師器の甔で底部は多口である。これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C後半と考えられる。



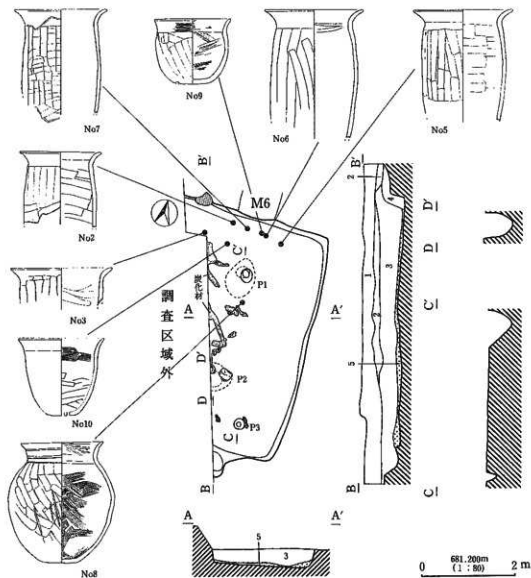
写50 H31号住居址全景（遺物あり・東から）



写51 H31号住居址全景（遺物なし・東から）

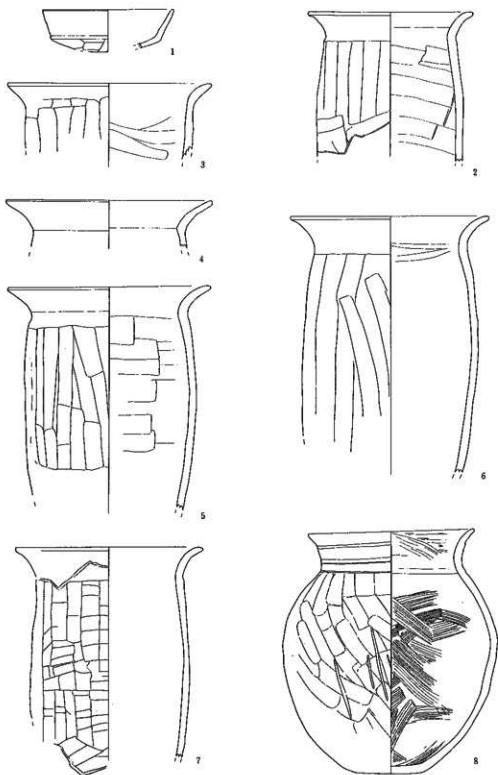


写52 H31号住居址遺物出土状況

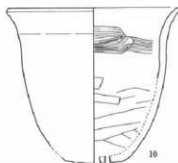
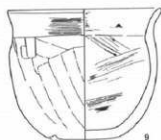


- 1層 暗褐色土層 (10YR 3/4) 表土。(無)
- 2層 暗褐色土層 (10YR 3/3) バミス含む、しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/3) ローム粒、バミス、炭化物を含む。
- 4層 黒褐色土層 (10YR 3/2) ローム粒、炭化物含む。
- 5層 灰褐色土層 (10YR 4/3) ローム粒、炭化物多く含む、織土含む。

第31図 H31号住居址実測図



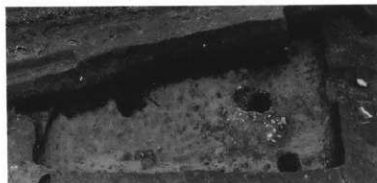
第32图 H31号住居址出土遺物実測圖(1)



第33図 H31号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	備 考	色 調	備 考
1	土師器	杯	14.0	内底	4.5	口縁 黄ナデ 底面 ヘラ削り	50	良	10YR6/2 灰黄褐色	
2	土師器	甕	17.8	-	-	口縁 黄ナデ 内面 ヘラナデ	50	良	5YR7/6 褐色	
3	土師器	甕	21.6	-	-	口縁 黄ナデ 内面 ヘラ削り	口縁40	良	7.5YR4/2 灰褐色	
4	土師器	甕	22.2	-	-	口縁 横ナデ	口縁25	良好	5YR6/6 明黄褐色	
5	土師器	甕	21.6	-	-	口縁 黄ナデ 内面 横ナデ	80	良好	5YR6/3 黄褐色	
6	土師器	甕	21.2	-	-	口縁 黄ナデ 内面 ヘラ削り	70	良好	5YR6/8 褐色	
7	土師器	甕	20.0	-	-	口縁 黄ナデ 内面 ヘラ削り	50	良好	10YR7/6 明黄褐色	
8	土師器	甕	17.7	8.2	28.1	口縁 黄ナデ 内面 ヘラ削り・ミガキ	85	良好	7.5YR6/2 灰褐色	
9	土師器	広口壺	16.4	7.0	14.0	口縁 黄ナデ 内面 ヘラ削り	80	良	5YR6/6 明黄褐色	
10	土師器	甕	8.6	4.2	16.7	内面 ハケ目	95	良好	10YR6/3 黄褐色	底形多口

第11表 H31号住居址出土遺物観察表

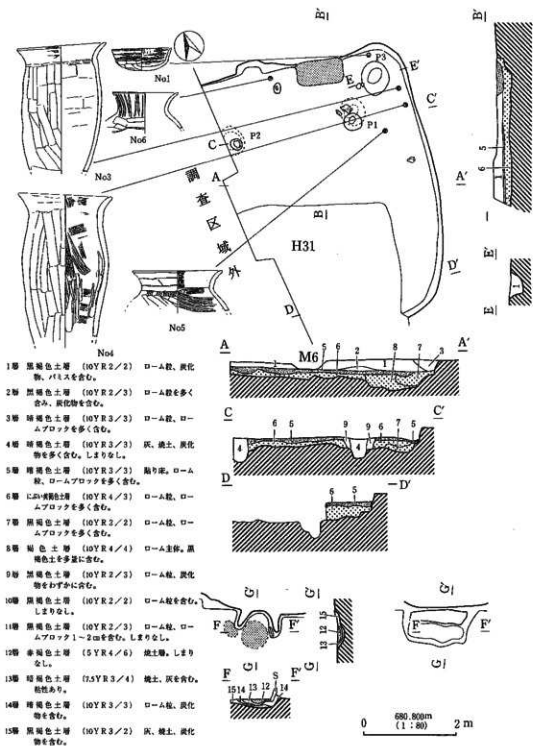


写53

H31号住居址掘方

H32号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上のE-あ-2グリットに位置し、H31に切られる。西側は調査区外となる。床面までの覆土は、かまどの覆土を除き単層でローム粒、炭化物を含む黒褐色土である。調査規模は南北5.52m、東西4.28m、深さ0.32m(床面)を測り、平面形は隅丸方



第34図 H32号住居址実測図

形と思われる。床面はかまどの付近を除き全体的に3～8cmの厚さで貼り床されていた。ピットは3個確認でき、P1、P2は主柱穴と思われる。かまどは北壁のやや東よりに位置するが大部分は破壊されている。袖は北壁から住居内に約50cm入り込み、東袖の先端の内側には石が埋め込まれていた。火床はほぼ円形に掘り込まれ、焼土が堆積していた。住居址の掘方は8～20cm掘り込まれ、地山のローム土を多量に含んだにぶい黄褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕がテンバコに3分の1箱出土している。図示できたのは9点である。1・2は土師器の坏でヘラ削りされた丸底の底部から



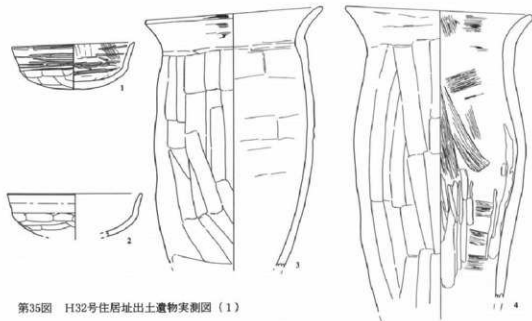
写54 H32号住居址全景(東から)



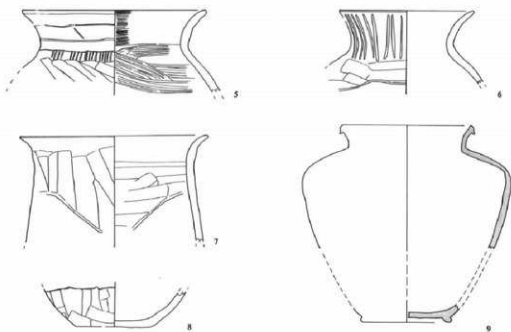
写55 H32号住居址かまど

立ち上がり、体部途中に明瞭な稜を持ち、そこからやや外反気味に立ち上がり口縁部に至る。3・4・7は土師器の長胴甕で口縁は緩やかに外反し、外面にヘラ削り、内面にヘラナデ(4はハケ目・ミガキ)を施す。6は土師器の甕の口縁で、口縁外面に縦方向のミガキを施す。9は須恵器の壺で外面にたたきを施し、灰釉が付着している。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C中頃と考えられる。



第35図 H32号住居址出土遺物実測図(1)



第36図 H32号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	杯	13.1	丸底	8.0	口縁外面 ミガキ 底面 ヘラ削り 内面 ミガキ・クシ目		90	良	7.5YR6/4 鈍い褐色	
2	土師器	杯	14.2	-	-	口縁 横ナデ 底面 ヘラ削り		30	良	10YR7/4 鈍い黄褐色	
3	土師器	甕	19.6	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		90	良	7.5YR5/6 明褐色	
4	土師器	甕	20.0	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ・ミガキ・ハナ目		90	良好	7.5YR5/6 明褐色	
5	土師器	甕	19.4	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁25		良	5YR7/4 鈍い褐色	
6	土師器	甕	14.5	-	-	口縁 縦方向ミガキ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁40		良	5YR6/6 褐色	
7	土師器	甕	20.0	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		50	良好	10YR7/6 明黄褐色	
8	土師器	甕	-	8.0	-	外面 ヘラ削り	底面65		良好	7.5YR5/5 褐色	
9	須恵器	壺	(13.8)	(9.4)	-	外面 叩き		15	良好	2.5Y2/1 黒色	

第12表 H32号住居址出土遺物観察表



写56 H32号住居址遺物出土状況



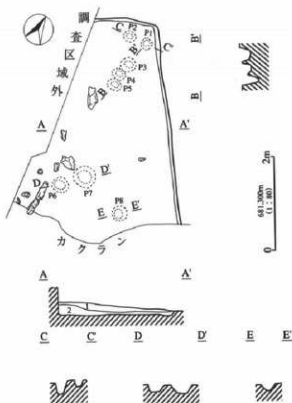
写57 H32号住居址遺物出土状況

H33号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の南端Eーいー5グリットに位置しH45を切る。南は湯川に向かって崩落しており、西側は調査区外となる。床面までの覆土は2層でローム粒、炭化物等を含む黒褐色土である。調査規模は南北4.64m、東西3.44m、深さ0.19m（床面）を測り、平面形は方形と思われる。床はやや堅いが貼り床はされていない。また、ピットは8個認められたが主柱穴かは不明である。かまどは確認できなかった。

遺物は土師器の甕、壺などテンバコ4分の1箱出土している。1は土師器の長胴甕で口縁の形態は「く」の字を呈し、外面にヘラ削りを施す。2は土師器のやや小ぶりの甕で、口縁・体部外面に丁寧なヘラ削りを施す、3は甕の底部と思われる。4～7は小型の甕、壺の口縁部である。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は6Cと考えられるが、5Cの特徴を有する土器も認められた。（4・5・6・7）

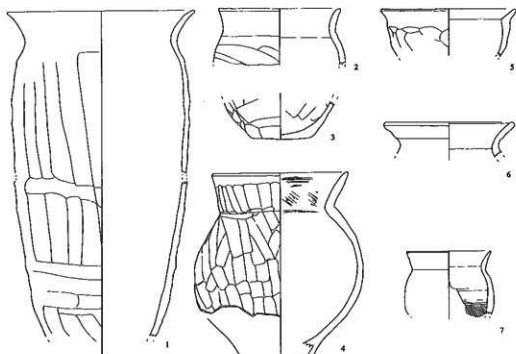


- 1層 黒褐色土層 (10YR2/3) パリスを含む。Lミナあり。
 2層 黒褐色土層 (10YR3/3) ローム粒、パリス、炭化物を含む。

第37図 H33号住居址実測図



写58
 H33号住居址
 全景（東から）



第38図 H33号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	面	蓋	残存率%	状態	色調	備考
1	土師器	甕	19.9	-	-	口縁 横ナゲ 外面 ヘラ削り		40	良	6YR5/3 鈍い赤褐色	
2	土師器	甕	13.0	-	-	口縁 横ナゲ 底面 ヘラ削り 内面 ハケ目		口縁25	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	甕	-	6.0	-	外面 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナゲ		底面のみ	良	7.5YR5/6 明褐色	
4	土師器	甕	14.4	(7.6)	19.5	口縁外面 ヘラ削り 外面 ヘラ削り		70	良好	2.5YR5/6 褐色	
5	土師器	広口壺	14.6	-	-	口縁 横ナゲ 外面 ヘラ削り 内面 ハケ目		口縁50	良	5YR5/6 明赤褐色	
6	土師器	甕	14.0	-	-	口縁 横ナゲ		口縁25	良好	7.5YR5/6 明褐色	
7	土師器	小型甕	9.0	-	-	口縁 ミガキ 内面		口縁30	良好	10YR5/4 赤褐色	

第13表 H33号住居址出土遺物観察表

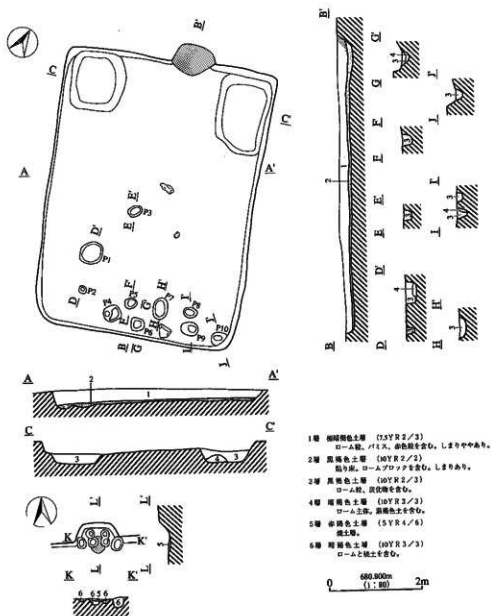
H34号住居址

遺構は湧川によって形成された段丘面の南端D-C-4グリットに位置し、H35、H45を切る。床面までの覆土は単層でローム粒を含み、ややしまりのある黒褐色土である。規模は南北5.76m、東西4.20m、深さ0.24m（床面）を測り、平面形は南北に長い長方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、しまりがある。床面は堅く4～8cmの厚さで貼り床されていた。ピットは10個確認できた。北東・北西コーナーには方形の浅い土坑が認められた。かまどは北壁中央に位置する

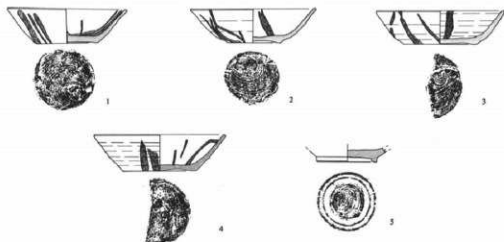
が、大部分は破壊されており掘方の確認となった。かまど掘方は火床と思われる付近にはほぼ円形の掘り込みが見られ、ここを中心に左右均等に配列する3対のピットが確認できた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、砥石などテンバコ4分の1箱出土している。図示できたのは5点で、須恵器の坏である。1～4は回転糸切りされた平らな底部からやや開き気味に口縁部へと立ち上がる。5は底部回転糸切り後高台張り付けである。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C末～9C初頭と考えられる。



第39図 H34号住居址実測図



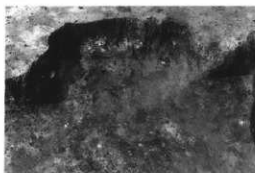
第40図 H34号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	構成	色調	備考
1	須恵器	環	12.8	6.4	3.8	内丸面 ロクロナザ 底面 凹縁未切り		80	良好	10YR6/1 灰褐色	火だすき
2	須恵器	環	14.0	6.7	3.6	内丸面 ロクロナザ 底面 凹縁未切り		90	良好	5YR6/1 灰色	火だすき
3	須恵器	環	(13.8)	7.8	3.6	内丸面 ロクロナザ 底面 凹縁未切り		50	良好	10CY4/1 暗緑灰色	火だすき
4	須恵器	環	(14.0)	7.8	3.9	内丸面 ロクロナザ 底面 凹縁未切り		40	良好	10Y6/1 灰色	火だすき
5	須恵器	高台付環	-	6.3	-	底面 凹縁未切り 縁高台張り付け	底面90		良好	N5/0 灰色	

第14表 H34号住居址出土遺物観察表



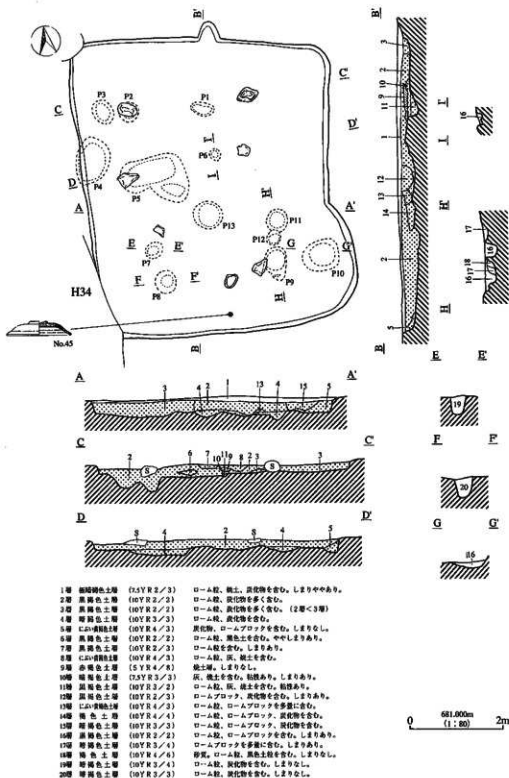
写59 H34号住居址全景(西から)



写60 H34号住居址かまど

H35号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面南端のD-1けー4グリットに位置し、H34、H36を切る。床面までの覆土は単層でローム、炭化物を含む、ややしまりのある暗褐色土である。規模は南北6.12m、東西4.92m、深さ0.14m(床面)を測り、平面形はやや隅の丸い方形である。壁は浅く南東コーナー付近に張り出し部が存在した。床面は堅くしまっており、住居の中央付近に焼土の散布が見られた。床面上からピットの確認はできなかったが、床面に3個の扁平な石(安山岩)



第41図 H35号住居址実測図

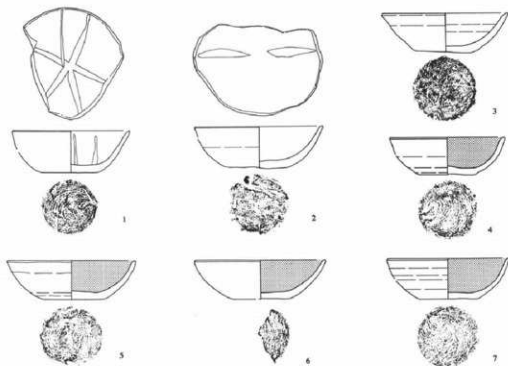
が埋め込まれており、礎石の役目を果たしていた可能性が考えられる。かまどは北壁中央に位置するが大部分は破壊されており掘方の調査となった。かまどの掘方は、煙道部がやや北壁外に張り出し、火床と思われる部分は南北に長く楕円形に掘り込まれていた。焼土の堆積は認められなかった。住居の掘方は全体に20～25cm掘り込まれており、地山のロームを多量に含んだ暗褐色土が埋め込まれていた。床下からは13個のピットが確認できた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、灰釉陶器、蓋、砥石、磨り石などテンパコに2箱出土している。出土遺物は9C末～10C、8C末～9Cの2時期の遺物が認められる。本住居址は9C末～10C代のものと考えられ、8C末～9Cの遺物は切り合い関係にあるH36の混入遺物の可能性が考えられる。(No.31, 32, 33, 34, 35, 39, 40, 41, 44, 45)

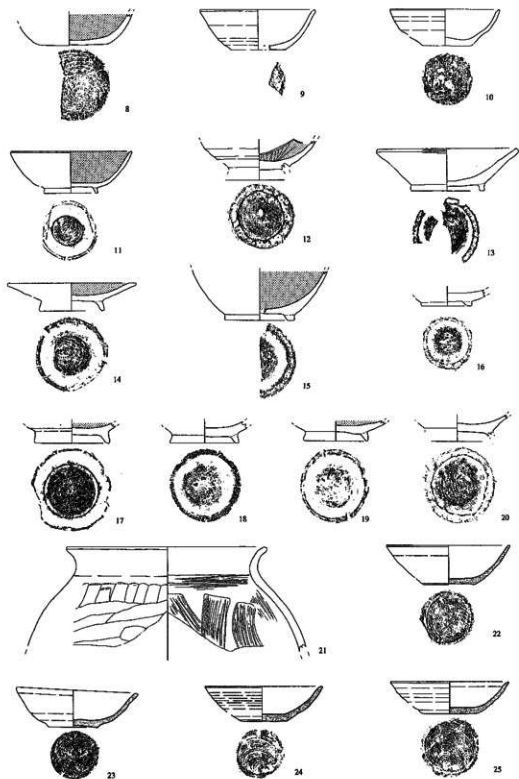


また、21は古墳時代の甕で混入遺物と考えられる。

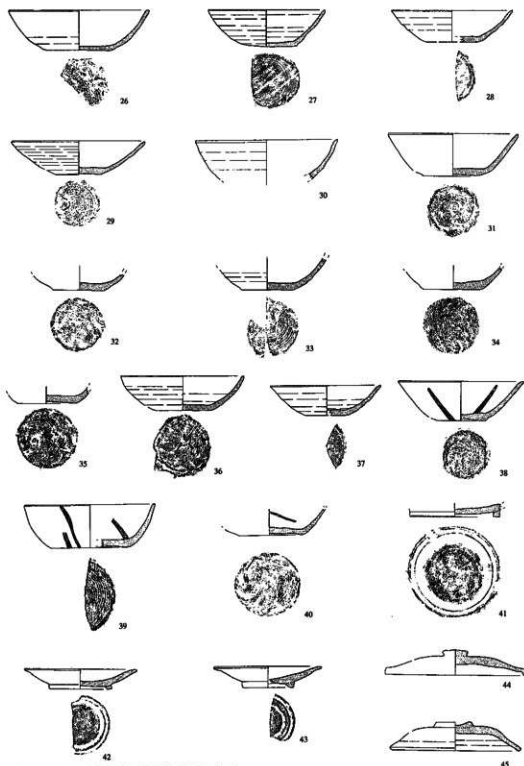
写61 H35号住居址全景(西から)



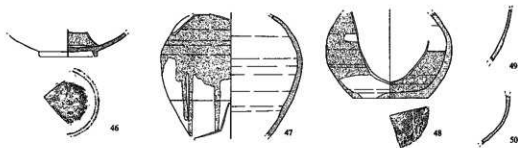
第42図 H35号住居址出土遺物実測図(1)



第43圖 H35号住居址出土遺物実測圖(2)



第44图 H35号住居址出土遺物実測图(3)



第45図 H35号住居址出土遺物実測図(4)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	装	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	環	12.4	6.0	4.4	外面 放射状の縮文	ロクロナデ 内面 放射状の縮文	50	良好	7.5YR7/6 褐色	縮文
2	土師器	環	13.8	4.5	6.0	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	90	良好	5YR7/4 灰色	縮文
3	土師器	環	13.5	6.0	4.1	外面 ヘラ刷り	ロクロナデ 底面	90	良好	5YR7/6 褐色	
4	土師器	環	12.4	5.8	4.0	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	90	良好	5YR7/6 褐色	
5	土師器	環	13.7	6.2	4.1	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	70	良好	5YR7/6 褐色	
6	土師器	環	14.2	5.8	4.1	外面 縮文	ロクロナデ 底面 ヘラ刷り	25	良好	5YR7/4 褐色	
7	土師器	環	13.2	6.4	4.3	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
8	土師器	環	-	7.6	-	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	35	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
9	土師器	環	12.6	5.8	4.3	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り	20	良好	7.5YR7/6 褐色	
10	土師器	環	11.8	5.2	4.0	外面 縮文	ロクロナデ 底面 ヘラ刷り	40	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
11	土師器	輪	13.0	5.8	4.4	外面 縮文	ロクロナデ 底面 回転糸切り 縁高台張り付け	40	良好	5YR7/6 明褐色	
12	土師器	輪	-	-	-	内面 縮文	黒色地層・ミガク 底面 回転糸切り 縁高台張り付け	50	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
13	土師器	輪	15.6	8.1	4.5	内面 縮文	黒色地層・ミガク 底面 回転糸切り 縁高台張り付け	60	良好	10YR7/4 鈍い褐色	
14	土師器	輪	13.8	7.0	3.0	内面 縮文	黒色地層 外面 底面 回転糸切り 縁高台張り付け	50	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
15	土師器	輪	-	7.6	-	底面 内面	回転糸切り 縁高台張り付け	30	良好	7.5YR7/6 褐色	
16	土師器	輪	-	5.5	-	底面	回転糸切り 縁高台張り付け	40	良好	7.5YR7/6 褐色	
17	土師器	輪	-	8.0	-	内面 底面	黒色地層 回転糸切り 縁高台張り付け	50	良好	7.5YR7/6 鈍い褐色	
18	土師器	輪	-	7.5	-	底面	回転糸切り 縁高台張り付け	30	良好	7.5YR7/6 褐色	
19	土師器	輪	-	7.0	-	内面 底面	黒色地層 回転糸切り 縁高台張り付け	25	良好	7.5YR7/6 褐色	
20	土師器	輪	-	-	-	底面	回転糸切り 縁高台張り付け	40	良好	5YR7/6 褐色	
21	土師器	環	(21.6)	-	-	外面 内面	ヘラ刷り ハケ目	口径20	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
22	須恵器	環	13.8	5.4	4.1	内外面 底面	ロクロナデ 回転糸切り	40	良好	10YR7/5 鈍い黄褐色	

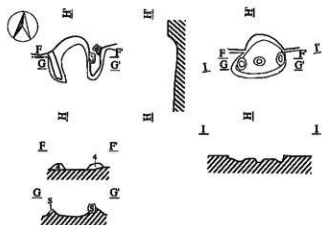
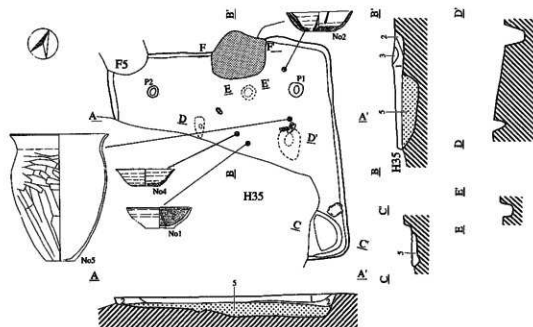
第15表 H35号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	副 産	残存率%	産 地	色 調	備 考
23	須臾器	杯	13.0	5.2	4.0	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	30	良好	7.5YR6/4 黄い褐色	
24	須臾器	杯	12.8	5.3	3.7	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良好	5Y7/2 灰白色	
25	須臾器	杯	12.8	5.9	3.4	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	50	良好	2.5Y5/1 オリーブ灰	
26	須臾器	杯	13.0	7.2	4.2	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良好	N5/0 灰色	
27	須臾器	杯	12.6	5.6	3.9	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	55	良好	10B2/6 青灰色	
28	須臾器	杯	13.0	6.0	3.4	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	30	良好	5Y5/1 灰色	
29	須臾器	杯	14.4	4.8	3.6	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良好	2.5Y5/1 黄灰色	
30	須臾器	杯	13.0	--	--	内外面 ロクロナデ	25	良好	7.5Y5/1 灰色	
31	須臾器	杯	14.0	6.5	4.5	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良	N1.5/0 黒色	
32	須臾器	杯	--	5.6	--	底面 回転糸切り	30	良	5Y4/1 灰色	
33	須臾器	杯	--	5.6	--	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	30	良好	5Y5/1 灰色	
34	須臾器	杯	--	6.2	--	底面 回転糸切り	30	良好	2.5Y5/1 黄灰色	火だすき
35	須臾器	杯	--	6.2	--	底面 回転糸切り	25	良好	N4/0 灰色	火だすき
36	須臾器	杯	13.4	5.8	3.6	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	40	良好	10Y5/1 緑灰色	
37	須臾器	杯	(12.0)	(4.8)	3.2	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	20	良好	1.5GY5/1 オリーブ灰	
38	須臾器	杯	13.4	5.0	4.2	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	60	良好	2.5Y5/1 黄灰色	火だすき
39	須臾器	杯	13.8	6.6	4.4	内外面 ロクロナデ 底面 回転糸切り	30	良	7.5YR7/4 黄い褐色	火だすき
40	須臾器	杯	--	6.4	--	底面 回転糸切り	60	良	7.5YR5/1 灰色	火だすき
41	須臾器	高台付杯	--	9.6	--	底面 回転糸切り後高台張り付け	50	良好	N5/0 灰色	
42	須臾器	高台付杯	12.0	6.0	3.1	底面 回転糸切り後高台張り付け	30	良好	10YR5/1 緑灰色	
43	須臾器	高台付杯	(11.0)	(5.4)	(2.2)	底面 回転糸切り後高台張り付け	30	良好	10GY5/1 緑灰色	
44	須臾器	蓋	13.0	--	2.7	ロクロナデ つまみ張り付け	70	良好	7.5Y7/1 灰白色	
45	須臾器	蓋	14.0	--	2.6	ロクロナデ つまみ張り付け	50	良好	N5/0 灰色	
46	灰釉陶器	皿	--	(6.4)	--	底面 回転糸切り後高台張り付け	20	良好	N5/0 灰白色	灰釉付着
47	須臾器	壺	--	--	--	ロクロナデ	20	良好	N7/0 白灰色	自然釉 付着
48	須臾器	壺	--	(3.0)	--	底面 回転糸切り ロクロナデ	15	良好	N5/0 緑灰色	自然釉 付着
49	灰釉陶器	壺	--	--	--	ロクロナデ	破片	良好	5GY7/1 明オリーブ灰	灰釉付着
50	灰釉陶器	壺	--	--	--	ロクロナデ	破片	良好	N7/0 白灰色	灰釉付着

第16表 H35号住居址出土遺物観察表(2)

H36号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の南D-く-3グリットに位置し、H35に切られ、H37を切る。床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層で、1層はローム粒、粘土粒を含む黒褐色土、2層は壁際に堆積したロームブロックを含む黒褐色土である。規模は南北4.24m、東西4.48m、深さ0.16m（床面）を測り、平面形はやや隅丸の方形である。壁はやや外傾し立ち上がる。床面は空く踏み固められた状態で、ピットは2個認められた。主柱穴と思われる。かまどは北壁のほぼ中央に位置する。袖は北壁から住居内に約70cm入り込み、粘土・ロームを含んだ暗褐色土で構

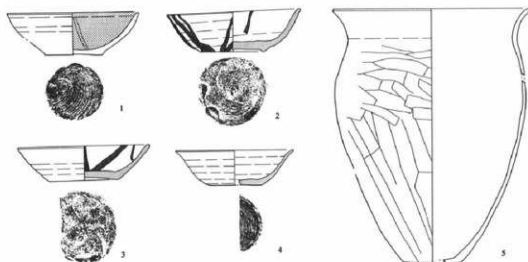


- 1層 黒褐色土層 (MYR 2/2)
ローム粒、ロームブロック、粘土粒を含む。
- 2層 黒褐色土層 (MYR 2/3)
ローム粒、ロームブロックを含む。
(1層<2層)
- 3層 黒褐色土層 (MYR 2/3)
ローム粒、粘土粒、焼土、炭化物を含む。
- 4層 黒褐色土層 (MYR 2/3)
ローム粒、ロームブロックを多く含む。
Lよりなし。
- 5層 黒褐色土層 (MYR 2/3)
ローム粒、粘土、焼土、炭化物を含む。

0 681.000m
(1: 縮) 2m

第46図 H36号住居址実測図

築されていた。住居の掘方は全体に8～30cmの厚さで掘り込まれており、ローム粒、粘土、焼土、炭化物を含む黒褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、砥石、磨り石などテンバコに3分の2箱出土している。図示できたのは5点である。1～4は、須恵器の坏で回転糸切りされた底部から立ち上がり口縁部に至る。5は土師器の甕で、土器の最大径が口縁部にあり、やや小ぶりの底部から立ち上がり、肩部付近に体部の最大径がくる。本住居址は出土遺物の特徴から8C末～9C初頭と考えられる。



第47図 H36号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	14.1	9.2	4.3	内外面 ロケロナデ 底部 回転糸切り	60	良好	5YR7/6 褐色	
2	須恵器	坏	14.2	9.4	4.4	内外面 ロケロナデ 底部 回転糸切り	90	良好	10Y3/1 灰色	火だすき
3	須恵器	坏	14.0	7.3	4.2	内外面 ロケロナデ 底部 回転糸切り	55	良	N4/0 灰色	火だすき
4	須恵器	坏	(12.7)	(5.6)	4.2	内外面 ロケロナデ 底部 回転糸切り	30	良好	10R6/1 暗青灰色	
5	土師器	甕	21.2	6.2	27.3	口縁 ナデ 外面 ヘウ磨り	70	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	

第17表 H36号住居址出土遺物観察表



写62 H36号住居址全景



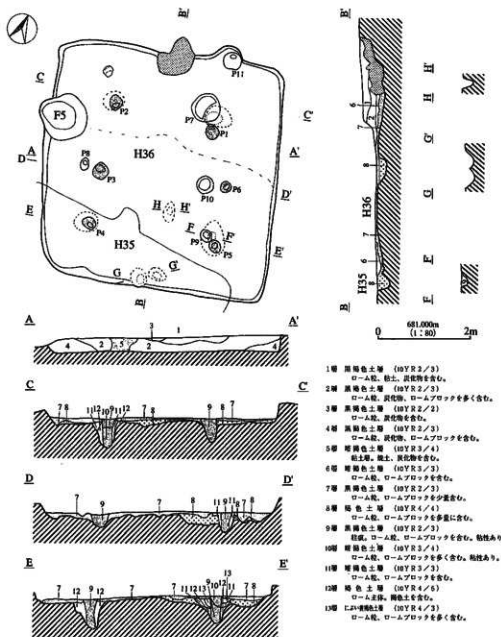
写63 H36号遺物



写64 H36号遺物

H37号住居址

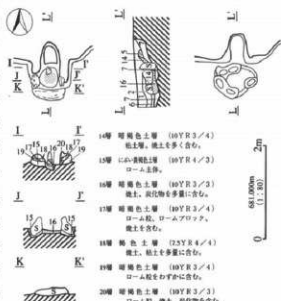
遺構は湯川によって形成された段丘面の南D—く—3グリットに位置し、H36に切られる。床面までの覆土はかまどの覆土を除き4層確認でき、ローム粒、粘土粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は南北4.84、東西4.80m、深さ0.29m（床面）を測り、平面形はやや隅丸の方である。壁は垂直気味に立ち上がり、堅く安定している。床はかまど付近を除き、4～6cmの厚さ



- 1層 黒褐色土層 (HVR2/3)
ローム粒、粘土、炭化物を含む。
- 2層 黒褐色土層 (HVR2/3)
ローム粒、炭化物、ロームブロックを多く含む。
- 3層 黒褐色土層 (HVR2/2)
ローム粒、炭化物を含む。
- 4層 黒褐色土層 (HVR2/3)
ローム粒、炭化物、ロームブロックを含む。
- 5層 黒褐色土層 (HVR3/4)
粘土土、粘土、炭化物を含む。
- 6層 黒褐色土層 (HVR3/3)
ローム粒、ロームブロックを含む。
- 7層 黒褐色土層 (HVR2/3)
ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 8層 褐色土層 (HVR4/4)
ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 9層 黒褐色土層 (HVR2/3)
炭粒、ローム粒、ロームブロックを含む。粘性あり。
- 10層 黒褐色土層 (HVR3/4)
ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性あり。
- 11層 黒褐色土層 (HVR3/3)
ローム粒、ロームブロックを含む。
- 12層 褐色土層 (HVR4/6)
ローム粒、陶土を含む。
- 13層 土中埋蔵地層 (HVR4/3)
ローム粒、ロームブロックを多く含む。

第48図 H37号住居址実測図

で貼り床されている。ピットは11個確認できP1～P6が主柱穴と考えられる。これらのピットには、添え柱らしき小ピットが付属する。かまどは北壁の中央に位置する。袖は北壁から内側に約60cm入り込み、粘土・焼土を含む暗褐色土で構築されていた。先端に石が埋め込まれており、その南側には炊き口部の天井石と思われる長方形の扁平な石が横たわっていた。火床はほぼ円形に掘り込まれ、焼土が堆積し、軽石製の面取りされた支脚が確認できた。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、北壁の外側50cmの地点に立ち上がる。住居の掘方は部分的に掘り込まれ、ロームを多量に含む褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の甕などテンパコに3分の1箱出土している。1は土師器甕の底部、3は須恵器の坏で、平らにヘラ削りされた大きめの底部からやや開き気味に立ち上がり口縁部へと至る。2は須恵器の甕で外面にたたきを施す。本住居は8C中頃と考えられる。



第49図 H37号住居址かまど実測図



写65 H37号住居址全景(西から)



写66 H37号住居址かまど



第50図 H37号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	構成	色 調	備 考
1	土師器	甕	—	5.4	—	底部・外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部50	良材	7.5YR6/4 鈍い褐色	
2	須恵器	甕	—	—	—	外面 叩き	体部一部	良材	10YR6/2 灰黒褐色	
3	須恵器	環	14.4	8.4	3.4	内面 ロウソク 底面 回転糸切り	60	良材	7.5YR6/1 灰色	火だすき

第18表 H37号住居址出土遺物観察表



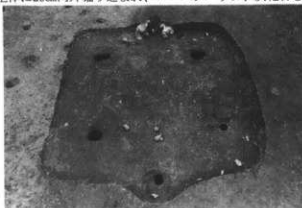
写67 H37号住居址掘方



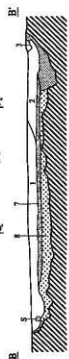
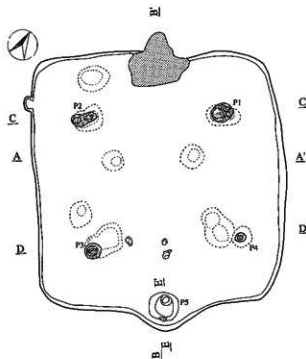
写68 H37号住居址かまど掘方

H38号住居址

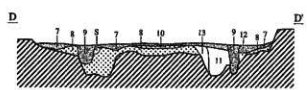
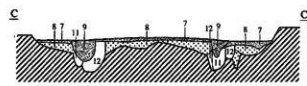
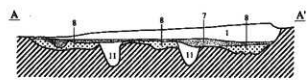
遺構は湯川によって形成された段丘面上B-C-9グリッドに位置し、H40を切る。床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層でローム粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は南北5.36m、東西5.08m、深さ0.35m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。南壁中央付近には張り出し部を持つ。壁はやや外傾気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床はかまど付近を除き10～14cmの厚さで貼り床されている。ピットは5個確認でき、P1～P4が支柱穴である。かまどは北壁中央に位置する。袖は北壁から住居内に約70cm入り込み、芯材に石を利用し、これに炭化物、ロームを含む褐色土及び粘土を覆い構築されていた。火床は南北に長い楕円形状に掘り込まれ、焼土が堆積し、軽石製の支脚が残存していた。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、北壁の外側40cmに立ち上がる。住居の掘方は全体に20cm内外掘り込まれ、ロームブロック、炭化物を含む黒褐色土が埋め込まれていた。また掘方からは多くのピットが確認できた。特に支柱穴付近は2～3個の柱穴らしきピットが切り合っており、本住居址は数回の建て替えが行われたものと予測できた。遺物は土師器の環、高環、甕、須恵器などテンバコ1箱出土している。図示できたのは11点である。1・2は土師器の環で丸底の底部にヘラ削りを施す。3



写69 H38号住居址全景（南から）



- 1層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
ローム状、炭化物を含む。
- 2層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
ローム状、炭化物、粘土、粘土層を含む。
- 3層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
ローム状、炭化物、粘土、粘土、粘土プロットを含む。
- 4層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
粘土が多量に含む炭化物を含む。
- 5層 赤褐色土層 (HVR 4/6)
粘土が多量に含む炭化物を含む。
- 6層 黒褐色土層 (HVR 2/1)
炭層、炭化物が多量を含む。
- 7層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
粘土状。ローム状、ロームプロットを含む。L2層あり。
- 8層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
ローム状を含む。ロームプロット7<6<あり。
- 9層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
粘土、炭化物。ロームプロットを含む。L2層あり。
- 10層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
ローム多量に含む。L2層あり。
- 11層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
ローム状含む。L2層あり。
- 12層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
ローム状、ロームプロット多量を含む。L2層あり。
- 13層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
ローム状、ロームプロット多量を含む。
- 14層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
灰、粘土、炭化物を含む。粘土あり。
- 15層 黒褐色土層 (HVR 2/2)
ロームプロットを含む。粘土あり。
- 16層 黒褐色土層 (HVR 3/3)
粘土、炭化物。ロームプロットを含む。粘土あり。
- 17層 赤褐色土層 (HVR 1/3)
粘土層、炭化物を含む。
- 18層 黒褐色土層 (HVR 2/3)
炭化物、粘土を含む。
- 19層 赤褐色土層 (HVR 4/6)
ローム状、炭化物を含む。L2層あり。

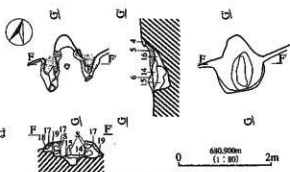


0 600.00m (1:80) 2m

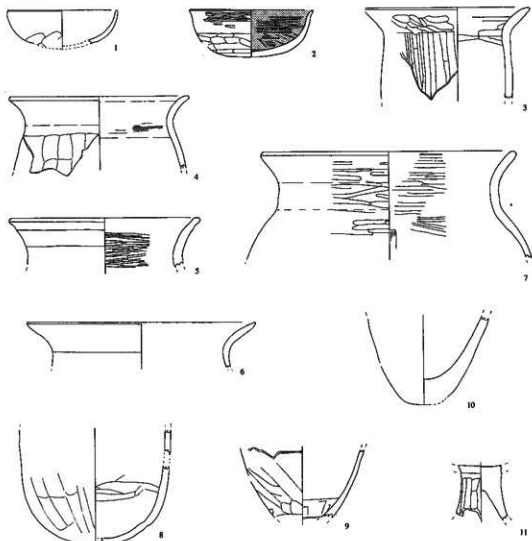
第51図 H38号住居址実測図

～7は土師器甕の口縁で3～6は口縁の形態が「く」の字を呈し、7は口縁の形態が緩やかな「く」の字状を呈する。8～10は甕の底部である。11は高坏の脚部と思われ、背面にヘラ削りを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C中頃のものと考えられる。



第52図 H38号住居址かまど実測図



第53図 H38号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	杯	(11.7)	丸底	—	底面周辺 ヘラ削り	30	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
2	土師器	杯	13.4	丸底	5.0	外面 口縁ミガキ 底面 ヘラ削り	50	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色	
3	土師器	甕	(17.8)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁35	良好	5YR4/2 灰褐色	
4	土師器	甕	(18.4)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁25	良好	7.5YR6/4 灰褐色	
5	土師器	甕	(20.6)	—	—	口縁外面 横ナデ 口縁内面 ミガキ	口縁35	良好	7.5YR7/6 褐色	
6	土師器	甕	(24.4)	—	—	口縁 横ナデ	口縁25	良	5YR6/6 褐色	
7	土師器	甕	(27.6)	—	—	内外面 ミガキ	口縁25	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
8	土師器	甕	—	丸底	—	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面50	良	5YR6/4 鈍い赤褐色	
9	土師器	甕	—	—	—	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底面の一部	良	2.5YR7/2 極暗赤褐色	
10	土師器	甕	—	丸底	—	—	底面50	良	5YR6/4 鈍い赤褐色	
11	土師器	高杯	—	—	—	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	胴面35	良好	5YR6/8 褐色	

第19表 H38号住居址出土遺物観察表



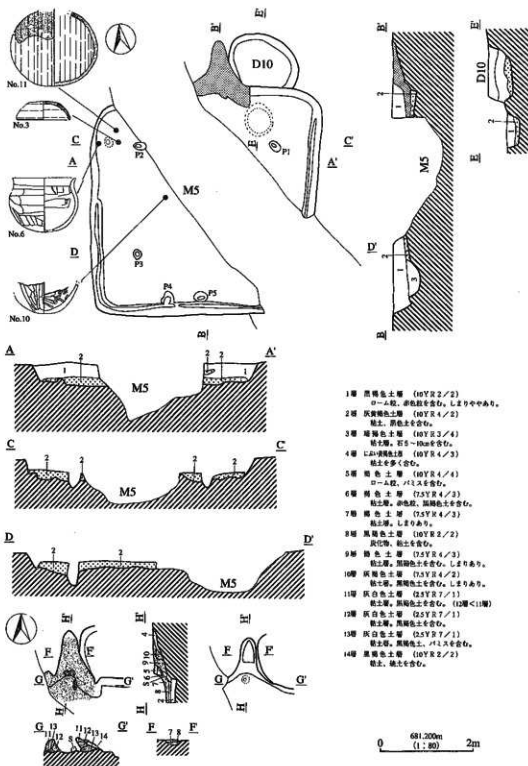
写70 H38号住居址かまど(南から)



写71 H38号住居址掘方

H39号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上B-カー10グリットに位置し、M5に切られる。床面までの覆土はかまどの覆土を除き単層で、ローム粒、赤色粒を含む、ややしまりのある黒褐色土である。規模は南北4.56m、東西4.52m、深さ0.30m(床面)を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床面はやや凹凸のあるものほぼ平坦で堅くしまっている。ピットは5個確認でき、P1～P3が支柱穴である。P4・5は南壁際に位置することから、出入り口に関するピットと考えられる。かまどは北壁の中央に位置し、西側の一部はM5によって破壊されている。袖は粘土を多用して構築され、北壁から内側に約40cm入り込んでいた。かまどの覆土には大量の粘土が認められたため、天井部の崩落したものと考えられた。煙道は火床から緩やかに立ち上がり、北壁の外側 約1mに立ち上がる。かまどの掘方では、火床の中心付近に支脚を埋めたと思われるピットが確認できた。住居の掘方は15～20cm

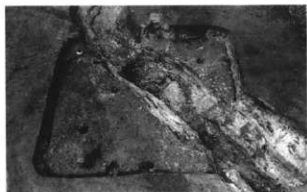


第54图 H39号住居址实测图

掘り込まれており、粘土を多量に含む灰黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、横瓶、磨り石などテンバコ三分の1箱出土している。図示できたのは11点である。1・2は土師器の坏でやや丸底気味の底部から緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口縁部に至る。3は須恵器の蓋である上面はへら削りされる。4は土師器の高坏の坏部と思われる。5は須恵器の高坏の脚部である。6は土師器の広口壺で外面にへら削りを施す。7は土師器の小型の甕である。8は土師器の甕、9は須恵器の甕の底部、10は土師器の甕の底部である。11は横瓶で外面に軸の付着が認められる。

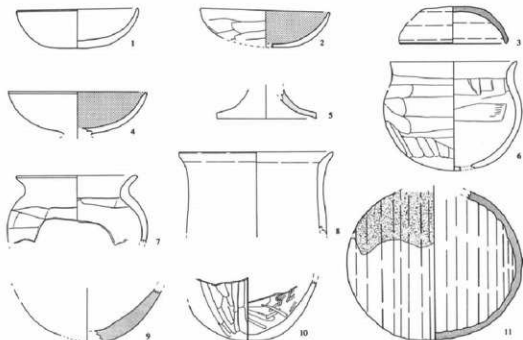
これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C中頃と考えられる。



写72 H39号住居址全景（南から）



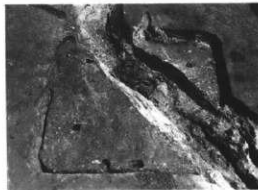
写73 H39号住居址かまど



第55図 H39号住居址出土遺物実測図



写74 H39号住居址遺物出土状況



写75 H39号住居址全景（遺物なし）

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	構成	色調	備考
1	土師器	杯	13.1	丸底	4.3			76	良	5YR6/4 鈍い橙色	
2	土師器	杯	13.0	丸底	4.2	底部・外面 ヘラ削り 内面 黒色処理		66	良	7.5YR7/6 橙色	
3	須恵器	蓋	11.4	-	3.9	上面 ヘラ削り		66	良好	10YR4/1 赭灰色	
4	土師器	高杯	15.0	-	-	内面 黒色処理	杯部25		良好	2.5YR8/4 褐色橙色	
5	須恵器	高杯	-	10.7	-	内外面 ロクロナデ	脚部50		良好	2.5YR6/2 灰黄色	
6	土師器	甕	13.6	丸底	11.5	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ		70	良好	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
7	土師器	小型甕	(13.0)	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁25		良好	10YR6/6 赤褐色	
8	土師器	甕	16.5	-	-	内面 ヘラナデ	口縁50		良	5YR7/4 鈍い橙色	
9	須恵器	甕	-	-	-	外面 印キ	底部50		良好	N3/0 暗灰色	
10	土師器	甕	-	丸底	-	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ	底部100		良	10R4/3 赤褐色	
11	須恵器	横瓶	-	丸底	-	側面 ヘラ削り		80	良好	N6/0 灰色	自然物 付着

第20表 H39号住居址出土遺物観察表



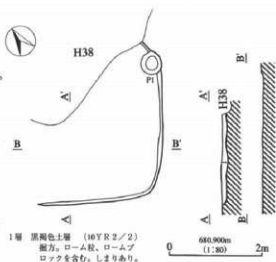
写76 H39号住居址掘方



写77 H39号住居址かまど（南東から）

H40号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上D-1-1グリットに位置し、H38に切られる。遺構の掘り込みは大半が失われており、掘方の調査となった。調査規模は、南北4.00m、東西2.56m、深さ0.14mで、平面形は隅丸方形と思われる。ピットは1個確認できたが主柱穴かは不明である。かまど・炉等は認められなかった。遺物は、本住居址に伴うと断定できるものは出土していない。



第56図 H40号住居址実測図

H41号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上B-1-10グリットに位置しH43、H44に切られる。床面までの覆土はかまどの覆土を除き4層確認でき、1層が大半を占める。土質はロームブロックを含む、しまりのある黒褐色土である。規模は、南北4.60m、東西4.50m、深さ0.29m (床



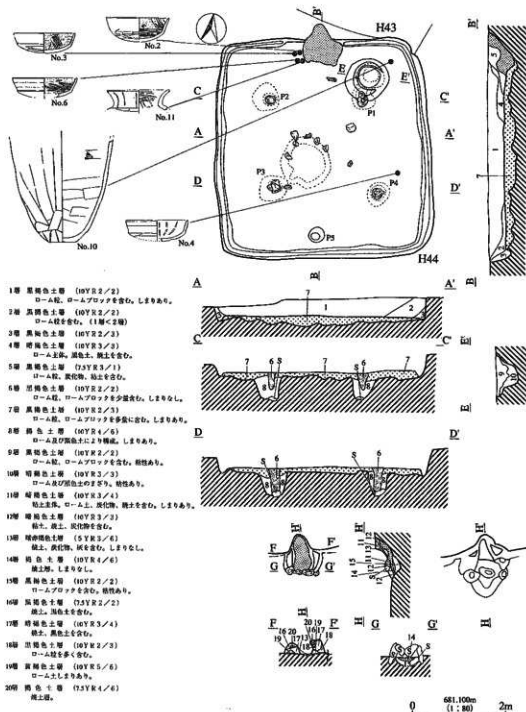
写78 H41号住居址周辺状況

面)を測り、平面形はやや隅丸の方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床面はしまりがあり、ピット5個及び北東コーナー付近に土坑が1基認められた。このうちP1～P4は主柱穴であり、柱痕も確認できた。壁際には、幅15cm内外の周溝が巡っている。かまどは北壁の中央に位置し、残存状況は比較的良好である。袖は北壁から内側に約50cm入り込み、大半は粘土を使用し構築されていた。また、焚き口部と思われる袖の先端部には石材が埋め込まれており、袖間には天井石と思われる長方形の石が中心部から折れ崩落していた。両袖に挟まれた火床には、多量の焼土が堆積していた。煙道は火床から立ち上がり、北壁の外側40cmに立ち上がる。住居址の掘方は20cm内外掘り込まれており、ロームブロックを多量に含んだ黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏、甕などテンバコ2分の1箱出土している。図示できたのは11点である。1～7は土師器の坏で、丸底の底部にヘラ削り、内面ミガキを施し、体部中央付近に明瞭な稜を持つ。8～10は土師器の甕で、外面ヘラ削り、内面ヘラナデを施す。11は土師器の甕の口縁で、

内外面にミガキを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C後半と考えられる。



第57図 H41号住居址実測図



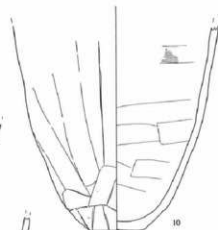
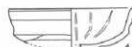
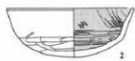
写79 H41号住居址全景(南から)



写80 H41号住居址かまど



写81 H41号住居址掘方



第58図 H41号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	保存率%	構成	色調	備考
1	土師器	環	13.1	丸底	4.3	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 灰白付文	70	良	5YR6/4 鈍い褐色	暗文
2	土師器	環	13.6	丸底	5.2	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 ミガキ 黒色起理	80	良好	5YR4/1 灰色	
3	土師器	環	13.2	丸底	4.3	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 黒色起理・ミガキ	80	良好	5YR5/2 褐色	
4	土師器	環	13.4	丸底	3.9	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 ミガキ	80	良好	5YR7/6 褐色	暗文
5	土師器	環	13.6	丸底	-	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 ヘラナデ 黒色起理	50	良好	5YR4/1 灰色	暗文
6	土師器	環	14.0	丸底	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ 黒色起理	25	良好	7.5YR4/2 灰褐色	
7	土師器	環	11.0	6.3	7.9	口縁 ナデ 底部 ヘラ削り 内面 ミガキ	90	良	10YR8/2 灰白色	
8	土師器	甕	-	4.6	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部90	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
9	土師器	甕	-	6.8	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部90	良好	7.5YR6/6 褐色	
10	土師器	甕	-	5.0	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部付近のみ	良	7.5YR4/3 褐色	
11	土師器	甕	13.4	-	-	内外面 ミガキ	口縁80	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	

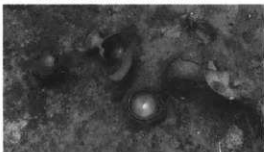
第21表 H41号住居址出土遺物観察表

H42号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上の南端Dーキー4グリットに位置する。床面までの覆土は3層確認でき、1層は褐色の田の床土である。2層が覆土の大半を占め、ロームブロックを含むしまりのある黒褐色土である。規模は南北約4.24m、東西4.36m、深さ0.24m(床面)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁は浅く、やや外傾気味に立ち上がり、南壁のみ確認できなかった。床は全体的に貼り床され、床面の直上には多数の石が散在していた。ピットは主柱穴と思われるものが4個確認できた。かまどは北壁中央に位置するが、完全に破壊されており、火床に僅かな焼土が認められただけであった。住居の掘方は、全体に10~15cm掘り込まれており、ロームブロックを多く含む褐色土が埋め込まれていた。



写82 H42号住居址全景(東から)

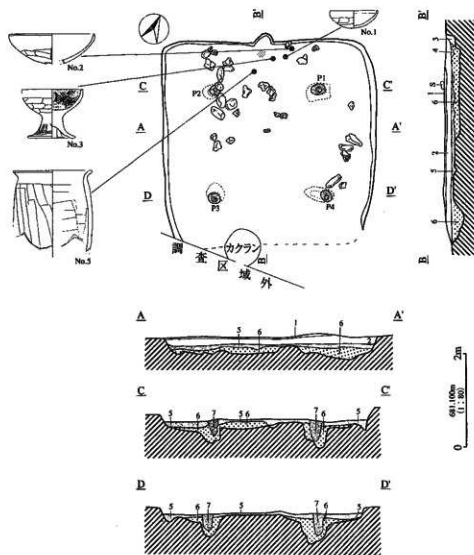


写83 H42号住居址遺物出土状況

遺物は、土師器の環、高環、甕などテンバコ1箱出土している。図示できたのは7点である。1は土師器の環でヘラ削りされた丸底の底部からやや内湾しながら立ち上がり、口縁部に至る。2は高環または環と思われ、底部周辺にヘラ削りを施す。3は脚部が短く環部が内傾気味に立ち上がる。5~7は土師器の甕である。5は口辺部が短く、口縁の形態は「く」の字を呈し、外面に

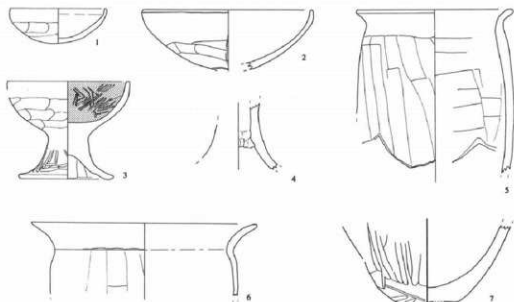
ヘラ削り、内面にヘラナデを施す。7は土師器壺の底部である。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は7C後半と考えられる。



- 1層 褐色土層 (5YR 4/6) 土層あり。
- 2層 灰褐色土層 (10YR 2/3) ロームブロック1-2mを含む。土層あり。
- 3層 暗褐色土層 (10YR 3/3) ローム粒、炭化物、硬土を含む。
- 4層 暗褐色土層 (10YR 3/3) 硬土を多く含む。土層あり。
- 5層 灰褐色土層 (10YR 2/3) 腐り床。灰褐色土のまじり。土層あり。
- 6層 褐色土層 (10YR 4/6) ロームブロック1-2mを多く含む。土層あり。
- 7層 灰褐色土層 (10YR 2/2) 柱痕。ローム粒をわずかに含む。土層なし。

第59図 H42号住居址実測図



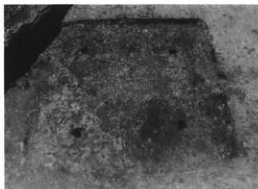
第60図 H42号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	杯	10.4	丸底	3.7	外面	ヘラ削り	95	良好	5YR6/8 褐色	
2	土師器	高杯	(18.6)	-	-	外面	ヘラ削り	琢磨80	良好	2.5YR6/6 褐色	
3	土師器	高杯	12.3	10.2	10.5	杯部外面	ヘラ削り 杯部内面 ミガキ 脚部内面 ヘラナデ	70	良好	7.5YR7/4 褐色	
4	土師器	高杯	-	-	-	脚部外面	ヘラ削り 杯部内面 ヘラナデ	20	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	
5	土師器	甕	17.0	-	-	口縁	横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	25	良好	10YR6/3 鈍い黄褐色	
6	土師器	甕	(24.0)	-	-	口縁	横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁35	良好	7.5YR6/6 明褐色	
7	土師器	甕	-	6.8	-	外面	ヘラ削り	底部50	良	10YR6/2 灰黄褐色	

第22表 H42号住居址出土遺物観察表



写84 H42号住居址かまど掘方



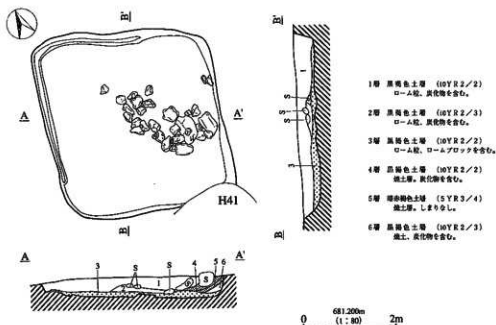
写85 H42号住居址掘方(東から)

H43号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上B-け-10グリットに位置し、H41、D9を切る。床面までの覆土はかまどの覆土を除き2層で、ともにローム粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は南北3.68m、東西3.64m、深さ0.32m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、壁面は堅く安定している。床はやや堅くはぼ平坦である。ピットは確認できなかったが、北壁から西壁にかけて幅13cm内外の周溝が認められた。かまどは東壁のほぼ中央に位置し、扁平な石を組み合わせて構築されている。火床付近には多量の焼土が堆積していた。住居の掘方は8~15cm掘り込まれており、ロームブロックを含む黒褐色土が埋め込まれ堅くしまっていた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕などテンバコ3分の1箱出土している。図示できたのは6点である。1は土師器の坏、2は須恵器の坏である。3は須恵器の蓋で短頸蓋の蓋と思われる、やや小型の深みのある形状を示す。4は土師器の小型ロクロ甕で体部下半にヘラ削りを施す。5・6は須恵器蓋の頸部で外面に自然釉が付着する。このうち2、4は混入遺物である。

本住居址は8C前半のものと考えられる。



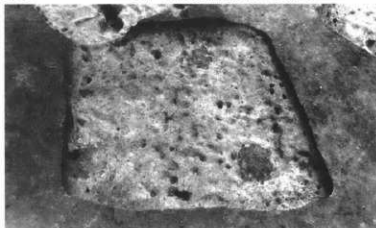
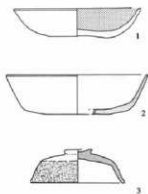
第61図 H43号住居址実測図



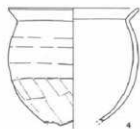
写86 H43号住居址全景（西から）



写87 H43号住居址かまど（西から）



写88 H43号住居址掘方（北から）



第62図 H43号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	杯	13.6	6.4	3.0	内面 黒色地粉 底面 回転率切り		70	良好	5YR6/4 鈍い褐色	
2	須恵器	杯	15.2	11.2	4.2	内外面 ロクロナデ 底面 回転率切り兼ヘタ削り		40	良	10R5/6 赤色	
3	須恵器	蓋	10.1	-	3.6	つまみ盛り付け 上面 ヘタ削り		90	良好	2.5YR5/1 赤灰色	自然輪
4	土師器	輪縁甕	(14.0)	-	-	外面底部下平	ヘタ削り	35	良好	5YR6/6 褐色	
5	須恵器	長頸甕	-	-	-	ロクロナデ		頸部のみ	良好	7.5Y4/1 灰色	自然輪
6	須恵器	長頸甕	-	-	-	ロクロナデ		頸部のみ	良好	7.5Y4/1 灰色	自然輪

第23表 H43号住居址出土遺物観察表

H44号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面上のDーくー1グリットに位置し、H41を切る。床面までの覆土は、かまどの覆土を除き4層確認できた。このうち1層が大半を占め、ローム粒、炭化物を含む黒褐色土である。規模は南北3.64m、東西3.76m、深さ0.25m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床はかまど付近を除き4～8cmの厚さで、貼り床され堅くしまっている。ピットは10個確認でき、P1～P4が支柱穴と思われる。またP3にはP6、P4にはP7が隣接しており、添柱の役目を果たしていたものと考えられる。また南東コーナー付近に円形の土坑が認められた。かまどは北壁の中央に位置するが大半は破壊されている。付近には構築時に使用されたと思われる石材が散在し、煙道の立ち上がり部分に焼土が僅かに認められた。住居の掘方は床から5～10cm掘り込まれており、ロームを主体とし、黒褐色ブロックを含む、にぶい黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕、磁石などタバコ5分の1箱出土している。図示できたのは5点である。1・2は須恵器の高台付坏で、深みのある形状を示し、張り付けされた高台付近から直線気味に立ち上がり、口縁部に至る。3は須恵器の蓋で外面にへら削りを施す。4は須恵器の壺の底部及び体部下半であり、外面に自然釉が付着する。5は土師器の甕の口縁で、口縁の形態がやや「コ」の字状を呈し、外面にへら削りを施す。

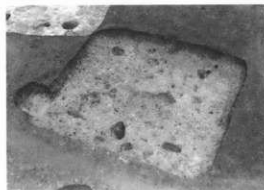
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C後半～9C初頭のものと考えられる。



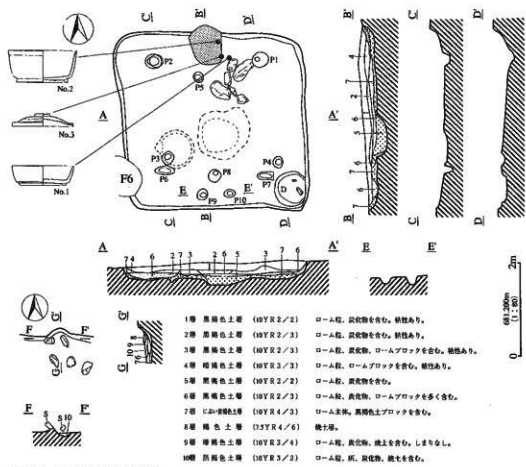
写89 H44号住居址全景（南から）



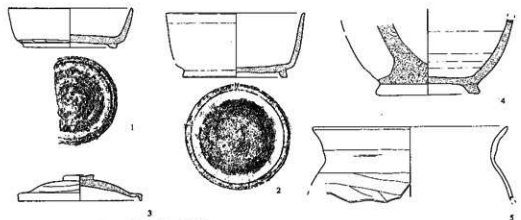
写90 H44号住居址かまど（南から）



写91 H44号住居址掘方（南東から）



第63図 H44号住居地実測図



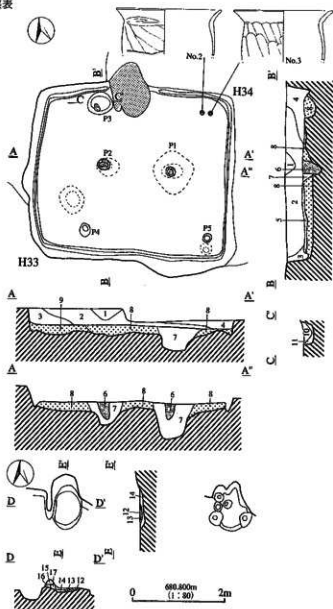
第64図 H44号住居地出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	検出層別	焼成	色調	備考
1	須恵器	高台付杯	13.2	10.0	4.2	漆黒 須恵赤磁り後へろ雨り 高台張り付け	60	灰好	T.SYR2/1 灰色	火だすき
2	須恵器	高台付杯	(16.5)	11.0	4.9	漆黒 須恵赤磁り後へろ雨り 高台張り付け	60	灰好	T.SGY4/1 暗赤1-7灰	
3	須恵器	蓋	13.2	-	3.3	つまみ取り付け 土蓋へろ雨り	95	灰好	T.SGY7/1 明赤1-7灰	火だすき
4	須恵器	蓋	-	11.0	-	漆黒 ロクロナデ 高台張り付け	70	灰好	H2/0 灰色	自然釉
5	土師器	椀	(21.0)	-	-	白磁 横ナデ 漆黒へろ雨り	11層25	灰好	SYR3/3 暗赤褐色	

第24表 H44号住居址出土遺物観察表

H45号住居址

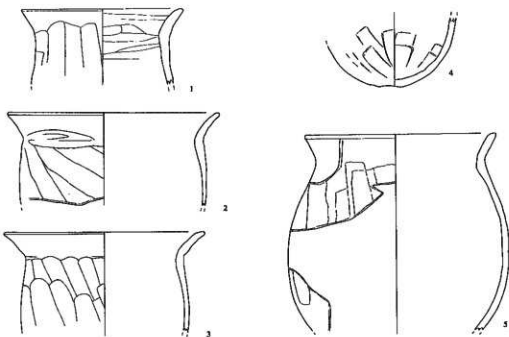
- 1層 黒褐色土層 (H45R2/2)
ローム層、炭化物を含む。
- 2層 黒褐色土層 (H45R2/2)
ローム層、炭化物、焼土を含む。
- 3層 暗褐色土層 (H45R3/3)
ローム層、ロームブロックを含む。
- 4層 暗褐色土層 (H45R3/3)
ローム層、ロームブロック、炭化物、焼土を含む。
- 5層 C-0-黄褐色土層 (H45R4/3)
盛り土。ローム層、ロームブロックを多く含む。
- 6層 黒褐色土層 (H45R2/3)
砂状。ローム層を含む。しまりなし。
- 7層 暗褐色土層 (H45R3/3)
ローム層、ロームブロックを多量に含む。
- 8層 暗褐色土層 (H45R3/4)
ローム層、ロームブロックを多量に含む。
- 9層 C-0-黄褐色土層 (H45R4/3)
ローム主体。黒褐色土を多量に含む。
- 10層 黒褐色土層 (H45R3/2)
ローム層、炭化物、焼土を含む。
- 11層 褐色土層 (H45R4/4)
砂質。しまりなし。
- 12層 暗褐色土層 (H45R3/3)
ローム層、焼土、炭化物を含む。
- 13層 赤褐色土層 (S45R4/8)
焼土層。しまりなし。
- 14層 褐色土層 (H45R4/4)
砂質。黒褐色土を含む。しまりなし。
- 15層 C-0-黄褐色土層 (H45R4/3)
焼土層。黒褐色土を含む。
- 16層 C-0-黄褐色土層 (H45R4/3)
焼土層。黒褐色土を含む。
- 17層 暗褐色土層 (H45R3/3)
焼土層。焼土を含む。



第65図 H45号住居址実測図

遺構は湯川によって形成された段丘面上D-こ-4グリットに位置し、H33、H34に切られる。床面までの覆土は4層確認できた。このうち2層が大半を占め、ローム粒、炭化物、焼土を含む黒褐色土である。規模は南北3.62m、東西4.18m、深さ0.36m（床面）を測り、平面形はやや東西に長い方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり壁面は堅く安定している。床は南側の一部に貼り床が認められた。ピットは5個確認でき、P1・P2が主柱穴と思われる。かまどは北壁のほぼ中央に位置する。袖は東袖のみ一部残存し、北壁から住居内に約30cm入り込み、粘土、暗褐色土で構築されていた。火床は南北に長い楕円形に掘り込まれ、焼土が堆積していた。住居の掘方は15cm～20cm掘り込まれローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕を中心にテンバコ三分の一箱出土している。図示できたのは5点で、すべて土師器の甕である。本住居址は、7C中頃と考えられる。



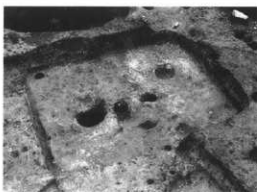
第66図 H45号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	図	整	残存率%	検成	色調	備考
1	土師器	甕	(17.2)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁20	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色		
2	土師器	甕	(23.9)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁25	良好	2.5YR6/6 褐色		
3	土師器	甕	(21.2)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	口縁30	良好	5YR6/6 褐色		
4	土師器	甕	-	丸底	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	底部100	良好	7.5YR6/4 鈍い褐色		
5	土師器	甕	(19.2)	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	15	良好	10YR8/3 濃黄褐色		

第25表 H45号住居址出土遺物観察表



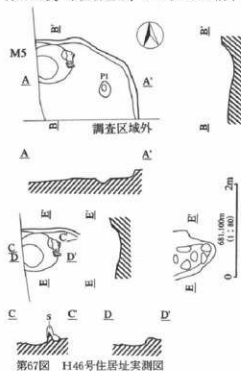
写92 H45号住居址全景(東から)



写93 H45号住居址掘方(北から)

H46号住居址

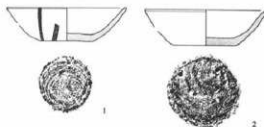
遺構は湯川によって形成された段丘面上南端のD-お-5グリットに位置し、西側をM5に切られ、南側はすでに崩落している。確認できたのは北東コーナー付近のみである。調査規模は、最長で南北1.60m、東西1.92m、深さ0.16mである。床面はやや堅さをもつ。かまどは北壁に構築され、西袖に使用したと思われる石が2個認められた。火床部は円形に掘られ、焼土が僅かに確認できた。遺物は土師器の甕、須恵器の坏などテンバコ5分の1箱出土している。図示できたのは2点である。1・2ともに須恵器の坏で底部回転糸切り後、やや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。本住居址は、8C末～9C前半と考えられる。



第67図 H46号住居址実測図



写94 H46号住居址全景



第68図 H46号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測 量	残存率%	装 成	色 調	備 考
1	須恵器	杯	12.8	4.6	3.5	内外面 ロクロナデ 底部 凹縁糸切り	60	良好	10Y5/1 灰色	火がすき
2	須恵器	杯	13.0	4.6	3.8	内外面 ロクロナデ 底部 凹縁糸切り	50	良好	N5/0 灰色	火がすき

第26表 H46号住居址出土遺物観察表

H47号住居址

遺構は湯川によって形成された段丘面の北端C-あ-6グリットに位置する。西側はすでに破壊されている。床面までの覆土はかまどの覆土を除き、単層でローム粒、炭化物を含む黒褐色土である。調査規模は南北4.36m、東西2.58m、深さ0.24m（床面）を測り、平面形は北壁がかまどに向かい、やや外側に傾斜した方形と思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床は一部に貼り床されておりピットが2個確認できた。主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央付近に位置するとと思われる。本住居址のかまどは遺跡内でも特徴的なものであった。両袖には扁平な石を利用し、北壁から住居内に約25cm入り込み、火床からは裏の体部が敷き詰められているかのように出土した。また煙道部は火床から緩やかに立ち上がり、北壁の外側に2m張り出し、その側面には石が整然と並べられていた。



写95 H47号住居址全景（東から）



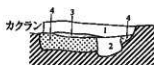
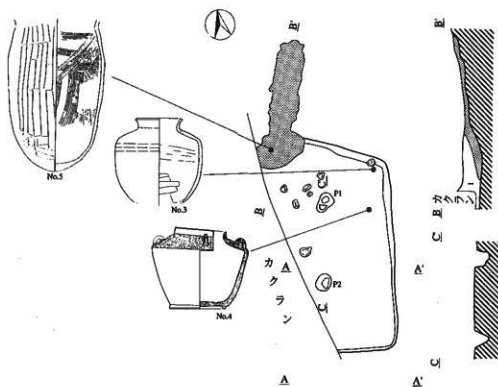
写96 H47号かまど



写97 かまど廻方

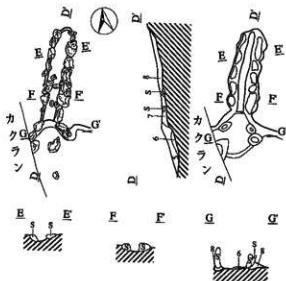
住居の掘方は約30cm掘り込まれ、ローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の杯、高環、壺、四耳壺などテンパコ3分の1箱出土している。図示できたのは5点である。1は須恵器の高環型土器で坏部内面に円形のしきりが認められるため灯明皿と思われる。2は須恵器の杯でほぼ平らにへら削りされた底部からやや開き気味に立ち上がり口縁部に至る。3は須恵器の短頸壺で外面にたたきを施す。4はほぼ完形の四耳壺である。5は土師器の長胴甕で口縁部は欠損している。底部は丸く、外面にへら削り、内面にハゲ目を施す。これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C前半と考えられる。

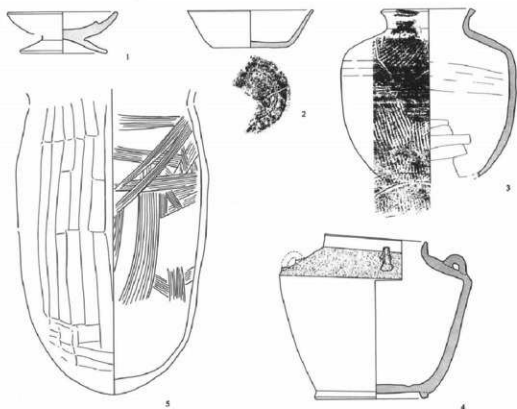


- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、炭化物を含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/3)
ローム殻、ロームブロックを多く含む。
- 3層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、ロームブロックを含む。
- 4層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、ロームブロックを含む。しまりあり。
- 5層 黒褐色土層 (10YR 2/3)
ローム殻、炭化物、焼土を含む。
- 6層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、炭化物、焼土を少量含む。
- 7層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、ロームブロック、炭化物、焼土を含む。
- 8層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム殻、炭化物、焼土を少量含む。

0 681.500m (1:80) 2m



第69図 H47号住居址実測図



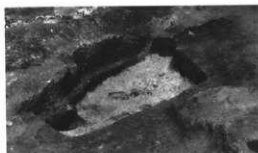
第70図 H47号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	壁	残存率%	状態	色調	備考
1	須恵器	灯明皿?	12.0	10.4	4.5	ロクロナデ		75	良好	7.5YR3/4 褐色	
2	須恵器	環	13.6	8.0	4.0	内外面 ロクロナデ 底面 ヘラ削り		50	良好	N5/6 灰色	
3	須恵器	短頸壺	10.2	-	-	外面 叩き		40	良好	5Y4/2 灰色	
4	須恵器	四耳壺	11.0	12.2	17.5	耳張り付け 底面 高台張り付け		100	良好	N4/6 灰色	自然釉
5	土師器	長胴甕	-	丸底	-	外面 ヘラ削り 内面 ハケ目		50	良好	7.5YR4/8 褐色	

第27表 H47号住居址出土遺物観察表



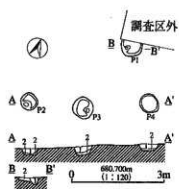
写98 H47号住居址遺物出土状況



写99 H47号住居址掘方(東から)

第2節 掘立柱建物址 (F) 遺構名は中西ノ久保遺跡1の継続番号である。

F 2号掘立柱建物址



第71図 F 2号掘立柱建物址実測図

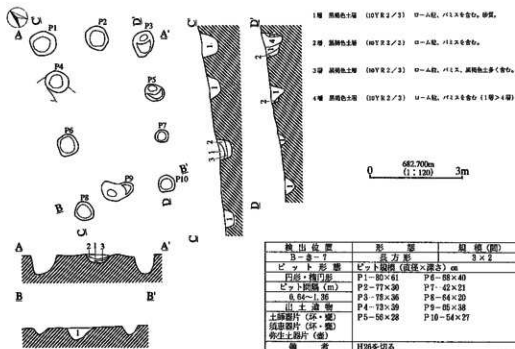
- 1層 黒色土層 (10YR2/1) 小石の少保層なし、ローム瓦片散見人。
2層 黒褐色土層 (10YR2/4) ローム瓦片、ロームアワツツの少保層人。

検出位置	形 態	規模 (間)
C-ス-6	不明	不明
ピット形 態	ピット距離 (直径×長さ) cm	
1層	P1-72×78	
ピット距離 (m)	P2-55×24	
1.12-1.46	P3-70×22	
出土遺物	P4-65×22	
土師器片 (灰)		

備 考 平面・形態は一部調査区外のため不明

第28表 F 2号掘立柱建物址観察表

F 3号掘立柱建物址



第72図 F 3号掘立柱建物址実測図

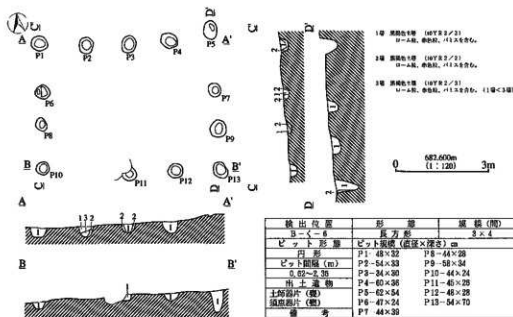
- 1層 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム瓦、パリスを散見。
2層 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム瓦、パリスを散見。
3層 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム瓦、パリス、黒褐色土多く散見。
4層 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム瓦、パリスを散見 (1層4層)

検出位置	形 態	規模 (間)
C-ス-1	瓦力型	3×2
ピット形 態	ピット距離 (直径×長さ) cm	
1層・横切形	P1-80×61	P6-60×40
ピット距離 (m)	P2-77×30	P7-42×21
0.64-1.35	P3-78×36	P8-64×20
出土遺物	P4-73×39	P9-65×38
土師器片 (灰・黒)	P5-56×28	P10-54×27
須恵器片 (灰・黒)		
赤土層片 (灰)		

備 考 耳取を捉る

第29表 F 3号掘立柱建物址観察表

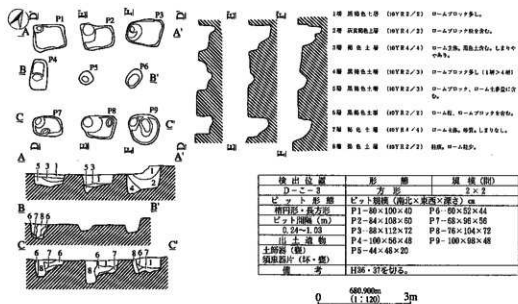
F 4号掘立柱建物址



第73図 F 4号掘立柱建物址実測図

第30表 F 4号掘立柱建物址観察表

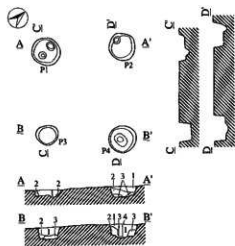
F 5号掘立柱建物址



第74図 F 5号掘立柱建物址実測図

第31表 F 5号掘立柱建物址観察表

F 6号掘立柱建物址



第75図 F 6号掘立柱建物址実測図

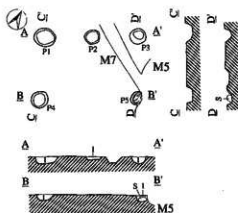
- 1層 黒褐色土層 (10YR2/3) R-A組, R-A組, L2, R4, R4, R4。
- 2層 黒褐色土層 (10YR2/3) R-A組, R-A組, R-A組, R4, R4, R4。
- 3層 黒褐色土層 (10YR2/2) R-A組, R-A組, R4, R4, R4。
- 4層 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土, R-A組, R-A組, R4, R4, R4。

0 650.900m (1:120) 3m

検出位置	形態	規模(面)
D1-D3	方形	1×1
ピット形跡	ピット規模(前後×深さ) cm	
ほほり形	P1-90×24	
ピット形跡(m)	P2-92×45	
0.5-1.5m	P3-64×42	
出土遺物	P4-88×48	
備考	M5に切られる	

第32表 F 6号掘立柱建物址観察表

F 7号掘立柱建物址



第76図 F 7号掘立柱建物址実測図

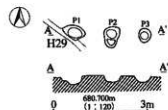
- 1層 黒褐色土層 (10YR2/3) R-A組, R-A組, R-A組, R4, R4, R4。

0 681.300m (1:120) 3m

検出位置	形態	規模(面)
B<-D	長方形	1×2
ピット形跡	ピット規模(前後×深さ) cm	
ほほり形	P1-86×24	
ピット形跡(m)	P2-50×14	
0.15-1.1	P3-90×29	
出土遺物	P4-82×18	
土層断片(環)	P5-44×20	
須恵器(埴)		
備考	M5に切られる	

第33表 F 7号掘立柱建物址観察表

F 8号掘立柱建物址

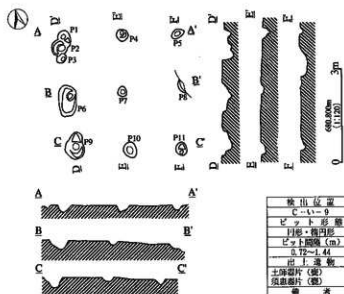


第77図 F 8号掘立柱建物址実測図

検出位置	形態	規模(面)
C-U-2	長方形	2
ピット形跡	ピット規模(南北×東西×深さ) cm	
円形・楕円形	P1-76×53×24	
ピット形跡(m)	P2-64×48×25	
0.6-0.9	P3-44×42×24	
出土遺物		
土層断片(環)		
須恵器(埴)		
備考		

第34表 F 8号掘立柱建物址観察表

F 9号掘立柱建物址

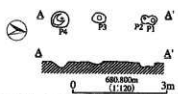


第78図 F 9号掘立柱建物址実測図

検出位置	形 態	規模(㎝)
C-4-0	方形	2×2
ピット形跡	ピット跡 (南北×東西×深さ)	㎝
円形・楕円形	P1-45×25	P7-81×12
ピット跡跡(㎝)	P2-52×32	P8-48×8
直径(㎝)	P3-30×37	P9-78×38
直径(㎝)	P4-45×21	P10-50×21
出土遺物	P5-38×23	P11-44×18
土師器片(破)	P6-26×20	
須恵器片(破)		
備 考	H跡を切5	

第35表 F 9号掘立柱建物址観察表

F10号掘立柱建物址

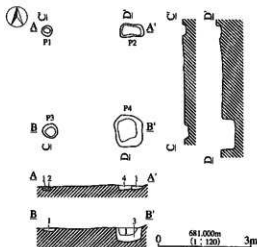


第79図 F10号掘立柱建物址実測図

検出位置	形 態	規模(㎝)
C-4-0	方形	2×2
ピット形跡	ピット跡 (直径×深さ)	㎝
楕円形	P1-32×12	
ピット跡跡(㎝)	P2-20×15	
直径(㎝)	P3-46×10	
出土遺物	P4 60×24	
土師器片(破・埋)		
須恵器片(破)		
備 考	H跡を切る	

第36表 F10号掘立柱建物址観察表

F11号掘立柱建物址



第80図 F11号掘立柱建物址実測図

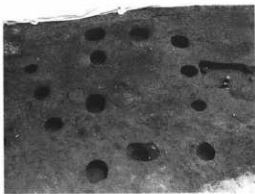
- 1層 黒褐色土層 (50YR2/2) R-A柱, R-Aフ>P6を穿ち,
- 2層 白-黄褐色土層 (50YR4/2) R-A2柱, 黒褐色土を穿ち,
- 3層 黒褐色土層 (50YR2/2) R-A柱, R-Aフ>P6を穿ちR-B,
- 4層 黒褐色土層 (50YR2/2) R-A柱, R-Aフ>P6を穿ち,

検出位置	形 態	規模(㎝)
D-4-4	方形	1×1
ピット形跡	ピット跡 (南北×東西×深さ)	㎝
円形・楕円形	P1-38×34×15	
ピット跡跡(㎝)	P2-42×76×17	
直径(㎝)	P3-47×51×13	
出土遺物	P4-95×84×47	
備 考		

第37表 F11号掘立柱建物址観察表



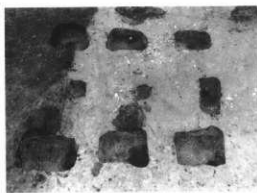
写100 F 2号掘立柱建物址



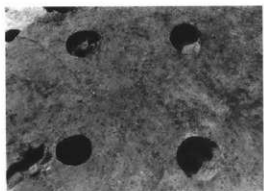
写101 F 3号掘立柱建物址



写102 F 4号掘立柱建物址



写103 F 5号掘立柱建物址

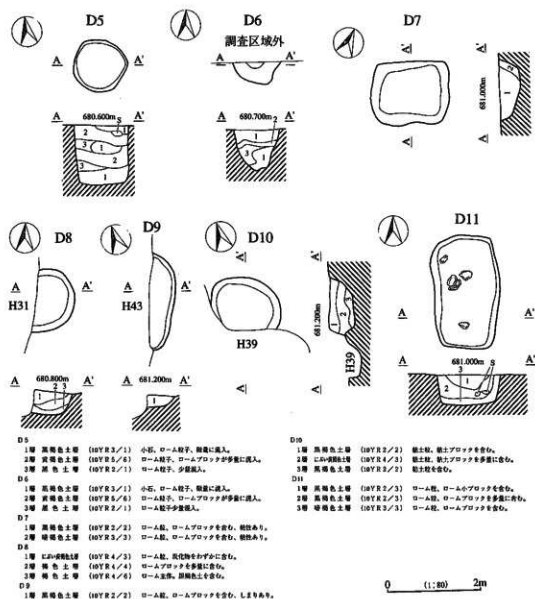


写104 F 6号掘立柱建物址



写105 F 7号掘立柱建物址

第3節 土坑(D) 遺構名は中西ノ久保遺跡Ⅰの継続番号である。



第81図 中西ノ久保遺跡Ⅱ土坑実測図

遺構名	検出位置	形	規模(東西・南北・深さ)	出土遺物	備考
D 5	C-形 5	円形	1.12 × 1.17 × 1.28		H1と切り合い
D 6	C-形 5	(円形)	1.03 × - × 0.4		北側調査区域外
D 7	D-形 2	方形	1.72 × 1.86 × 4.9		
D 8	E-形 4	(円形)	- × 1.28 × 0.3		H4と切り合い
D 9	C-形 7	(方形)	- × 2.08 × 2.6		H4と切り合い
D 10	B-形 10	円形	1.52 × - × 0.2	須磨器(珠)	H4と切り合い
D 11	C-形 7	方形	1.44 × 2.43 × 0.4		

第38表 中西ノ久保遺跡Ⅱ土坑観察表

(単位 m)



写106 D5号土坑



写107 D6号土坑



写108 D7号土坑



写109 D9号土坑



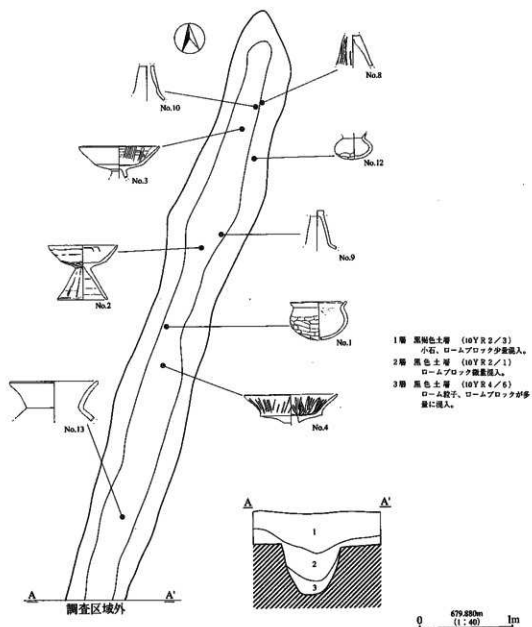
写110 D10号土坑



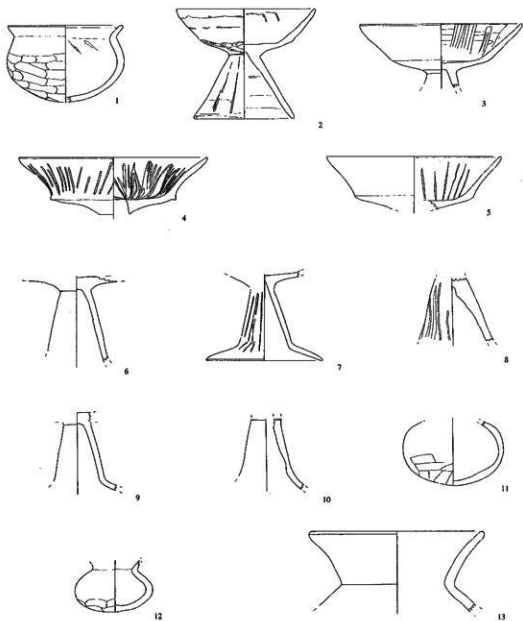
写111 D11号土坑

第4節 溝跡 (M) 遺構名は中西ノ久保遺跡 I の継続番号である。

M3号溝跡



第82図 M3号溝跡実測図



第83図 M3号溝跡出土遺物実測図

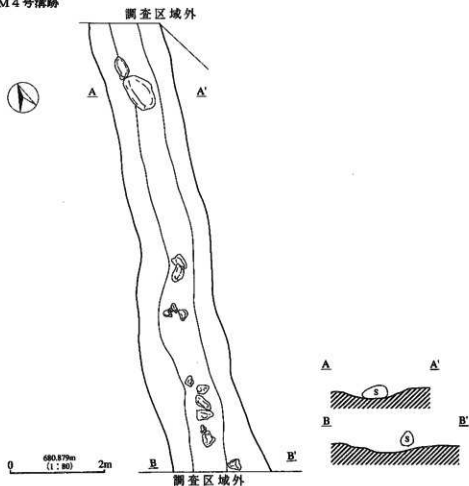
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調	量	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	広口壺	12.2	丸底	8.2	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り		90	良好	5YR5/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	高杯	14.8	10.8	11.7	杯部底面 ヘラ削り 胴部内面 ヘラ削り		95	良好	10YR4/3 淡黄褐色	
3	土師器	高杯	17.48	-	-	杯部内面 ナデ		杯部100	良好	5YR5/6 褐色	
4	土師器	高杯	20.0	-	-	杯部内外面 ミガキ		杯部50	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	

第39表 M3号溝跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	産成	色調	備考
5	土師器	高環	18.8	-	-	環部内面 ヘラミガキ	環部50	良好	2.5YR6/6 褐色	
6	土師器	高環	-	-	-	胴部内面 輪つ小痕	胴部50	良好	5YR7/8 褐色	
7	土師器	高環	-	12.4	-	指部外面 ミガキ 胴部内面 輪つ小痕	胴部50	良好	7.5YR7/6	
8	土師器	高環	-	-	-	指部外面 ミガキ 胴部内面 輪つ小痕	胴部40	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
9	土師器	高環	-	-	-	胴部内面 輪つ小痕	胴部40	良好	5YR8/4 明褐色	
10	土師器	高環	-	-	-	胴部内面 輪つ小痕	胴部35	良好	5YR6/8 褐色	
11	土師器	甕	-	丸底	-	外面胴部下半 ヘラ削り	30	良好	7.5YR7/6 褐色	
12	土師器	甕	-	丸底	-	底面周辺 ヘラ削り	85	良好	5YR2/1 藍褐色	
13	土師器	甕	(18.8)	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	口縁40	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	

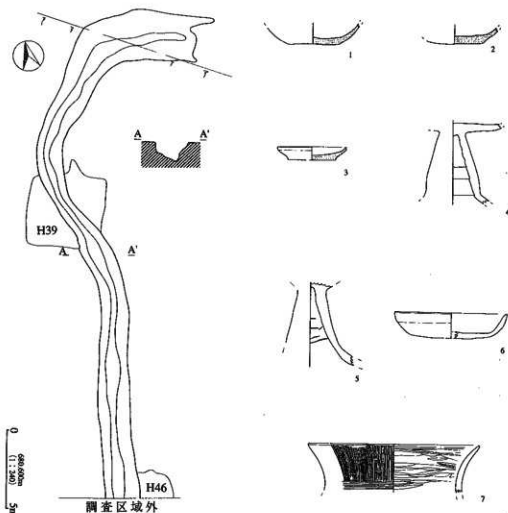
第40表 M3号溝跡出土遺物観察表(2)

M4号溝跡



第84図 M4号溝跡実測図

M5号溝跡

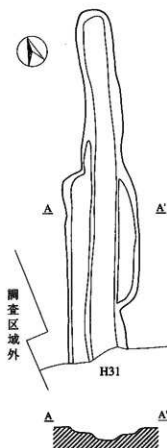


第85図 M5号溝跡遺構・出土物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	備	整	残存率%	焼成	色面	備考
1	須恵器	埴	-	5.2	-	底面 回転糸切り		50	良好	10YR5/3 鈍い黄褐色	
2	須恵器	埴	-	5.5	-	底面 回転糸切り		40	良好	10YR5/1 極灰色	
3	須恵器	埴	7.4	5.0	1.4	底面 回転糸切り		45	良好	10Y8/1 灰色	
4	土師器	高埴	-	-	-	胴部内面 輪つみ痕	胴部45		良好	5YR7/6 棕色	
5	土師器	高埴	-	-	-	胴部内面 輪つみ痕	胴部40		良好	1.5YR7/3 鈍い褐色	
6	土師器	埴	12.0	7.0	3.7	底面 回転糸切り		45	良好	5YR6/4 鈍い褐色	
7	土師器	甕	(18.4)	-	-	外側 クシ目 内面 ミガキ		1:25	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	

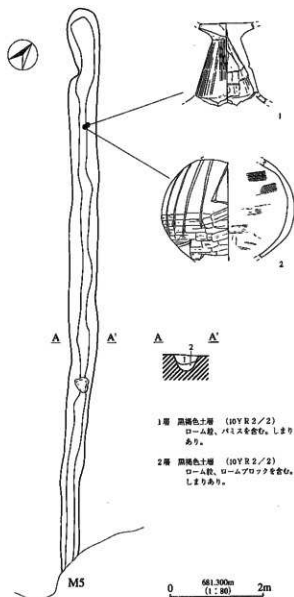
第41表 M5号溝跡出土遺物観察表

M6号溝跡



第86図 M6号溝跡実測図

M7号溝跡



第87図 M7号溝跡遺構・出土遺物実測図

- 1層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム状、パリスを含む。しまりあり。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 2/2)
ローム状、ロームブロックを含む。しまりあり。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測 量	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	高杯	-	-	-	外面 内面 縁つみ板	40	良好	7.5YR7/6 褐色	
2	土師器	壺	-	-	-	外面 内面	30	良好	5YR7/0 褐色	底部下半へラ削り ハケ白

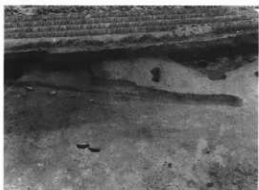
第42表 M7号溝跡出土遺物観察表



写112 M3号溝跡



写113 M5号溝跡

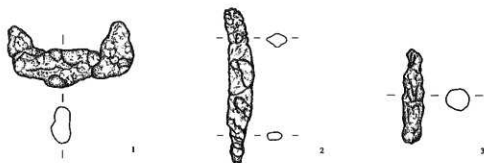


写114 M6号溝跡



写115 M7号溝跡

第5節 金属製品



第88図 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土鉄製品実測図（1：3）

番号	出土遺物名	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	8.5	麻引直金具	4.25	0.81	1.28	57.25	
2	8.3	刀子	12.28	1.78	0.66	24.18	
3	8.4	刀子	7.25	1.69	1.28	15.38	先鋒次種

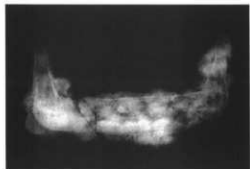
第43表 中西ノ久保遺跡Ⅱ出土鉄製品観察表



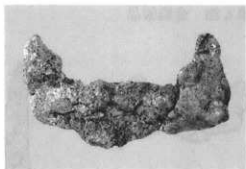
第89図 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土耳環実測図（1：1）

番号	出土遺物名	器種	直径 (cm)	断面径 (cm)	重量 (g)	備考
1	検出	耳環	2.62	0.48	13.69	断面円
2	検出	耳環	3.15	0.45	23.51	酸化腐しい

第44表 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土耳環観察表



写116 H35号住居址出土鉄製品レントゲン



写117 H35号住居址出土鉄製品



写118 H33号住居址出土鉄製品レントゲン



写119 H33号住居址出土鉄製品



写120 H34号住居址出土鉄製品レントゲン



写121 H34号住居址出土鉄製品

第6節 石製品

中西ノ久保遺跡Ⅱの住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・検出から磨り石・敲き石・編み物石・砥石・支脚石・紡錘車・白玉といった石製品が出土している。(写真図版二十～二十五参照)

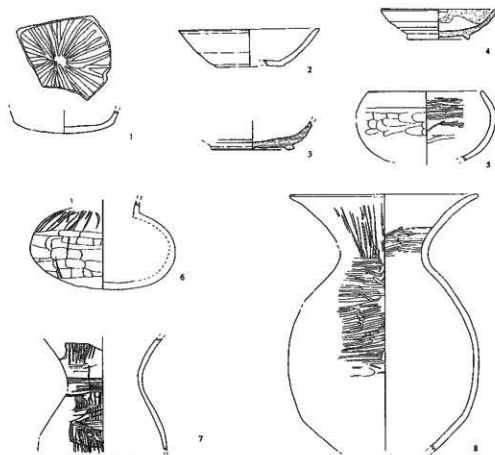
遺構名	番号	名称	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
H1	1	磨り石	花崗岩	18.44	10.12	4.54	536.6	
	2	磨り石	凝石	8.21	7.12	4.42	110.8	
H19	3	磨り石	安山岩	12.97	5.86	4.55	423.2	
	4	紡錘車	凝石	4.36	-	2.23	56.0	
	5	白玉	凝石	1.09	-	0.82	1.1	
H20	6	紡錘車	滑石	2.32	-	0.79	3.5	
H22	7	敲き石	輝石安山岩	13.88	7.94	4.93	746.4	
	8	編み物石		11.81	5.80	4.71	444.1	
	9	磨り石	凝石	5.45	-	3.85	37.6	
H27	10	紡錘車	土製	5.6	-	1.9	72.7	
H31	11	砥石	流紋岩	7.44	4.58	2.32	85.8	
H33	12	石押	緑泥片岩	8.89	2.51	1.09	84.0	
H34	13	砥石	流紋岩	6.63	3.86	2.62	96.4	
H35	14	敲き石	角閃安山岩	17.80	6.88	6.31	1,064.3	
	15	敲き石	角閃安山岩	10.93	6.79	4.89	535.3	
	16	敲き石	角閃安山岩	12.94	3.76	3.16	203.1	
	17	編み物石	角閃安山岩	10.23	2.77	2.16	127.2	
	18	磨り石	凝石	7.56	7.70	3.72	76.6	
H38	19	砥石	流紋岩	8.25	4.17	2.98	215.5	
	20	砥石	砂岩	6.94	6.60	4.94	333.4	
	21	磨り石	輝石安山岩	5.98	5.77	2.77	367.1	
	22	磨り石	輝石安山岩	6.85	7.66	5.58	311.1	
	23	磨り石	凝石	6.99	6.39	3.95	32.7	
H37	24	敲き石	輝石安山岩	12.71	7.30	1.95	292.6	
H38	25	支脚石	安山岩	18.50	7.89	8.00	1,354.7	
	26	磨り石	輝石安山岩	10.98	5.78	2.31	189.2	
H40	27	磨り石	輝石安山岩	7.98	3.65	3.91	99.7	
	28	磨り石	安山岩	6.67	3.61	2.67	66.2	
	29	砥石	輝石安山岩	5.89	3.97	0.94	36.7	
H42	30	敲き石	輝石安山岩	11.32	4.18	2.94	228.8	
	31	磨り石	安山岩	6.71	6.64	2.78	150.0	
H43	32	砥石	流紋岩	7.84	4.65	3.26	173.2	
H44	33	敲き石	輝石安山岩	12.90	4.21	2.66	207.8	
H45	34	磨り石	砂岩	15.34	13.61	4.73	1,482.5	
H47	35	敲き石	輝石安山岩	15.45	5.01	3.90	505.3	
	36	磨り石	輝石安山岩	11.84	6.67	3.78	432.8	
	37	敲き石	流紋岩	12.70	5.45	4.19	351.4	
	38	紡錘車	凝石	4.51	4.30	1.08	25.2	

第45表 中西ノ久保遺跡Ⅱ住居址出土石製品観察表

遺構名	番号	名称	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
F7	39	石押	安山岩	14.72	8.86	2.10	297.4	
D9	40	磨り石	流紋岩	5.00	3.16	2.82	60.5	
D10	41	敲き石	砂岩	7.11	5.36	3.76	196.9	
M5	42	敲き石	輝石安山岩	16.80	4.66	343.3	196.9	
	43	敲き石	細粒安山岩	12.04	6.26	3.05	285.6	
検出	44	磨り石	花崗岩	12.38	4.74	3.25	304.1	
	45	磨り石	安山岩	9.85	5.30	2.54	173.7	

第46表 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土石製品観察表

第7節 遺構外出土遺物

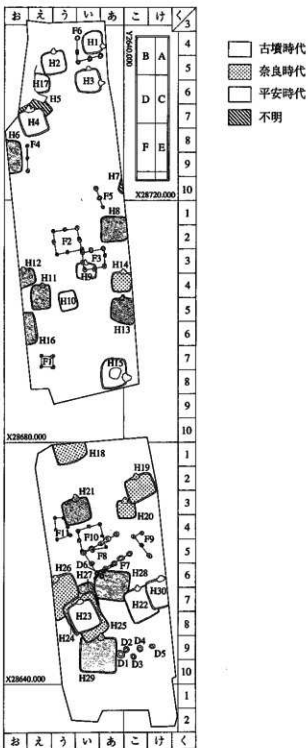


第90図 遺構外出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	劣化	色調	備考
1	土師器	坏	-	丸底	-	底面 ヘラ削り 内面 縄文		50	良好	10YR5/3 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	(15.0)	(7.0)	4.0	底面 回転糸切り		35	良好	5YR7/4 鈍い褐色	
3	須恵器	坏	-	丸底	3.0	回転糸切り段高台張り付け		45	良好	7.5YR5/1 鈍灰色	灰釉付着
4	灰釉陶器	皿	12.5	6.7	2.3	高台張り付け		50	良好	2.5YR/1 灰白色	
5	土師器	碗	12.4	丸底	-	外面 ヘラ削り 内面 ミガキ		50	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
6	土師器	壺	-	丸底	-	外面 ヘラ削り		70	良好	2.5YR5/6 暗赤色	
7	弥生土器	壺	-	-	-	外面 ミガキ 内面 ヘラナデ		20	良好	7.5YR5/6 暗赤色	赤色焼彩
8	弥生土器	壺	(20.2)	-	-	外面 ミガキ 内面 ミガキ		40	良好	10YR5/6 赤色	赤色焼彩

第47表 中西ノ久保遺跡Ⅱ遺構外出土遺物観察表

第三章 仲田遺跡



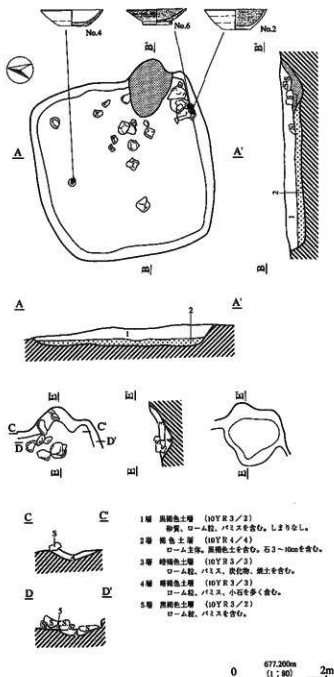
第91図 仲田遺跡遺構
配置図(1:600)

第1節 竪穴住居址 (H)

H1号住居址

遺構は調査区の北側B-あ-4グリット付近に位置し、北側に流れる湯川との距離は20mと近接しており比高差は6mである。遺構は砂礫層に掘りこまれており、床面までの覆土はかまどの覆土を除き大半は暗褐色土である。規模は南北3.30m、東西3.48m、深さ0.44mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁面はやや外傾気味に立ち上がるが、周囲が砂質のため、非常に崩れやすい状態である。当時は何らかの補強を施したものと思われる。床は砂質で貼り床らしきものは認められなかったが、床面には、かまどを中心に多数の石(軽石・安山岩等)が散在していた。ピットの存在は確認できなかった。かまどは東壁のやや南よりに位置し、僅かに火床部分に焼土の堆積が見られた。

遺物は、土師器の坏、甕、須恵器の坏、灰釉陶器を中心に、テンバコ4分の1箱出土している。土師器の坏は内面黒色処理を施しており、底部は回転糸切り後無調整である。土師器の甕は口縁の形態が「コ」の字状を呈する。須恵器の坏は、やや開き気味に立ち上が



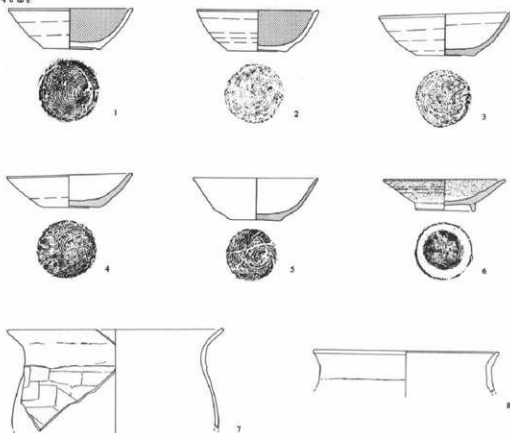
第92図 H1号住居址実測図



写122 H1号住居址全景(西から)

写123 H1号住居址かまど(西から)

る体部を持ち、底部は回転糸切り後無調整である。6は完形に近い灰釉陶器である。また5には「一寺」の墨書(巻頭カラー写11参照)も認められ、付近に寺畑の字名が存在する事を考えあわせると非常に興味深い資料である。これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C後半と考えられる。



第93図 H1号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整	残存率%	備 考	色 調	備 考
1	土師器	坏	13.4	6.1	4.4	外面 ロクロ横ナデ 内面 茶色処理 底部 回転糸切り	100	良好	1.5YR8/6 褐色	
2	土師器	坏	13.2	6.4	4.4	外面 ロクロ横ナデ 内面 茶色処理 底部 回転糸切り	90	良好	5YR8/4 鈍い褐色	
3	須恵器	坏	14.2	5.9	4.7	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	100	良好	2.5YR7/2 灰白色	華厳
4	須恵器	坏	13.4	6.0	3.6	内外面 ロクロ横ナデ 底部 回転糸切り	100	良好	10YR8/4 鈍い黄褐色	華厳
5	須恵器	坏	13.4	5.4	4.6	内外面 ロクロ横ナデ	70	良好	2.5Y8/3 鈍い黄色	遺書 一一寺
6	灰釉陶器	小皿	13.0	6.0	3.6	内外面 ロクロ横ナデ 底部 高台張り付け	95	良好	10Y7/2 灰白色	
7	土師器	甕	23.3	-	-	口縁 横ナデ 外面 ヘラ削り	口縁20	良好	2.5YR4/4 鈍い黄褐色	
8	土師器	甕	20.0	-	-	口縁 横ナデ	口縁20	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	

第48表 H1号住居址出土遺物観察表



写124 H1号住居址掘方（西から）



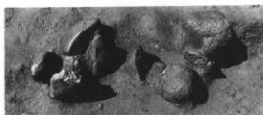
写125 H1号住居址遺物出土状況

H2号住居址

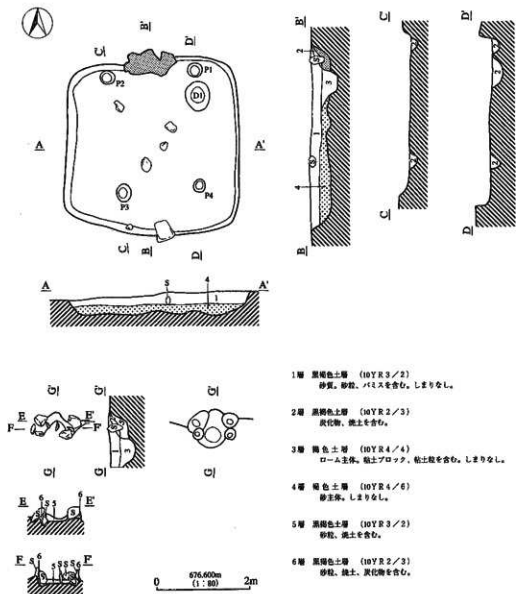
遺構は調査区の北側B-ウ-4グリット付近に位置し、北側に流れる湯川との距離は25mである。遺構は砂礫層に掘り込まれており、床面までの覆土は単層で黒褐色土である。規模は南北3.64m、東西3.48m、深さ0.27m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁面はやや外傾しながら立ち上がるが、周囲が砂質のため、非常に崩れやすい状態である。床面はやや堅さを持ち、そこからピット4、土坑1が認められた。ピットは位置的に本住居址の主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置するが、そのほとんどは破壊されており、僅かに袖の一部



写126 H2号住居址全景（南から）



写127 H2号住居址かまど

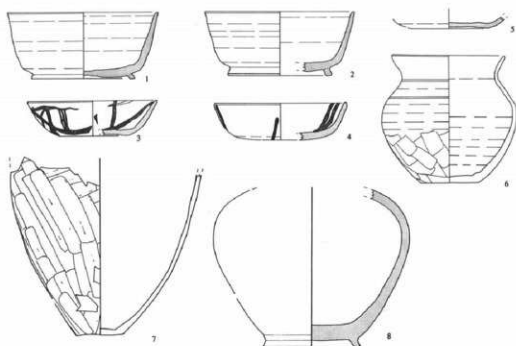


第94図 H2号住居址実測図

及び支脚が残存していた。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏、甕などテンバコ3分の1箱出土している。土師器は甕片が多く、小型の軸轆甕及び、口縁の形態が「コ」の字状を呈するものが出土している。坏は見あたらない。須恵器は坏が多く底部回転糸切り後、無調整・ヘラ調整・高台張り付けのものが見られる。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C前半と考えられる。



第95図 H2号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	須恵器	高台付杯	16.2	11.0	7.1	内外面 ロクロ横ナデ 底面 回転糸切り後高台張り付け	30	良好	7.5YR4/3 褐色	
2	須恵器	高台付杯	16.0	11.0	6.9	内外面 ロクロ横ナデ 底面 回転糸切り後高台張り付け	35	良好	5N6/0 灰白色	
3	須恵器	杯	(14.0)	(8.4)	4.0	内外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘラ削り	45	良好	10YR5/1 灰色	火だすき
4	須恵器	杯	(13.8)	(7.3)	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底面 回転糸切り後周辺部ヘラ削り	40	良好	2.5YR5/1 灰白色	火だすき
5	須恵器	杯	-	8.0	-	内外面 ロクロ横ナデ 底面 回転糸切り	40	良好	10Y5/1 灰色	
6	土師器	輪縁甕	12.3	6.2	13.4	外面 ロクロ横ナデ 底面 回転糸切り 胴部下平ヘラ削り	75	良好	5YR5/6 明赤褐色	
7	土師器	甕	-	4.6	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	40	良好	2.5YR4/4 鈍い黄褐色	
8	須恵器	盅	-	10.3	-	底面 高台張り付け	30	良好	10B/G2/ 暗青灰色	

第49表 H2号住居址出土遺物観察表



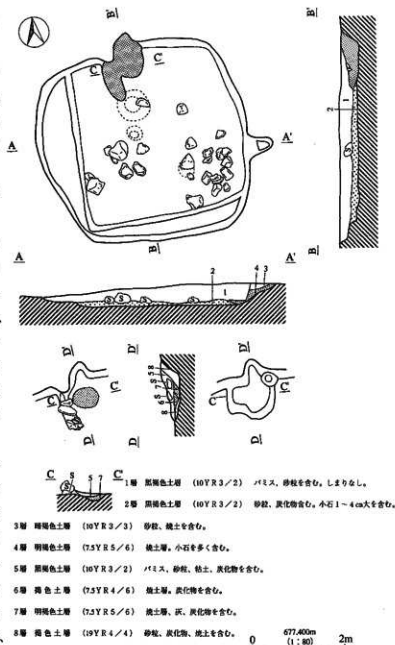
写128 H2号住居址掘方(南から)



写129 H2号住居址かまど掘方(南から)

H3号住居址

遺構は調査区の北側B-い-5グリット付近に位置し、北側に流れる湯川との距離は24mである。遺構は砂礫層に掘り込まれており、床面までの覆土は単層で黒褐色土である。規模は南北3.96m、東西4.44m、深さ0.24m（床面）を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁面は外傾しながら立ち上がるが、周囲が砂質のため非常に崩れやすい状態である。床面はやや堅さを持ち、住居址南側を中心に多くの石（軽石・安山岩等）が散在していた。ピットは確認できなかった。また、床面をさらに掘り下げた結果、住居址の西壁及び南壁のやや内側に壁面らしき段差が認められた。かまどは北壁中央及び、東壁中央の2カ所に構築されている。東かまどは焼土が僅かに認められたが、完全に破壊された状態であった。北かまどは、袖が一部残存し、火床には



第96図 H3号住居址実測図

焼土が堆積していた。これらかまどの状態から、東かまど使用後北かまどに移築したものと考えられ、本住居址は2カ所のかまどの状態、住居址の形態などから、建て替えもしくは拡張を行った可能性が考えられる。

遺物は、土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、横瓶、石製品がテンバコ2分の1箱出土している。土師器の坏は開き気味に立ち上がる体部に内面黒色処理を施し、底部は回転糸切り後、底部及びその周囲にヘラ削りを施す。甕は口縁の形態がやや「コ」の字状がかかっており、体部にヘラ削りを施す。須恵器の坏はやや開き気味に立ち上がる体部を持ち、底部はヘラ削りを施す。須恵器の甕は外面に叩き痕をもつやや厚手の土器が大半を占める。また多量に軸がかかった横瓶も出土している。

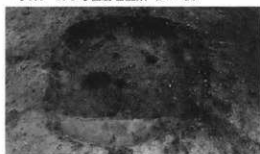
これら出土遺物の特徴から、本住居は9C前半と考えられる。



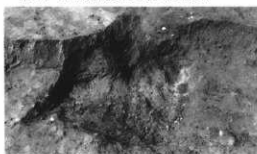
写130 H3号住居址全景（西から）



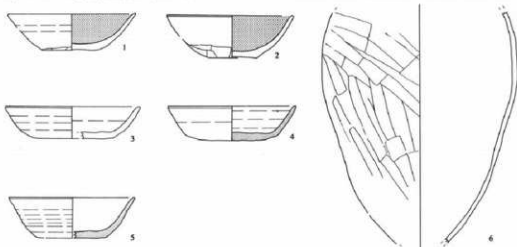
写131 H3号住居址かまど（西から）



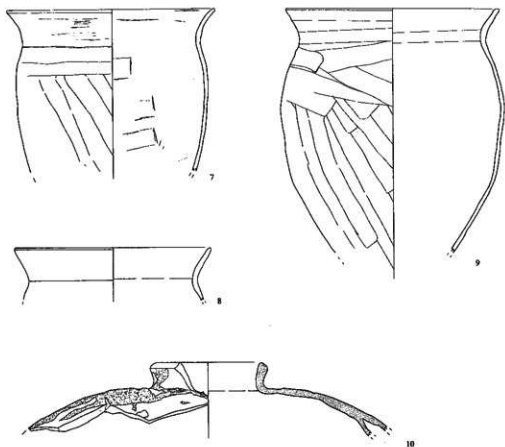
写132 H3号住居址掘方（西から）



写133 H3号住居址かまど掘方（西から）



第97図 H3号住居址出土遺物実測図（1）



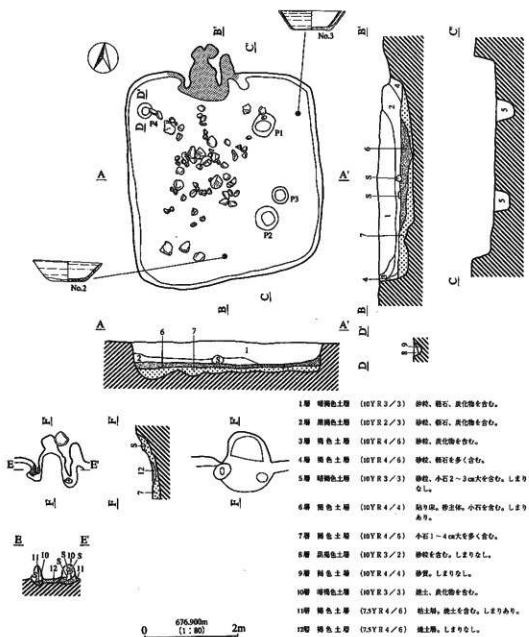
第98図 H3号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器名	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	造成	色調	備考
1	土師器	杯	(13.7)	5.8	3.8	外面 ロクロ横ナデ 底面・周辺部 ヘラ削り	内面 黒色結晶	80	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	
2	土師器	杯	(13.8)	5.2	4.5	外面 ロクロ横ナデ 底面・周辺部 ヘラ削り	内面 黒色結晶	85	良	5YR6/6 褐色	
3	土師器	杯	(14.6)	(8.3)	3.5	内外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘラ削り		45	良好	7.5YR7/6 褐色	
4	須恵器	杯	(13.5)	(7.0)	4.3	内外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘラ削り		75	良好	7.5YR7/1 灰色	火だすき
5	須恵器	杯	13.8	7.2	3.7	内外面 ロクロ横ナデ 底面 ヘラ削り		30	良好	8Y8/1 灰色	火だすき
6	土師器	壺	-	-	-	外面 ヘラ削り		40	良	2.5YR5/6 明赤褐色	
7	土師器	壺	(22.2)	-	-	口縁 横ナデ		口縁30	良好	5YR4/4 鈍い赤褐色	
8	土師器	壺	(21.0)	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁30	良好	5YR6/4 鈍い赤褐色	
9	土師器	壺	22.8	-	-	口縁 横ナデ 内面 ヘラナデ	外面 ヘラ削り	50	良好	7.5YR5/4 鈍い褐色	
10	灰釉陶器	瓶	(12.8)	-	-	口縁 横ナデ		10	良	10Y7/1 灰白色	輪付首

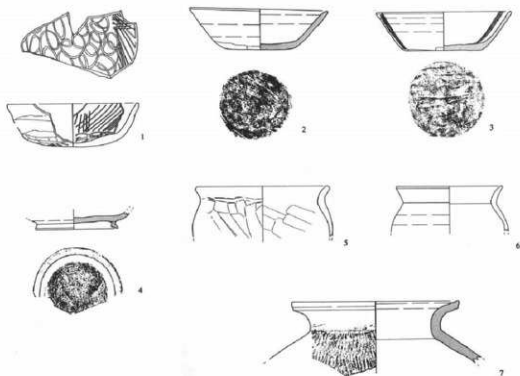
第50表 H3号住居址出土遺物観察表

H4号住居址

遺構は調査区の北側B-エー7グリット付近に位置し、北側に流れる湯川との距離は35mである。床面までの覆土は4層確認でき、1層が暗褐色土、2層が黒褐色土、3・4層が褐色土である。規模は南北4.44m、東西3.88m、深さ0.64m(床面)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼り床されており堅くしまっている。床面付近には多くの石



第99図 H4号住居址実測図



第100図 H4号住居址出土遺物実測図

(軽石・安山岩等)が散在していた。ピットは4個確認でき、このうち主柱穴は床面の東に位置するP1. 2と思われる。残りのピットは付属の小ピットと考えられる。また西側に存在すると思われた主柱穴の確認はできなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、両袖の一部が残存していた。袖部は補強材として扁平な石を利用し、その石を粘土、黒褐色土で覆うように構築していた。火床には厚さ8cmの焼土が堆積していた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、獣骨を中心にテンバコ2分の1箱出土している。土師器の坏は、やや丸みを持った底部から外硬気味に立ち上がり、底部から体部にかけてヘラ削りを施す。内面には渦巻き状の暗文を有する。土師器の甕は器厚が薄手で小さめの底部からやや開き気味



写134 H4号住居址全景(南から)



写135 H4号住居址かまど(南から)

に立ち上がるものと、小型の轆轤甕が存在する。須恵器の坏は平らにへら削りを施した底部からやや開き気味に立ち上がる。須恵器の甕は口縁が大きく外反し、外面に叩き痕を持つ。

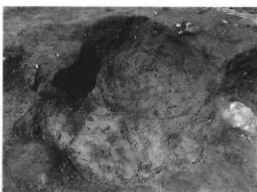
これら出土遺物の特徴から、本住居址は8C中頃と考えられる。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	状態	色調	備考
1	土師器	坏	(14.0)	10.0	4.7	内面 横文 底部 へら削り	40	良好	5YR7/6 褐色	
2	須恵器	坏	14.9	7.9	4.3	外面 ロウロ横ナデ 底部・周辺部 へら削り	80	良好	10YR8/4 鈍い黄褐色	
3	須恵器	坏	14.5	8.0	4.1	内外面 ロウロ横ナデ 底部・周辺部 へら削り	80	良好	5YR5/1 灰色	火だすき
4	須恵器	高台付坏	-	8.8	-	底面 前後承切り後へら削り後高台盛り 付け	40	良好	7.5Y5/4 鈍い褐色	
5	土師器	甕	(14.4)	-	-	外面 へら削り 内面 へらナデ	口縁25	良好	5YR2/1 黒褐色	
6	土師器	轆轤甕	(11.4)	-	-	口縁 ナデ	口縁25	良好	5YR5/6 明赤褐色	
7	須恵器	甕	(18.0)	-	-	外面 叩き	口縁25	良好	2.5Y5/1 黄灰色	

第51表 H4号住居址出土遺物観察表



写136 H4号住居址掘方(南から)



写137 H4号住居址かまど掘方(南から)



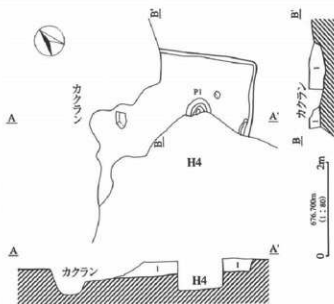
写138 H4号住居址出土獣骨

獣骨はウシとウマの骨が出土している。1. ウシ 歯冠部を欠する第2前臼歯から第2後臼歯までの歯槽の残っている下顎骨体片と、左脛骨、左中足骨が出土している。中足骨の骨体幅と骨体径と比較すると現世在来牛の口之島と見島牛との中間的な大きさである。2. ウマ 大きさは小型在来馬並かそれよりやや小さい。

H5号住居址

遺構は調査区の北側B-ネー7グリット付近に位置する。住居址の大部分は攪乱によって破壊され南側はH4に切られている。残存規模は最大で、南北1.56m、東西3.36m、深さ0.36mを測り、平面形は方形と思われる。床面は僅かに堅さを持つ。ピットは1個認められた。かまどは確認できなかった。遺物は土師器の高坏、甕、須恵器の坏、甕の小破片がビニール袋1袋出土した。

出土遺物は僅かだが、H4に切られることから本住居址は8C中頃以前の時代と考えられる。



1層 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム状、炭化物を含有、しまりややあり。

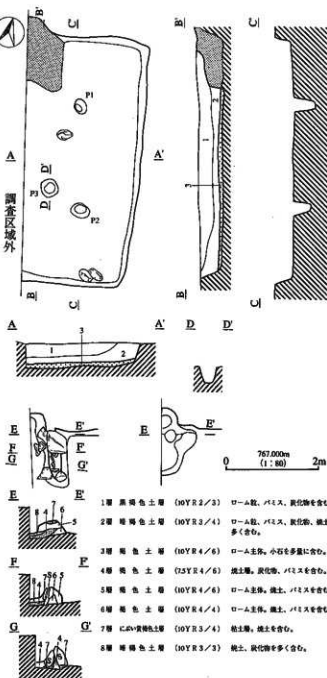
第101図 H5号住居址実測図



写139 H5号住居址全景

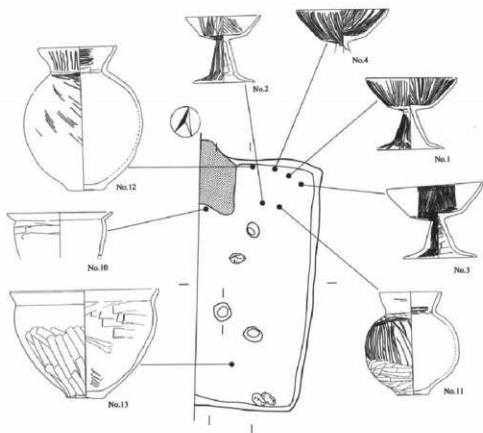
H 6号住居址

遺構は調査区北側の西端に位置し、北側に流れる湯川との距離は40mである。住居址西側は調査区外となる。(調査区西側は、以前下水道工事が行われており、遺構はすでに破壊されている) 遺構はややしまりのある砂層に掘り込まれており、床面までの覆土は2層確認でき、1層は炭化物を含む黒褐色土で、2層は炭化物、焼土を多く含む暗褐色土である。規模は調査規模で南北5.80m、東西2.44m、深さ0.45mを測り、平面形は方形と思われる。壁は垂直気味に立ち上がりしまりがある。床面は砂質だがやや堅さを持つ。ピットは3個確認でき、このうちP1、2が支柱穴と思われる。また本住居址床面からはほぼ完形の土器が多数出土した。かまどは北壁に位置し、半分は調査区外となるが片袖及び火床の一部が確認できた。袖は住居内に90cm入り込み、芯材に石を利用し、これを粘土で覆うように構築されていた。火床はほぼ円形に掘り込まれ、厚さ7cmの焼土が堆積していた。



第102図 H 6号住居址実測図

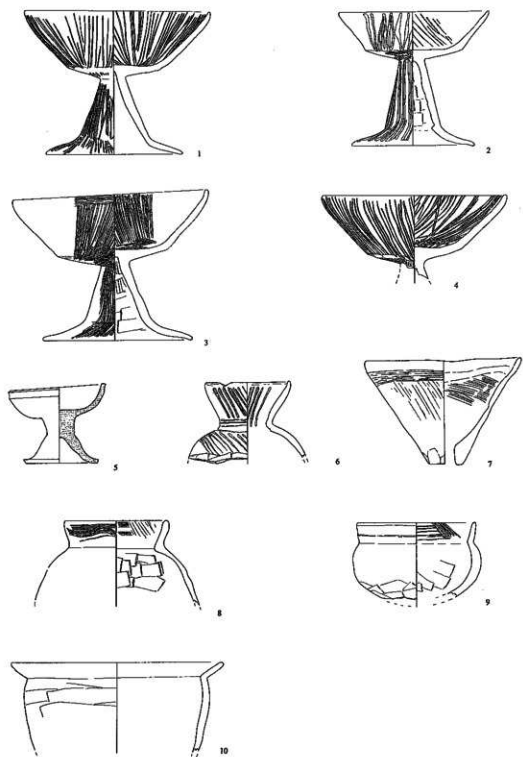
遺物は土師器の高坏、広口壺、甕、瓶、須恵器の高坏、鉄製品、石製品などテンパコ3箱出土している。1～4は土師器の高坏で、大きめの坏部に裾広がり脚部を持ち、縦方向のきめ細かい磨きを施す。5は小型の須恵器の高坏で、やや湾曲気味に立ち上がる坏部を持つ。6は小型甕で口縁内外面、体部外面に磨きを



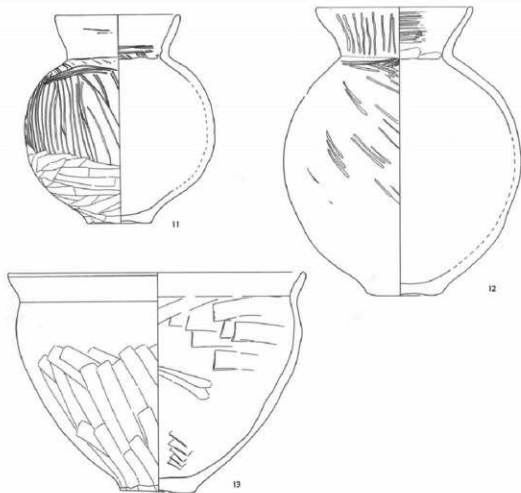
第103図 H6号住居址遺物出土位置図



写140 H6号住居址全景（遺物あり・東から）



第104图 H6号住居址出土遗物实测图(1)



第105図 H6号住居址出土遺物実測図(2)

施す。7の瓶はすり鉢状を呈し、底部は単口式で周辺部にヘラ削りを施す。9は広口壺で底部にヘラ削りを施す。11・12は甕で口縁の形態が「く」の字を呈し胴丸である。13は広口の甕で口径に比して底部は小型である。鉄製品には大小2つの鉄族が出土し、1つは大型で鉄族と言うよりは銚といった形状のものである。石製品は磨石、窪み石が出土している。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は5C後半と考えられる。



写141 H6号住居址出土鉄族?出土状況



写142 H6号住居址遺物出土状況



写143 H6号住居址かまど



写144 H6号住居址遺物出土状況（北東コーナー付近）



写145 H6号住居址遺物出土状況



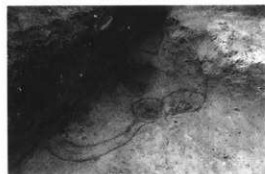
写146 H6号住居址遺物出土状況

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査			残存率%	焼成	色調	備考	
1	土師器	高坏	18.9	14.6	15.4	外部外面 内部外面	ミガキ ミガキ	内部内面 内部内面	ミガキ ヘラナデ	100	良好	7.5YR6/6 褐色	
2	土師器	高坏	16.2	13.2	14.3	外部外面 内部外面	ミガキ ミガキ	内部内面 内部内面	クレ目 ヘラナデ	95	良好	5YR7/3 鈍い赤褐色	
3	土師器	高坏	21.0	15.8	15.4	外部外面 内部外面	ミガキ ミガキ	内部内面 内部内面	ミガキ ヘラナデ	95	良好	7.5YR7/3 鈍い褐色	
4	土師器	高坏	20.0	-	-	外部外面 内部内面	ミガキ ミガキ			ほぼ100	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
5	須恵器	高坏	10.4	7.5	8.4	内外面	口縁	口縁ナデ		90	良好	N5/0 灰色	
6	土師器	小型壺	9.1	-	-	外面	ミガキ	内部内面	ヘラ削り ミガキ	25	良好	10B6/6 赤褐色	
7	土師器	甕	17.0	3.6	11.2	内外面	上半 底面	ハケ目 裏面	口縁部 折り返し ヘラ削り	100	良	7.5YR7/4 鈍い褐色	底部平口
8	土師器	甕	11.2	-	-	口縁内外面	ハケ目			20	良好	10YR7/3 鈍い黄褐色	
9	土師器	広口壺	(13.0)	-	-	外面	ヘラ削り	内部	ヘラナデ	40	良好	7.5YR7/4 鈍い褐色	
10	土師器	甕	(22.6)	-	-	外面	ヘラ削り	口縁	横ナデ	ほぼ40	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	
11	土師器	甕	13.5	6.7	22.1	外面	上半 口縁内面	ミガキ ミガキ	体部下半 ヘラ削り ハケ目	100	良好	5YR5/6 明赤褐色	
12	土師器	甕	16.8	8.0	20.9	外面	ミガキ	内部内面	ミガキ ヘラ削り	100	良	5YR5/6 明赤褐色	
13	土師器	甕	32.0	7.9	23.4	外面	ヘラ削り	内部	ヘラナデ	90	良好	10YR8/4 浅黄褐色	

第52表 H6号住居址出土遺物観察表



写147 H6号住居址全景（遺物なし・東から）



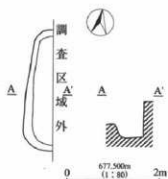
写148 H6号住居址かまど掘方



写149 H6号住居址掘方全景（東から）

H7号住居址

遺構は調査区北よりの東端B-あ-10グリットに位置する。北側に流れる湯川との距離は29mである。遺構の東側は調査区外となり、今回確認できたのは住居址西側の僅かな部分だけである。調査規模は南北2.28m、東西0.44m、深さ0.56mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁はやや外傾している。床面は堅く、直上から土器が数点出土した。かまどは認められなかった。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の甕などの土器片をビニール袋に1袋出土した。



第106図 H7号住居址実測図

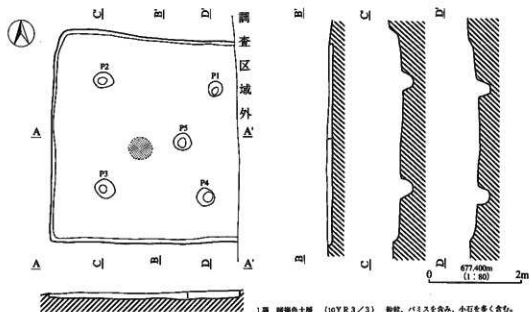
H8号住居址

遺構は調査区中央のやや北側の東端D-あ-1グリット付近に位置し、住居址東側は調査区外となる。北側に流れる湯川との距離は34mである。床面までの覆土は単層で、暗褐色土である。調査規模は南北4.32m、東西3.96m、深さ0.16m(床面)を測り、平面形は方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はしまりのない砂質であり、ピットは5個認められた。このうち主柱穴はP1~P4と思われる。また床面のほぼ中央に焼土が認められた。かまどは確認できなかった。

遺物は土師器の坏、甕の小破片がビニール袋に1袋出土している。出土遺物の大半が検出面からの出土ある。図示できたのは3点である。

1、2は土師器の坏で1はヘラ削りされた丸底の底部から立ち上がり、途中明瞭な稜を持ち口縁部に至る。2はほぼ平らにヘラ削りされた底部から開き気味に立ち上がる体部を持ち、外面体部下半にヘラ削り、口辺部にミガキ、内面にミガキを施す。3は高坏の坏部と思われ、底部周辺ヘラ削り、内面黒色処理及びミガキを施す。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は6C後半と考えられる。



第107図 H8号住居址実測図



第108図 H8号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(12.0)	(7.0)	(4.2)	底部へう削り	40	良好	10YR4/3 鈍い黄褐色	
2	土師器	坏	12.5	6.9	5.3	口辺外面ミガキ 内面ミガキ 底面・外面下半へう削り	50	良好	2.5YR6/4 鈍い赤褐色	
3	土師器	坏	(16.0)	-	-	底面周辺へう削り 内面 紫色処理・ミガキ	20	良好	10YR7/4 鈍い黄褐色	

第53表 H8号住居址出土遺物観察表

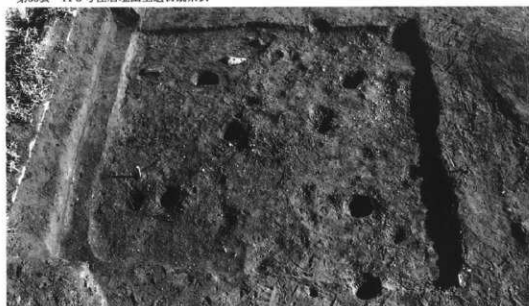
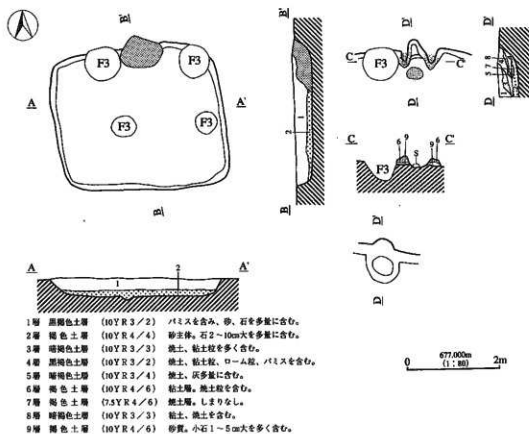


写真150 H8号住居址全景（北から）

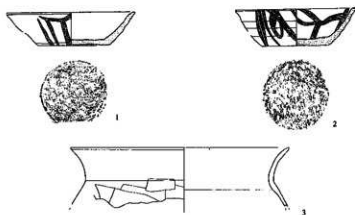
H9号住居址

遺構は調査区中央のやや北側D-ウ-3グリットに位置し、F3に切られる。北側に流れる湯川との距離は41mである。遺構は砂礫層に掘り込まれており、床面までの覆土は、かまどの覆土を除き単層である。土質は石を多く含む砂質の黒褐色土である。規模は南北2.96m、東西3.44m、深さ0.24m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がり、砂礫層に掘り込まれているため凹凸が激しい。床面も壁面同様凹凸が激しくピットは確認できなかった。かまどは北壁の東寄りに位置し、袖の一部及び火床が確認できた。袖は北壁から住居内に30cm入り込み、粘土を主な材料として構築されていた。火床はやや東西に長い楕円形状に掘り込まれており、焼土が6cmの厚さで堆積していた。煙道は火床から急激に立ち上がり、北壁外20cm付近に立ち上がる。遺物は土師器の甕、須恵器の坏、甕、磨石などテンバコ5分の1箱出土している。須恵器の坏1は底部回転系切り後無調整、2は糸切り後周縁部にヘラケズリを施す。土師器の甕3は薄手で、口縁の形態がやや「コ」の字状を呈する。

これら出土遺物の特徴から、本住居址は9C前半と考えられる。



第109図 H9号住居址実測図



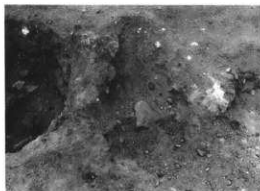
第110図 H9号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	備考	色調	備考
1	須恵器	坏	12.8	7.2	3.9	内外面 ロク口横ナデ 底部 割縁未切り	60	良好	7.5YR7/1 灰色	火だすき
2	須恵器	坏	(13.6)	(7.6)	3.5	内外面 ロク口横ナデ 底部・周辺部 ヘウ痕り	55	良	5YR6/3 鈍い褐色	火だすき
3	土師器	甕	(12.0)	—	—	口縁 横ナデ 外面 ヘウ痕り	口縁部	良好	5YR6/4 鈍い褐色	

第54表 H9号住居址出土遺物観察表



写151 H9号住居址全景(南から)

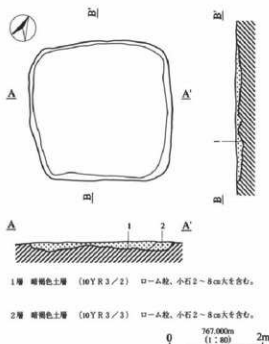


写152 H9号住居址かまど(南から)

H10号住居址

遺構は調査区中央のやや北側のD-ルー4グリットに位置し、北側を流れる湯川との距離は47mである。住居址は砂礫層に埋り込まれているが、検出作業の結果床面はすでに削られていることが判明し、掘方だけの調査となった。掘方の土層は2層確認でき、ともに暗褐色土である。規模は南北2.80m、東西2.84m、深さ0.20mを測り平面形は隅丸方形を呈する。ピット及びかまどの痕跡は認められなかった。

遺物は検出段階において、土師器の破片を中心にビニール袋1袋出土した。



第111図 H10号住居址実測図

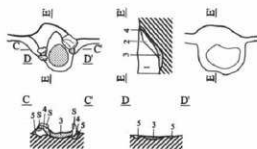
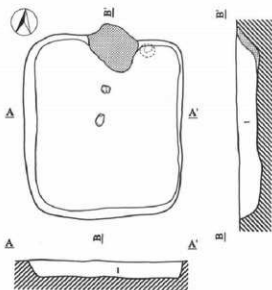
H11号住居址

遺構は調査区中央のやや北側の西端Dーエー4グリットに位置し、北側に流れる湯川との距離は50mを測る。住居址は砂礫層に掘り込まれ覆土はかまどの覆土を除くと単層で、多量の川原石を含んだ砂混じりの黒褐色土である。規模は南北3.64m、東西3.80m、深さ0.40m（床面）を測り、平面形は隅丸方形である。壁はやや外傾気味に立ち上がる。床面はしまりなく、凹凸の激しい状態である。ピットは確認できなかった。かまどは北壁のほぼ中央に位置し、袖及び火床の一部が残存していた。袖は北壁から住居内に60cm入り込み、芯材に扁平な石を利用し、これを粘土、暗褐色土で覆うように構築されていた。火床は円形に掘り込まれており厚さ9cmの焼土が堆積していた。

遺物は土師器の坏、甕、須恵器の甕、砥石、磨石などテンバコ6分の1箱出土しているが、土器の大部分は小破片で図示できるものは2点である。1は小型の甕と思われるヘラ削りによって調整された底部から湾曲しながら上部へと立ち上がる。2は碗？で底部・体部下半にヘラ削りを施す。これら出土遺物の特徴から、本住居址は平安時代のもと考えられる。



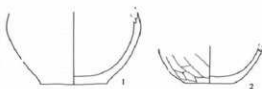
写153 H11号住居址全景（南から）



- 1層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂粒を含む。小石1~3cm、石6~15cm
 土を多量に含む。
- 2層 黒褐色土層 (10YR 3/2) 砂粒、焼土、粘土粒を含む。
- 3層 赤褐色土層 (5YR 4/6) 焼土層。炭化物を含む。
- 4層 灰黄褐色土層 (10YR 4/2) 粘土層。しまりあり。
- 5層 褐色土層 (10YR 4/4) 焼土。小石1~3cm大を含む。

0 676.900m (1:80) 2m

第112図 H11号住居址実測図



第113図 H11号住居址出土遺物実測図